



PUBLIC (公開)

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム
ドキュメントバージョン: 4.3 Support Package 4 – 2023-12-07

Business Intelligence ラウンチパッドユーザガイド

目次

1	ドキュメント履歴.....	6
2	BI ラUNCHパッド入門ガイド.....	9
2.1	このドキュメントの対象読者.....	9
2.2	ライセンス.....	9
2.3	基本概念.....	10
2.4	主要タスク.....	11
2.5	BI ラUNCHパッドへのログオン.....	11
2.6	BI ラUNCHパッドのヘルプの取得.....	12
2.7	ログアウト.....	12
3	BI ラUNCHパッドユーザインタフェースの概要.....	13
3.1	グローバルナビゲーションバー.....	13
	ユーザ設定.....	13
	検索.....	14
	Excel へのエクスポート.....	15
3.2	BI プラットフォームツールバー.....	15
	ホーム.....	16
	お気に入り.....	23
	最近使用したドキュメント.....	23
	最近の実行.....	23
	アプリケーション.....	24
4	SAP Analytics Hub への Hub アセットのプッシュ.....	25
5	BI ラUNCHパッドのパーソナライズ.....	26
5.1	アカウントの管理.....	26
	自分の情報へのアクセス.....	27
	パスワードの変更.....	27
	データソース参照に対するデータベース認証情報の定義.....	28
5.2	アカウント基本設定.....	29
	ページの基本設定.....	29
	優先表示ロケールおよびタイムゾーンの基本設定の設定.....	32
5.3	BI ラUNCHパッドの表示のカスタマイズ.....	33
5.4	BI ラUNCHパッドのホームページのカスタマイズ.....	33
6	コンテンツオブジェクトの編成.....	35
6.1	フォルダの作成.....	35

6.2	フォルダへのドキュメントのアップロード	36
6.3	フォルダのプロパティの設定	36
6.4	フォルダの移動またはコピー	37
6.5	フォルダの削除	37
6.6	デフォルト値の CMC から BI ラUNCHパッドへのマッピング	38
6.7	フォルダまたはカテゴリへのリンクのアクセス	38
6.8	コンテンツオブジェクトへの迅速なアクセス	39
	ハイパーリンクの使用	39
	外部リンク	40
	コンテンツオブジェクトへのショートカットの作成	40
	OpenDocument URL のコピー	40
	将来表示するためのレポートの固定	41
6.9	コンテンツオブジェクトの送信	42
7	カテゴリの使用	43
7.1	カテゴリの作成	43
7.2	カテゴリを開く	43
7.3	カテゴリの削除	43
7.4	お気に入りとしてのカテゴリの指定	44
7.5	カテゴリへのコンテンツオブジェクトの割り当て	44
8	情報分類	45
8.1	分類を適用する方法	45
9	コンテンツオブジェクトのスケジュール	46
9.1	概念	46
	インスタンス	46
	置換	47
	定期的なスケジュール	47
	プロンプト	49
	形式	50
	キャッシュ	52
	イベント	52
	スケジューリングサーバグループ	52
	出力先	53
	パーソナライゼーション	59
	スケジュールの配信ルール	62
	公開の配信ルール	63
9.2	ドキュメントのスケジュール	63
	ドキュメントをスケジュールする	64
	インスタンスを一時停止および再開する	65
	インスタンスの出力ファイル形式	65

	ドキュメントのインスタンスを表示する.....	67
	Crystal レポートインスタンスの書式設定オプション.....	68
	定期スケジュールの Crystal Reports 2020 OData サービス.....	72
	BI 受信ボックスからインスタンスを削除する.....	76
9.3	オブジェクトパッケージのスケジュール.....	76
10	パブリケーションの使用.....	78
10.1	BI ラウンチパッドでのパブリケーションの作成.....	78
10.2	パブリケーションのデザイン.....	79
	編集用のパブリケーションを開く.....	79
	パブリケーションでの一般プロパティの定義.....	79
	ソースドキュメントの追加.....	80
	パブリケーションの出力先の選択.....	80
	定期的なパターンの選択.....	88
	Enterprise パブリケーションまたは動的受信者.....	91
	SAP 受信者用のパブリケーション.....	95
	Live Office 向けパブリケーション.....	95
	パブリケーションソースドキュメントのパーソナライズされたプレースホルダの選択.....	95
	電子メールフィールドのパーソナライズされたプレースホルダの選択.....	96
	電子メールへの動的ソースドキュメントのコンテンツの埋め込み.....	96
	パブリケーションでの Crystal Reports の設定.....	97
	Web Intelligence ドキュメントのデザイン.....	110
	オプションのパブリケーションタスク.....	112
10.3	パブリケーションの実行およびパブリッシュされたインスタンスの使用.....	118
	パブリケーションのテスト.....	118
	パブリケーションの実行のスケジュール.....	118
	購読および購読解除.....	119
	デフォルトの Enterprise の場所に送信されたパブリケーションの表示.....	120
	BI 受信ボックスに送信されたパブリケーションの表示.....	121
	パブリケーションインスタンスの再配布.....	121
	失敗したパブリケーションの再試行.....	122
10.4	パブリケーションパフォーマンス.....	123
	ソースドキュメントの追加に関する推奨事項.....	125
	動的受信者ソースの使用に関する推奨事項.....	127
	電子メールのパブリケーションインスタンスの送受信に関する推奨事項.....	127
11	インスタンスの管理.....	129
11.1	オブジェクトの履歴のインスタンスの表示.....	129
11.2	特定の日付のすべての利用可能なインスタンスの表示.....	129
11.3	インスタンスの使用.....	131
	スケジュールタブを使用したインスタンスの操作.....	131
	履歴ページによるインスタンスの操作.....	132

	失敗したインスタンスの詳細なエラーメッセージ.....	132
12	アラート.....	133
12.1	コンセプトのアラート.....	133
	アラートソース.....	134
	アラートと Crystal レポートアラート通知の相違点.....	135
	アラートワークフロー.....	135
	アラートに必要なアクセス権.....	136
	ソースオブジェクトの警告.....	138
	アラート通知.....	138
12.2	アラートの購読と購読解除.....	138
12.3	他のユーザのアラートの購読.....	139
12.4	アラートからのユーザの除外.....	139
12.5	アラートソースのカスタムアラート設定の管理.....	140
13	削除されたアイテムの管理.....	141
13.1	アイテムをごみ箱から復元する.....	141
13.2	アイテムのリサイクルビンからの完全な削除.....	142
14	BI ワークスペース.....	143
15	BI ラウンチパッドにおけるアプリケーションの処理.....	144
15.1	BI ラウンチパッドにおけるアプリケーションの開始.....	144
15.2	認可トークン.....	144
15.3	Crystal Reports での作業.....	145
	Crystal Reports の表示.....	145
	Crystal Reports for Enterprise の起動.....	154
15.4	BI ラウンチパッドでの BEx Web アプリケーション.....	155
	BI ラウンチパッドにおける BEx Web アプリケーションへのアクセス.....	155
	BEx Web アプリケーションをブックマークとして保存.....	156

1 ドキュメント履歴

このドキュメントで最も重要な変更の概要を下の表に示します。

バージョン	日付	説明
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3 SP3	2022 年 12 月	<p>以下が追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none">BI ラウンチパッドでのバナーメッセージHSTS - HTTP の厳格な移送セキュリティのサポート将来表示するためのレポートの固定[設定] ページの改善[ドキュメント] タイルおよび [フォルダ] タイルの最初の列幅が固定されました。[インスタンス] ページに [スケジュール設定者] フィルタが導入されました。[その他] ボタンが導入されました。一覧ビューモードでお気に入りの編集が許可されるようになりました。[テーブル] 列の並べ替えおよびフィルタのオプションが改善されました。
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3 SP2	2022 年 1 月	<p>BI ラウンチパッドの列基本設定に [フォルダパス] という列が追加されました。</p>
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3 SP2	2021 年 12 月	<p>次のトピックが追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none">データソース参照に対するデータベース認証情報の定義 [28 ページ] <p>以下のトピックが更新されました。</p> <ul style="list-style-type: none">アカウントの管理 [26 ページ]ホーム [16 ページ]インスタンス [18 ページ]最近の実行 [23 ページ]自分の情報へのアクセス [27 ページ]
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3 SP1	2020 年 12 月	<p>Fiorified BI ラウンチパッド の名前が BI ラウンチパッド に変更されました。</p>

バージョン	日付	説明
		<p><i>Fiorified</i> という用語への参照は削除されます。</p> <p>次のトピックが追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ヒント [75 ページ] <p>次のトピックが更新されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • BI ラウンチパッドのヘルプの取得 [12 ページ] • ログアウト [12 ページ] • お気に入り [23 ページ] • ユーザ設定 [13 ページ] • フォルダ [21 ページ] • 電子メールに対するオブジェクトのスケジュール • 出力先 [53 ページ] • 出力先オプション • パブリケーション出力先 [81 ページ] • BI ラウンチパッドの表示のカスタマイズ [33 ページ] • カレンダー形式 • 公開された Crystal Reports データ [73 ページ] • 拡張認証情報マッピング • CMC におけるユーザのデータソース参照に対するデータベース認証情報の定義
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3	2020 年 6 月	<p>次のトピックが追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • BI プラットフォームツールバー [15 ページ] • ホーム [16 ページ] • お気に入り [23 ページ] • 最近使用したドキュメント [23 ページ] • 最近の実行 [23 ページ] • アプリケーション [24 ページ] • Crystal Reports for Enterprise の起動 [154 ページ] • ホームページでのアプリケーションタイルグループへのアクセス [154 ページ]

バージョン	日付	説明
		<ul style="list-style-type: none"> • Crystal Reports レポートでのアクションの変更 [155 ページ] • ページの基本設定 [29 ページ] • BI ラウンチパッドの表示のカスタマイズ [33 ページ] • BI ラウンチパッドのホームページのカスタマイズ [33 ページ] <p>次のトピックが更新されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • インスタンスの出力ファイル形式 [65 ページ] • Crystal レポートインスタンスの書式設定オプション [68 ページ] • 特定の日付のすべての利用可能なインスタンスの表示 [129 ページ] • Crystal レポートビューア [145 ページ]

2 BI ラUNCHパッド入門ガイド

新しい BI ラUNCHパッドは、従来の BI ラUNCHパッドアプリケーションの最新バージョンであり、生産性を最大化するように構築されています。ユーザインタフェース (UI) を単純で直感的にするユーザエクスペリエンスを備えています。大幅に簡略化された UI により、BI オブジェクトへのアクセス、表示、整理、および管理は非常に簡単になりました。このドキュメントには、BI ラUNCHパッドの使用方法的詳細と手順が記載されています。

BI ラUNCHパッドアプリケーションは Web ブラウザで実行され、BI プラットフォームでオブジェクトを処理するための主要なインタフェースとなります。BI ラUNCHパッドを使用して、以下のタスクを実行します。

- Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメント、およびその他のオブジェクトにアクセスして構成する。
- 情報を Web ブラウザで表示し、他のビジネスアプリケーション (Microsoft Excel など) にエクスポートし、指定した場所に保存する。
- ドキュメントを作成および編集できる。
- アナリティクスツールを使用して、ビジネス情報を詳細に調査する。

BI ラUNCHパッドのホームページをカスタマイズできるようになりました。

① 注記

- 従来の BI ラUNCHパッドは廃止され、同じ URL `http://<ホスト名><ポート番号>/BOE/BI` でアクセス可能な新しい BI ラUNCHパッドに置き換えられました。

2.1 このドキュメントの対象読者

このドキュメントは、BI プラットフォームおよび BI ラUNCHパッドを使用して Web を介したオブジェクト操作を行うユーザを対象としています。

プラットフォームの詳細については、SAP Help Portal で [Business Intelligence ラUNCHパッドユーザガイド](#) および [Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド](#) を参照してください。

2.2 ライセンス

BI プラットフォームの各種ユーザライセンスにより、特定のタスクおよびアプリケーションへのアクセスが許可または制限されます。所有しているライセンスによっては、一部のアプリケーションへのアクセスまたは BI リポジトリにおける一部のタスクの実行が不可能になる場合があります。

BI プラットフォームでは、以下のタイプのユーザライセンスをサポートしています。

- 同時接続ユーザ

- 登録ユーザ

① 注記

登録ユーザの同時ログオンセッション数は、10 に制限されています。登録ユーザが 11 番目の同時ログオンセッションにログインしようとする、該当するエラーメッセージが表示されます。ログインするには、既存のセッションの 1 つをリリースする必要があります。

お持ちのライセンスについては、システム管理者に問い合わせてください。ライセンスの詳細については、SAP Help Portal にある、[Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド](#)を参照してください。

2.3 基本概念

BI ラウンチパッドの基本概念を一読してください。実行するタスクによっては、該当しない概念もあります。

用語	定義
BI オブジェクト	オブジェクトは、BI プラットフォームまたはその他のソフトウェアで作成され、プラットフォームリポジトリに保存され管理されるドキュメントまたはファイルです。
カテゴリ	カテゴリは、フォルダの代替となる組織的な構成です。オブジェクトの分類に使用します。
スケジュール	スケジュールは、指定した時間に自動的にオブジェクトを実行するプロセスです。スケジュールによって、オブジェクト内の動的コンテンツまたはデータの最新表示、インスタンスの作成、ユーザへのインスタンスの配布、ローカルへの保存が実行されます。
イベント	<p>イベントは、BI プラットフォームシステム内のオカレンスを表すオブジェクトです。イベントは、次の目的に使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スケジュールされたジョブの実行後にアクションをトリガする、スケジュール依存関係として動作する。 • アラート通知をトリガする。 • プラットフォームのパフォーマンスを監視する。
カレンダー	カレンダーは、スケジュールされたジョブの実行日をカスタマイズしたリストです。
インスタンス	インスタンスは、オブジェクトを実行した時刻以降のデータを含むオブジェクトのスナップショットです。

用語	定義
アラート	アラートは、BI プラットフォームでイベントが発生するとユーザおよび管理者に通知するプロセスです。

2.4 主要タスク

ユーザライセンスとアクセス権限に応じて、BI ラウンチパッドで以下のタスクを実行できます。

- オブジェクトの表示
- オブジェクトの追加
- オブジェクトの作成
- 追加したオブジェクトの変更および管理
- ユーザへのコンテンツ配信
- BI ラウンチパッドユーザインタフェースに対する個人の基本設定の実行

2.5 BI ラウンチパッドへのログオン

BI ラウンチパッドアプリケーションにログオンするには、コンピュータに Microsoft Internet Explorer、Firefox、Chrome、または Safari をインストールしておく必要があります。

BI ラウンチパッドでは RESTful Web サービスが使用されます。BI プラットフォーム RESTful Web サービスが CMC で適切に設定され、ログインおよびその他のワークフローが正常に行われるようにする必要があります。詳細については、[RESTful Web サービスの設定](#) および SAP Knowledge Base Article [2576124](#) を参照してください。

1. Web ブラウザで、BI ラウンチパッドの URL を入力します。

① 注記

URL は、`http://<WebServer>:<PortNumber>/BOE/BI` となります。ここで、<WebServer> は、BI プラットフォームの Web サーバ名、<PortNumber> はプラットフォームのポート番号です。

システム管理者がラウンチパッドのカスタム URL を設定している場合、管理者に Web サーバの名称、ポート番号、または URL を問い合わせる必要があることがあります。

システム名を入力する必要はありません。ただし、一部のエンタープライズシステムでは要求される場合があります。

2. 入力を要求されたら、[システム] フィールドに Central Management Server (CMS) の名前を入力します。
3. [ユーザ名] フィールドと [パスワード] フィールドに、ログオン認証情報を入力します。
4. [ログオン] を選択します。

2.6 BI ラUNCHパッドのヘルプの取得

BI ラUNCHパッドアプリケーションに適応して使用できるように、製品マニュアル (PDF および HTML 形式)、組み込みヘルプ、ビデオチュートリアルなどのさまざまなヘルプリソースを利用することができます。

『Business Intelligence ラUNCHパッドユーザガイド』などの BI ラUNCHパッドの製品マニュアルに、SAP Help Portal からアクセスすることができます。また、さまざまな BI スイートワークフローのウォークスルーデモビデオが <https://wiki.scn.sap.com/wiki/pages/viewpage.action?pageId=449905204> にあります。

BI 製品に関連するその他のチュートリアルについては、<https://www.sap.com/LearnBI> を参照してください。

製品の組み込みヘルプから、ソフトウェア出荷時に利用可能なすべてのドキュメントにアクセスします。これには、BI ラUNCHパッドにある (ヘルプ) オプションからアクセスすることができます。BI ラUNCHパッドアプリケーションの組み込みヘルプにアクセスするには、以下を実行します。

1. [ホーム] ページで、 (ユーザ設定) を BI ラUNCHパッドの右上隅から選択します。

以下のオプションがドロップダウンに表示されます。



- 設定
- ホームページ編集
- バージョン情報
- ヘルプ
- ログアウト

2.  (ヘルプ) オプションを選択します。

組み込みアプリケーションヘルプが開きます。

2.7 ログアウト

セッションを終了し、BI ラUNCHパッドからログアウトする場合は、以下の手順を実行します。

1. [ホーム] ページで、 (ユーザ設定) を BI ラUNCHパッドの右上隅から選択します。
2. ドロップダウンから、 (ログアウト) オプションを選択します。

アプリケーションから正常にログアウトして、ログイン画面に戻ります。

3 BI ラUNCHパッドユーザインタフェースの概要

BI ラUNCHパッドに最初にログインしたときに、デフォルトのユーザインタフェースが表示されます。それを、そこで実行するタスク用にカスタマイズすることができます。


BI ラUNCHパッドの [ホーム] ページには、以下の要素が含まれます。






- グローバルナビゲーションバーによって、[ユーザ設定]、[最近の表示]、および [通知] 間を移動することができます。[通知] を使用すると、管理者は、CMC からユーザにアラートメッセージを送信することができます。
- アラートメッセージは、通知ポップアップとして BI ラUNCHパッド画面の右上隅に表示されます。
- BI ラUNCHパッド内で検索することもできます。Web アシスタントは、アプリケーションのガイドツアーを提供します。
- BI プラットフォームツールバーによって、[ホーム]、[お気に入り]、[最近使用したドキュメント]、[最近の実行]、[アプリケーション] などのさまざまなタブの間を移動することができます。
- ワークスペースは、コンテンツを管理するための [カテゴリ]、[フィルタ] などのオプションで構成されています。

新しい BI ラUNCHパッドは、タスクに簡単に集中できるように設計された、更新されたユーザエクスペリエンスを備えています。新しいインタフェースでは、パネル、バー、ウィンドウ、タイルなどの要素を使用して、ドキュメントおよびファイルを作成および管理することができます。これらの要素の任意の配置により、ユーザインタフェースが向上しています。


3.1 グローバルナビゲーションバー

3.1.1 ユーザ設定


 [ユーザ設定] ページで、自分のアカウント情報にアクセスし、個人設定を設定することができます。ユーザ設定を使用して、以下のアクションを実行することができます。

- ユーザの  [設定] の管理
-  [ホームページ編集] オプションを使用して、用法および優先度に応じて BI ラUNCHパッドのタイルを再配置し、ファイルを [お気に入り] にマーク
- 製品の  [バージョン情報] の取得
- 製品内の  [ヘルプ] の検索
- アプリケーションの  [ログアウト]

[ユーザ設定] ページに移動するには、以下を実行します。

1. BI ラUNCHパッドにログオンします。
2. ホームページの右上隅にある  (ユーザ設定) をクリックします。

[ユーザ設定] ドロップダウンでは、実行するさまざまなアクションにアクセスすることができます。

- グローバルナビゲーションバーの  (ユーザプロフィール) アバター (アイコン) が、テキストアバターに変更されました。ユーザに対して表示される文字にカーソルを合わせると、CMC の [プロパティ: 管理者] ページにおいて定義された [アカウント名] が表示されます。例
 - [アカウント名] が [管理者] として定義されている場合、BI ラUNCHパッドのテキストアバターは、[ユーザ] アイコンおよびホバーに [管理者] の [A] と表示されます。
 - [アカウント名] の下に表示される [フルネーム] が [John Cesar] と定義されている場合、BI ラUNCHパッドのテキストアバターは [JC] と表示されます。また、ホバーにはこのフルネームが表示されます。
 - [フルネーム] が [John Cesar Shepherd] と定義されている場合、BI ラUNCHパッドのテキストアバターは [JS] と表示されます。また、ホバーにはこのフルネームが表示されます。
- [設定] ページの [ユーザアカウント] タブで、ユーザの [アカウント情報] を確認することができます。
- 以前は、[設定] をクリックした場合、[アカウント基本設定] ページにリダイレクトされました。現在は、[設定] をクリックした場合、[ユーザアカウント] ページにリダイレクトされるようになっています。
- 以前は、[BI ラUNCHパッド] というアプリケーション名がツールバーの中央に表示されました。しかし、[現在開いているドキュメント] を表示しようとした場合に、スペース上の制約があるため、長いドキュメント名が完全に表示されませんでした。現在は、スペースを広げるためツールバーの [ようこそ: 管理者] という挨拶が削除されたことにより、ドキュメント名を完全に表示できるようになりました。

3.1.2 検索

BI ラUNCHパッド検索を使用すると、BI ラUNCHパッドリポジトリ内のコンテンツを検索することができます。検索テキストを入力すると、BI ラUNCHパッド内の検索機能によって一致の検索が開始されます。

検索ドロワで使用可能な以下のフィルタによって、フィルタリングされた検索結果を表示することができます。

- フィールド: デフォルトですべてのオブジェクトのメタデータフィールド (タイトル、説明、およびキーワード) を検索するように設定されます。タイトルのみを検索するように切り替えることができます。
- タイプ: デフォルトでは [すべてのドキュメント] に設定されます。特定のドキュメントタイプ (Web Intelligence や Crystal Reports など) をフィルタするように切り替えたり、[すべて] に切り替えてすべてのリポジトリ管理オブジェクト (ユーザやジョブなど) を検索したりできます。
- 保存場所: ドキュメントまたはオブジェクトを親フォルダでフィルタできます。
- 最新表示時刻: 最新表示日付範囲でフィルタできます。

Enter キーを押して、すべての結果を表示することができます。

入力中の検索文字列の認識

入力中に、検索機能は、検索テキスト内の単語と一致する結果を探します。検索テキストへの一致は、オブジェクトのキーワード、タイトル、説明、および所有者情報に基づいて実行されます。クイック検索の結果は現在のページの上部に表示され、Enter キーを押した後の) すべての結果は別のすべての結果のページに表示されません。

一致した語の強調表示

検索テキストがオブジェクトのタイトルや説明に含まれる語と一致すると、一致した語は太字で表示されます。

ファセットおよび検索結果のグループ化

レポートフィールドによるファセットのグループ分けは、以下のドキュメントタイプで使用可能です。Crystal Reports、Web Intelligence レポート、Agnostic、テキスト、Adobe Acrobat、Microsoft PowerPoint、Microsoft Word、Microsoft Excel、リッチテキスト、Design Studio、Analysis Office、Lumira など。

検索から多くの結果が生成される場合、BI ラウンチパッドでは、その結果情報をファセット (つまりグループ) に分類します。ファセットを選択して、そのファセットの検索結果を表示することができます。検索結果は次のファセットに分類されます。

- フィールド
- タイプ
- 場所
- 最新表示時刻

各ファセットには、検索結果に表示されるオブジェクトが割り当てられます。ファセットは、メタデータに基づいて生成されます。

3.1.3 Excel へのエクスポート

関連するドキュメントをエクスポートするため、BI ラウンチパッドの下記の場所でダウンロードボタン ([一覧表示されたテーブルアイテムを Excel でエクスポート](#)) が追加されました。

これは以下の場所で使用できます。

- フォルダ
- カテゴリ
- ドキュメント
- インスタンス
- リサイクルビン

3.2 BI プラットフォームツールバー

BI ラウンチパッドのホームページ内のツールバーを使用すると、ワークスペース内のさまざまなタイルグループを表示して移動することができます。これにより、ワークスペースに対応するタイルグループが表示されます。

BI ラウンチパッドツールバーでは、以下のグループを利用できます。

- [ホーム \[16 ページ\]](#)

- [お気に入り \[23 ページ\]](#)
- [最近使用したドキュメント \[23 ページ\]](#)
- [最近の実行 \[23 ページ\]](#)
- [アプリケーション \[24 ページ\]](#)

各グループのユーザインタフェースの詳細については、以降のトピックで説明しています。

3.2.1 ホーム

このグループにより、コンテンツオブジェクトへのアクセスが容易になります。これには、特定の機能を持つさまざまなタイルが含まれています。各タイルに存在するレポートまたはアラートに対して複数のタスクを実行することができます。

[ホーム] グループは、以下のタイルから構成されています。

- [ドキュメント \[16 ページ\]](#)
- [インスタンス \[18 ページ\]](#)
- [カテゴリ \[19 ページ\]](#)
- [フォルダ \[21 ページ\]](#)
- [BI 受信ボックス \[22 ページ\]](#)
- [ごみ箱 \[22 ページ\]](#)




① 注記

列幅を以下の場所で変更できるようになりました。

- フォルダ
- カテゴリ
- ドキュメント
- インスタンス
- リサイクルビン

3.2.1.1 ドキュメント

[ホーム] ページの [ドキュメント] タイルには、BI ラウンチパッドに存在するコンテンツオブジェクト (レポート) がすべて表示されます。

[ドキュメント] ページには、レポートを  (タイルまたはグリッド) ビューと  (一覧) ビューで表示する 2 つのオプションが含まれます。また、*** (その他) アイコンの隣に  (最新表示) オプションが表示されます。新たに追加された [自動最新表示] オプションを使用すると、スケジュールの [履歴] ページが自動的に最新表示になり、レポート実行ステータスが表示されます。[ドキュメント] ページには、次の列が表示されます。

- **タイトル:** レポートのタイトルが表示されます。

- **お気に入り**: お気に入りとしてマークされているレポートのお気に入りアイコンが表示されます。
- **タイプ**: レポートのタイプが表示されます。
- **説明**: レポートの概要が表示されます。
- **最終更新日時**: レポートの最終更新日時が表示されます。

ページ基本設定の **[設定]** を変更して、表示する列を選択できます。ページ基本設定の詳細については、「ページ基本設定」を参照してください。

選択したレポートのタイプに応じて、以下のローカルアクションを実行できます。

アクション	説明
表示	選択したレポートの詳細を表示できます。
最新のインスタンスを表示	レポートの最新のインスタンスを表示できます。
変更	Web Intelligence レポートの内容を編集できます。
プロパティ	次のようなドキュメント詳細を編集できます。 <ul style="list-style-type: none"> • タイトル • 説明 • キーワード
スケジュール	レポートをスケジュールできます。
モバイルプロパティ	選択したレポートは、受信者のモバイル BI 受信ボックスで表示できます。
履歴	レポートの履歴インスタンスを表示できます。
ダウンロード	.lumx ドキュメントをダウンロードできます。
カテゴリ	単一または複数のカテゴリにレポートを割り当てることができます。
お気に入りに設定	レポートをお気に入りとしてマークできます。
詳細	次のような追加詳細を表示できます。 <ul style="list-style-type: none"> • タイプ • 所有者 • 作成日 • 最終更新日時 • 最終実行日時 • ID • CUID • ロケール • フォルダパス • ドキュメントリンク

アクション	説明
送信先	レポートは以下の宛先に送信することができます。 <ul style="list-style-type: none"> デフォルトの <i>Enterprise</i> の場所 BI 受信ボックス 電子メール FTP サーバ ファイルシステム SFTP サーバ
削除	選択したレポートを削除できます。

複数のレポートを選択した場合は、以下のアクションを実行できます。

- お気に入りに設定
- 削除
- 送信先

① 注記

- ページを下にスクロールすると、レポート数が更新されます。
- レポートは、レポートのタイトル(アルファベット順) および最終更新日時に基づいて(昇順/降順で) ソートできます。

3.2.1.2 インスタンス

指定された時刻に自動的に実行されるよう、オブジェクトをスケジュールできます。スケジュールしたオブジェクトが正しく実行されると、インスタンスが作成されます。インスタンスは、オブジェクトの実行時のデータを含むオブジェクトのバージョンです。

[[インスタンス](#)] ページでは、特定の日付範囲のインスタンスの一覧を表示できます。日付範囲を選択するには、カレンダーウィジェットで開始日と終了日を指定できます。選択したインスタンスのステータスに応じて、さまざまなアクションを実行できます。複数のインスタンスを選択して、それらのインスタンスに対してアクションを実行することもできます。

インスタンスは、インスタンスの以下のステータスに基づいてフィルタできます。

- 成功
- 一部成功
- 失敗
- 実行中
- 定期
- 一時停止
- 期限切れ

また、レポートタイプに基づいてインスタンスをフィルタすることもできます。インスタンスのフィルタには、以下のレポートタイプを使用することができます。

- [パブリケーション](#)
- [分析ワークブック](#)
- [Crystal Reports](#)
- [Lumira ドキュメント](#)
- [Web Intelligence](#)
- [Adobe Acrobat](#)
- [Microsoft Excel](#)
- [テキスト \(CSV、CSV および HTML アーカイブ\)](#)

インスタンスタイトルに基づいてインスタンスを検索することもできます。

BI ラUNCHパッドで列の基本設定を設定して、[\[インスタンスタイトル\]](#)、[\[タイプ\]](#)、[\[ステータス\]](#)、[\[作成者\]](#)、[\[インスタンスの日時\]](#)、[\[有効期日\]](#)などのインスタンスの詳細を表示できます。

[\[有効期日\]](#) 列は、定期インスタンスの最後の日付についての情報を示します。BI ラUNCHパッドの列の基本設定でこの列を設定できます。列のカスタマイズの詳細については、[列基本設定 \[31 ページ\]](#)のトピックを参照してください。管理者は、CMC で基本設定を設定することで、ユーザ/ユーザグループのこの列を設定できます。設定が完了すると、[\[インスタンス\]](#) ページに表示されます。

スケジュール済みドキュメントでの自動最新表示:

これまでは、[\[インスタンスをスケジュール\]](#) ページでスケジュール済みインスタンスの現在の [\[ステータス\]](#) ([\[成功\]](#) または [\[失敗\]](#)) を把握するには、[\[最新表示\]](#) ボタンを手動でクリックしなければなりませんでした。

この面倒な処理を不要にするため、[\[自動最新表示\]](#) ボタンが [\[インスタンスをスケジュール\]](#) ページに追加されました。

- [\[自動最新表示\]](#) ボタンを有効化します。
- スケジュールされるインスタンスを選択します。
- 右クリックして [\[今すぐ実行\]](#) を選択します。

[\[自動最新表示\]](#) ボタンが有効化されると、ページが継続的に最新表示され、スケジュール済みインスタンスの現実の [\[ステータス\]](#) ([\[成功\]](#)、[\[失敗\]](#)、または [\[実行中\]](#)) が表示されます。

また、[\[インスタンスをスケジュール\]](#) ページに、インスタンスを自動的に Excel 一覧形式でダウンロードするための [\[ダウンロード\]](#) ボタンも追加されました。

- ダウンロードまたはエクスポートするインスタンスを選択します。
- [\[ダウンロード\]](#) ([\[一覧表示されたテーブルアイテムを Excel でエクスポート\]](#)) ボタンをクリックします。
- [\[ドキュメントのエクスポート\]](#) ウィンドウが表示され、そこに生成済みのファイル番号が表示されます。
- [\[ダウンロード\]](#) フォルダに、ダウンロードされたファイルが保存されます。

3.2.1.3 カテゴリ

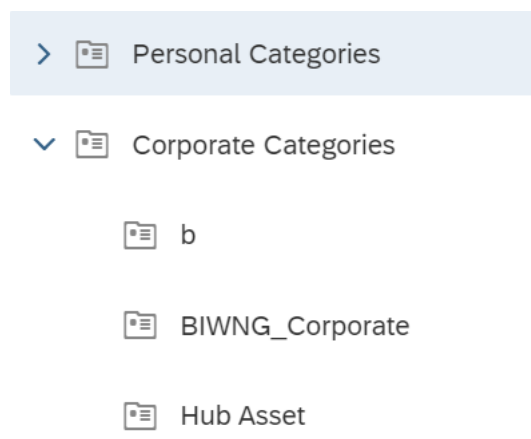
[\[ホーム\]](#) タブの [\[カテゴリ\]](#) タイルには、アクセス権限のあるカテゴリの数が表示されます。[\[カテゴリ\]](#) タイルをクリックして、カテゴリページに移動します。

BI ラUNCHパッドでは、会社用カテゴリ (パブリック) と個人用カテゴリの両方がサポートされます。

個人用カテゴリ: 任意の数の個人用カテゴリを作成し、コンテンツオブジェクトを整理することができます。

会社用カテゴリ: これらのカテゴリは、すべてのユーザがアクセス可能であり、通常は管理者または適切なアクセス権限を持つユーザによって作成されます。

Hub アセット: これは新しい会社用カテゴリであり、このカテゴリにマッピングされた BOE ドキュメントは、自動的にアセットとして SAP Analytics Hub にプッシュされます。このカテゴリには、ドキュメントリンクのみが含まれます。



詳細については、[SAP Analytics Hub への Hub アセットのプッシュ \[25 ページ\]](#)を参照してください。


ユーザインタフェース


[カテゴリ] ツリービューには、個人用カテゴリと会社用カテゴリの両方が表示されます。ツリーを展開すると、カテゴリおよびサブカテゴリ (存在する場合) が表示されます。

[カテゴリ] リストビューには、2 つのパネルがあります。

パネルについて: カテゴリブレッডクラムナビゲータで構成されます。


たとえば、個人用カテゴリ/販売/Webi。また、オブジェクトの説明と最終更新タイムスタンプを表示します。

コンテンツパネル: そのカテゴリ固有のカテゴリおよびレポートをリストします。カテゴリの作成は、 (追加) アイコンをクリックして行うことができます。

 (最新表示) アイコンを使用して、ページを最新表示できます。[自動最新表示] オプションを使用すると、スケジュールの [履歴](#) ページが自動的に最新表示になり、レポート実行ステータスが表示されます。

テーブルの一部の列で並べ替え (昇順/降順) を実行できます。*** (その他) アイコンにより、カテゴリ内のコンテンツオブジェクトの単一または複数選択に基づいてさまざまな操作を実行することが可能です。

カテゴリ内でオブジェクトをマークするか、カテゴリそのものをお気に入りに設定することができます。カテゴリの詳細については、このドキュメントのカテゴリの使用セクションを参照してください。

これは [お気に入り](#) 列に表示され、 (お気に入り) アイコンでフラグが立てられます。お気に入りアイコンのマークを取って、オブジェクトをお気に入りから削除することができます。

3.2.1.4 フォルダ

[マイホーム]の[フォルダ]タイルには、アクセス権のあるレポートが含まれています。BIプラットフォームでは、パブリックフォルダと個人用フォルダの両方がサポートされます。

通常、パブリックフォルダはシステム管理者によって作成されます。ユーザのアクセス権に応じて、BI ラウンチパッドで個人用フォルダを作成できます。

必要なフォルダに移動するには、以下の2つの方法があります。

ツリービュー

- ツリービューを展開すると、サブフォルダと子フォルダが表示されます (存在する場合)。
- ツリービューでフォルダを選択すると、そのフォルダは強調表示され、その内容が表示されます。

一覧ビュー

一覧ビューには、以下の2つのパネルがあります。

- **[バージョン情報] パネル**
[バージョン情報] パネルには、フォルダ間を移動するための詳細ナビゲーションが含まれています。フォルダタイプ、フォルダの説明、および最終更新タイムスタンプを表示できます。
- **[内容] パネル**
[内容] パネルには、選択したフォルダにあるすべてのレポートが一覧表示されます。レポートタイプに基づき、レポートの説明と最終更新詳細を表示できます。

*** アイコンを使用して、レポートタイプに基づくさまざまなアクションを実行できます。
- **コンテキストメニュー**
 - これまでは、一覧表示されたドキュメントやレポートを選択した場合、*** アイコンを使用して特定のアクションを実行することができました ([表示]、[最新のインスタンスを表示]、[プロパティ]、[変更]、[スケジュール]、[モバイルプロパティ]、[履歴]、[カテゴリ]、[お気に入りから削除]、[詳細]、[整理]、[送信先]、[削除] など) を実行できました。
 - 現在は、コンテキストメニューを使用して、ドキュメントまたはレポート自体を右クリックし、実行するアクションを含むドロップダウンメニューを表示することができます。
 - 単一のレポートまたはドキュメントを選択した場合、右クリックのオプションはレポートまたはドキュメント固有です。
 - 同じタイプのレポートまたはドキュメントを複数選択すると、[整理]、[送信先]、[削除] などコンテンツ固有の右クリックオプションが表示されます。
 - 異なるコンテンツタイプのレポートまたはドキュメントを選択すると、右クリックオプションは [整理] ([切り取り]、[コピー]) および [削除] に縮小されます。
- **ファイルのドラッグアンドドロップ**
ファイルをフォルダ内のフォルダにドラッグアンドドロップまたは移動できるようになりました。そのためには、移動するファイルを選択してから、希望するフォルダにドラッグアンドドロップします。ファイルを1つのフォルダから別フォルダのサブフォルダに移動する場合、ファイルを選択してから、移動先にするフォルダにカーソルを移動します。親フォルダが自動展開され、利用可能なサブフォルダが表示されます。フォルダを選択し、そこにファイルをドロップします。
- **🔄 アイコンを使用して、ページを最新表示できます。** テーブルの [タイトル] および [最終更新日時] 列に基づいてソート (昇順/降順) を実行できます。

① 注記

[[フォルダ](#)] ページでは、次のことを実行できます。

- ハイパーリンクオブジェクトとローカルドキュメントをアップロードします。
- パブリケーションを作成します。
- レポートのタイプに基づいて、複数のレポートを選択し、さまざまな操作を実行します。

タイルビュー

タイルビューとグリッドビューは、[[すべてのお気に入り](#)] でのみ利用可能でした。タイルビューとグリッドビューが、すべての [[フォルダ](#)] でも利用可能になりました。

3.2.1.5 BI 受信ボックス

[[BI 受信ボックス](#)] でシステムアラートおよび管理者通知を表示および管理できます。

[[BI 受信ボックス](#)] タイルには、未読のアラートおよび通知が含まれています。BI 受信ボックスのアラートまたはドキュメントに対して、以下のいずれかのオプションを選択できます。

- [開封済みにする](#)
- [未読にする](#)
- [お気に入り](#)に設定
- [削除](#)

BI ラUNCHパッドで、必要なレポートを受信者の BI 受信ボックスに送信できます。レポートを単一ユーザまたはユーザグループ間で共有できます。コンテンツオブジェクトの BI 受信ボックスへの共有の詳細については [コンテンツオブジェクトの送信 \[42 ページ\]](#) のコンテンツオブジェクトの編成の節を参照してください。

3.2.1.6 ごみ箱

[[マイホーム](#)] の [[ゴミ箱](#)] タイルには、削除されたコンテンツオブジェクトが一覧表示されます。

システムからコンテンツオブジェクトを削除すると、そのオブジェクトはゴミ箱に移されて、ゴミ箱を空にするまで一時的に保存されます。これにより、誤って削除したオブジェクトを回復し、それらを元の場所に復元できます。レポートのプロパティをチェックして、複数のレポートを復元できます。

① 注記


インスタンスを削除すると、そのインスタンスは完全に削除されるため、回復不能になります。

3.2.2 お気に入り

コンテンツオブジェクトをお気に入りとしてマークすると、アクセスが容易になります。[\[お気に入り\]](#)グループには、お気に入りとしてマークされているすべてのオブジェクトが含まれています。

オブジェクトは、お気に入りにマークされると、[\[お気に入り\]](#)タブに★ (お気に入り) アイコンのフラグが立てられて表示されます。お気に入りオブジェクトを管理するため、タイルビューと一覧ビューを使用することができます。また、コンテンツオブジェクトの性質に応じて多様なアクションを実行するため、1つまたは複数のコンテンツオブジェクトを選択することもできます。

お気に入りの編集や並べ替えを行うには、以下の手順に従います。

1. BI ラウンチパッドのホームページで、[\[お気に入り\]](#)に移動します。
2. [\[すべてのお気に入りを表示\]](#)をクリックします。
3.  (編集) アイコンをクリックし、お気に入りオブジェクトを並べ替えます。

お気に入りアイコンのマークを取って、オブジェクトをお気に入りから削除することもできます。


① 注記

4.3 SP3 より、フォルダまたはドキュメントが[お気に入り](#)セクションに追加された場合に、[お気に入り](#)セクション内でフォルダとドキュメントのナビゲーションが許可されます。カット、コピー、ペーストなどの編集機能は使用できません。

3.2.3 最近使用したドキュメント

[\[最近使用したドキュメント\]](#)タブには、最近表示したドキュメントが、タイプ別にソートされ、直近に表示されたドキュメントが(タイルビューと一覧ビューの両方で)一番上になるように一覧表示されます。

ホームページの[\[最近使用したドキュメント\]](#)タブには、最近表示したいくつかのドキュメントが表示されます。[\[最近使用したすべてのドキュメントを表示\]](#)を使用すると、最近使用したドキュメントの完全な一覧を表示できます。一覧ビューとタイルビューの2つのビューがあります。

[\[最近使用したドキュメント\]](#)ページには、一覧表示されたドキュメントの合計数が表示されます。 アイコンを使用して、ページを最新表示できます。(一覧ビューでは) テーブルの[\[タイトル\]](#)、[\[タイプ\]](#)、および[\[最終更新](#)

[日時\]](#) 詳細に基づいてソート(昇順/降順)を実行できます。*** アイコンを使用すると、コンテンツオブジェクトの単一または複数選択に基づいてさまざまな操作を実行できます。選択したコンテンツオブジェクトの性質に応じて、アクションを実行できます。

3.2.4 最近の実行

BI ラウンチパッドの[\[最近の実行\]](#)タブでは、スケジュールされたコンテンツオブジェクト用に作成した最近使用したドキュメントインスタンスを表示できます。

[\[最近の実行\]](#)ページには、使用できるドキュメントインスタンスの合計数が表示されます。インスタンスを管理するためのタイルビューとリストビューの両方があります。*** アイコンにより、ドキュメントインスタンス

の単一または複数選択に基づいてさまざまな操作を実行することが可能です。インスタンスの性質に応じて、以下のアクションを実行することができます。

- [表示](#)
- [最新のインスタンスを表示](#)
- [プロパティ](#)
- [モバイルプロパティ](#)
- [詳細](#)
- [送信先](#)
- [削除](#)

タイルビューでは、[\[タイトル\]](#)、[\[タイプ\]](#)、[\[最新のスケジュール日時\]](#)、[***](#) などの詳細がタイルに表示されます。これにより、ドキュメントインスタンスを簡単にアクセスすることができます。

ステータスフラグ

[\[最近の実行\]](#) ペインで、各実行ドキュメントの下部に表示される最近実行されたドキュメントに対し、成功または失敗ステータスフラグが表示されるようになりました。

以前は、最近実行されたドキュメントを表示するため、[\[最近の実行をすべて表示\]](#) オプションから [\[すべての最近の実行\]](#) ページにリダイレクトされていました。

今後は、最近実行されたドキュメントを表示するため、[\[最近の実行をすべて表示\]](#) オプションから [\[インスタンスをスケジュール\]](#) ページにリダイレクトされるようになります。

3.2.5 アプリケーション

BI ラUNCHパッドは、リポジトリと以下の SAP BusinessObjects アプリケーションの間の統合ポイントです。

BI ラUNCHパッド内にある以下のデフォルトの[アプリケーション](#)を使用できます。

- [SAP Analytics Cloud](#)
- [Analysis edition for OLAP](#)
- [Information Steward](#)
- [Crystal Reports for Enterprise](#)
- [BI ワークスペース](#)
- [Web Intelligence](#)
- [BEx アナライザ](#)

BI ラUNCHパッドでは、アプリケーションを起動し、関連するオブジェクトを作成、表示および編集して、変更または新しいオブジェクトを直接リポジトリに保存することができます。BI ラUNCHパッドで利用できるアプリケーションと実行できるタスクは、システム管理者によって提供されるアクセス権限によって決まります。

4 SAP Analytics Hub への Hub アセットのプッシュ

BI アセットを新しいカテゴリ [[Hub アセット](#)] に追加し、同じ BI アセットに SAP Analytics Hub からアクセスすることができます。

[[Hub アセット](#)] カテゴリにマップされたすべてのドキュメントは、[SAP Analytics Hub](#) に自動的にプッシュされます。


BI アセットを新しいカテゴリに追加する前に、[前提条件](#)を参照してください。


① 注記

[[Hub アセット](#)] カテゴリでは、パブリケーションはサポートされていません。

5 BI ラUNCHパッドのパーソナライズ

個人用の基本設定により、BI ラUNCHパッドへのログイン方法、表示されるビュー、および表示されるオブジェクトに適用される設定が決定されます。

グローバルナビゲーションバーで  (ユーザ設定) アイコンを選択することによって、BI ラUNCHパッドアカウントに関するすべてのアクションを管理することができます。


 (ユーザ設定) を選択すると、BI ラUNCHパッドの [ユーザ設定] ページが表示されます。

システム管理者が割り当てるアクセス権限によって、独自の基本設定を設定できるかどうかが決まります。BI ラUNCHパッドを使用し始める前に、基本設定が設定されているかどうかをチェックし、必要に応じて設定します。

① 注記

BI ラUNCHパッドの [アカウント基本設定] および [アプリケーション基本設定] メニューが使用できない場合は、BI プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) で [ユーザが所有するオブジェクトの基本設定の変更] 権限が割り当てられていません。アクセス権を要求するには、システム管理者にお問い合わせください。

5.1 アカウントの管理

BI ラUNCHパッドの  設定にアクセスすることによって、ユーザアカウントに関連する一般情報を表示できます。

[ユーザアカウント] タブには、[アカウント情報]、[データベース認証情報]、[認可トークン] の3つのサブタブがあります。


[アカウント情報] サブタブからは、アカウント情報 (フルネーム、電子メールなど) にアクセスできます。必要に応じて、パスワードを変更することもできます。詳細については、[自分の情報へのアクセス \[27 ページ\]](#) および [パスワードの変更 \[27 ページ\]](#) を参照してください。

[データベース認証情報] サブタブには、ユーザアカウントに対して利用可能なデータソース参照が表示されます。データベース認証情報とデータソース参照の詳細については、*Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドで [拡張認証情報マッピング](#) を参照してください。

[認可トークン] サブタブには、BI プラットフォームにアクセス可能な OAuth プロバイダが一覧にされます。ここでは、BI プラットフォームで登録されたすべての権限参照に対するトークンを、専用のオプションを使用して生成、削除、または拡張できます。これは、CMC の [権限参照](#) アプリケーションに直接リンクされています。詳細については、[認可サーバの設定](#) を参照してください。

5.1.1 自分の情報へのアクセス

ユーザアカウント情報を表示するには、以下の手順を実行します。

1. [ホーム] ページから、グローバルナビゲーションバーの  (ユーザ設定) を選択します。


[ユーザ設定] ページが開きます。

2.  (設定) を選択します。

[設定] ダイアログボックスが表示されます。デフォルトでは、[ユーザアカウント] メニューオプションが選択され、[アカウント情報] が [ユーザアカウント] タブに表示されます。

[アカウント情報] に表示される詳細は、[アカウント名]、[フルネーム]、[電子メール]、[説明]、および [パスワード最終変更日] 日付です。

① 注記

- グローバルナビゲーションバーの  (ユーザプロフィール) アバター (アイコン) が、テキストアバターに変更されました。ユーザに対して表示される文字にカーソルを合わせると、CMC の [プロパティ: 管理者] ページにおいて定義された [アカウント名] が表示されます。例
 - [アカウント名] が [管理者] として定義されている場合、BI ラUNCHパッドのテキストアバターは、[ユーザ] アイコンおよびホバーに [管理者] の [A] と表示されます。
 - [アカウント名] の下に表示される [フルネーム] が [John Cesar] と定義されている場合、BI ラUNCHパッドのテキストアバターは [JC] と表示されます。また、ホバーにはこのフルネームが表示されます。
 - [フルネーム] が [John Cesar Shepherd] と定義されている場合、BI ラUNCHパッドのテキストアバターは [JS] と表示されます。また、ホバーにはこのフルネームが表示されます。
- [設定] ページの [ユーザアカウント] タブで、ユーザの [アカウント情報] を確認することができます。
- 以前は、[設定] をクリックした場合、[アカウント基本設定] ページにリダイレクトされました。現在は、[設定] をクリックした場合、[ユーザアカウント] ページにリダイレクトされるようになっています。
- 以前は、[BI ラUNCHパッド] というアプリケーション名がツールバーの中央に表示されました。しかし、[現在開いているドキュメント] を表示しようとした場合に、スペース上の制約があるため、長いドキュメント名が完全に表示されませんでした。現在は、スペースを広げるためツールバーの [ようこそ: 管理者] という挨拶が削除されたことにより、ドキュメント名を完全に表示できるようになりました。

5.1.2 パスワードの変更

BI ラUNCHパッドのアカウントのパスワードは、いつでも変更することができます。

パスワードを変更するには、適切なアクセス権限が必要です。アクセス権限があるのに自分のパスワードを変更できない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

① 注記

BI ラUNCHパッドのヘッダパネルの [アカウント基本設定] および [アプリケーション基本設定] メニューが使用できない場合は、BI プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) で [\[ユーザが所有するオブジェクトの基本設定の変更\]](#) 権限が割り当てられていません。アクセス権を要求するには、システム管理者にお問い合わせください。

パスワードを変更するには、以下の手順を実行します。

1. [\[ホーム\]](#) ページから、グローバルナビゲーションバーの [8](#) (ユーザ設定) を選択します。
[ユーザ設定] ページが開きます。
2. [8](#) (設定) を選択します。
[設定] ダイアログボックスが表示されます。デフォルトでは、[\[ユーザアカウント\]](#) メニューオプションが選択され、[\[アカウント情報\]](#) が [\[ユーザアカウント\]](#) タブに表示されます。
[\[アカウント情報\]](#) に表示される詳細は、[\[アカウント名\]](#)、[\[フルネーム\]](#)、[\[電子メール\]](#)、[\[説明\]](#)、および [\[パスワード最終変更日\]](#) 日付です。
3. [\[アカウント情報\]](#) ペインで、[\[パスワードの変更\]](#) をクリックします。
4. [\[古いパスワード\]](#) フィールドに、古いパスワードを入力します。
5. [\[新しいパスワード\]](#) フィールドに、新しいパスワードを入力します。
6. [\[新しいパスワードの確認\]](#) フィールドに、再度新しいパスワードを入力します。

① 注記

パスワードは 6 文字以上で、(少なくとも) 1 つの数値、1 つの特殊文字、および 1 つの大文字が含まれている必要があります。

7. [\[パスワードの変更\]](#) を選択します。
8. [\[保存\]](#) を選択します。

アカウントのパスワードが正常に変更されました。

① 注記

ユーザまたは管理者がパスワードを変更すると、ユーザは実行中のすべてのセッションから自動的にログアウトし、再ログインのために [\[ログイン\]](#) ページが表示されます。

5.1.3 データソース参照に対するデータベース認証情報の定義

データソース参照には、ユーザがデータベースに接続できるように、ユーザプロパティで定義されたデータベース認証情報が必要です。

データソース参照を BI ラUNCHパッドで利用可能になり、ユーザ認証情報を更新およびマップできるようになりました。データベース認証情報は、CMC と BI ラUNCHパッド間で同期されます。

以下の手順に従い、BI ラUNCHパッドでデータベース認証情報を定義します。

1. BI ラUNCHパッドにログインします。

2. [⌵](#) (ユーザ設定) に移動し、ドロップダウンから [⚙ \(設定\)](#) オプションをクリックします。

[設定] ウィンドウが表示されます。

3. [ユーザアカウント (管理者)] をクリックします。

[アカウント情報]、[データベース認証情報]、[認可トークン] の 3 つのタブを含む [ユーザアカウント] ページが開きます。

4. [データベース認証情報] をクリックします。

ユーザの同期ユーザを、ここに表示される CMC から表示できます。

① 注記

[[データソース参照](#)] の詳細は編集できません。

ただし、[アカウント名]、[パスワード]、および [パスワードの再確認] の各フィールドは編集することができます。

パスワードを変更すると、トーストメッセージが [一部の基本設定に対する変更は、ページをリロードした後で有効になります] 画面に表示されます。

5. マッピングされた認証情報の変更を保存するため、[保存] および [閉じる] をクリックします。

5.2 アカウント基本設定

BI ランチパッドのアカウント基本設定では、ソフトウェアのデフォルトビューの外観を設定します。

[設定] ページにナビゲートして、アカウント基本設定を指定できます。

5.2.1 ページの基本設定

BI ランチパッドのランディングページの基本設定を [ホーム] ページから設定することができます。

1. [ホーム] ページで、グローバルナビゲーションバーの [⌵ \(プロフィール\)](#) を選択します。
2. [ユーザ設定] ページで [⚙ \(ユーザ設定\)](#) を選択します。
3. [設定] ダイアログボックスで、[アカウント基本設定] を選択します。
4. [アカウント基本設定] で、[ページ基本設定] タブを選択します。
5. BI ランチパッドで、ホームページおよび列の基本設定を設定または編集できます。詳細については、[ランディングページ基本設定 \[29 ページ\]](#) および [列基本設定 \[31 ページ\]](#) を参照してください。

5.2.1.1 ランディングページ基本設定

[[ホームページの選択](#)] オプションを使用して、ホームページをカスタマイズすることができます。

ホームページをカスタマイズするには、以下のステップを実行します。

1. [アカウント基本設定] タブで、[管理者から提供された設定を使用] オプションを無効にします。

① 注記

[管理者から提供された設定を使用] オプションは、デフォルトでは有効になっており、デフォルトの管理者が設定した基本設定がアプリケーションで使用されます。管理者の基本設定は、この機能を無効化することで変更できます。

2. 選択した[ランディングページ基本設定]に基づいて、以下のステップを実行します。

ホームページオプション	次のステップ
カスタムページ	<ol style="list-style-type: none"> 1. [ランディングページ] フィールドで、以下のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ドキュメント スケジュール カテゴリ 受信ボックス フォルダ リサイクルビン <p>[フォルダ]を選択した場合は、ランディングページとして表示するフォルダを選択します。</p> 2. [ドキュメントの表示形式] フィールドで、[タイルビュー]または[一覧ビュー(デフォルト)]を選択することができます。 3. [ランディングページ] フィールドで、以下のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> すべて表示 ドキュメント すべてのカテゴリ お気に入り 最近の表示 最近の実行 4. [表示する列を選択] フィールドで、以下の列を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> タイプ 最終実行日時 インスタンス 説明 作成者 最終更新日時 作成日 場所(カテゴリ) お気に入り(ホームページ) ステータス(スケジュール) インスタンスの日時(スケジュール) フォルダパス

① 注記

デフォルトで、[タイプ]、[説明]、[最終更新日時]、[お気に入り (ホームページ)]、[ステータス (スケジュール)]、および [インスタンスの日時 (スケジュール)] が選択されています。表示する必要がある列を選択することができます。

カスタムグループ

[ランディンググループ] フィールドで、以下のオプションのいずれかを選択します。

- お気に入り
- 最近使用したドキュメント
- 最近の実行
- アプリケーション

[ドキュメントの表示形式] フィールドで、[お気に入り]、[最近使用したドキュメント] および [最近の実行] に対して [タイルビュー] を使用できるようになりました。

ドキュメント

[ドキュメントの選択] フィールドで、[マイフォルダ] または [パブリックフォルダ] からドキュメントまたはパブリケーションを選択して、デフォルトのランディングページとして表示します。

カテゴリ

[カテゴリの選択] フィールドで、[個人用カテゴリ] または [会社用カテゴリ] からカテゴリを選択して、デフォルトのランディングページとして表示します。

カテゴリを選択した場合、デフォルトのビューはグリッドビューです。

ページ基本設定をカスタマイズしたら、BI ラウンチパッドを最新表示にして、変更内容を確認します。

5.2.1.2 列基本設定

ドキュメント、フォルダ、カテゴリなどの BI ラウンチパッドの資産の一覧ビューに表示される列をカスタマイズできます。

1. [アカウント基本設定] タブで、[管理者から提供された設定を使用] オプションを無効にします。

① 注記

[管理者から提供された設定を使用] オプションは、デフォルトでは有効になっており、デフォルトの管理者が設定した基本設定がアプリケーションで使用されます。管理者の基本設定は、この機能を無効化することで変更できます。

2. [列基本設定] で、プルダウンリストから要件に応じて表示する列を選択できます。

3. [保存] を選択します。

基本設定が正常に保存されました。

5.2.1.3 ドキュメントの表示

[ドキュメントの表示] オプションを選択します。

1. **BI ラUNCHパッド内**: ドキュメントを BI ラUNCHパッドポータル内で表示する場合に、このオプションを選択します。
2. **新しいブラウザタブ内**: ドキュメントを新しいブラウザタブで表示する場合に、このオプションを選択します。

① 注記

ページサイズを BI ラUNCHパッドの [ページあたりの最大アイテム数の設定] オプションで定義することが可能になりました。

[保存] をクリックして基本設定を保存します。

5.2.2 優先表示ロケールおよびタイムゾーンの基本設定の設定


優先表示ロケール (PVL) およびタイムゾーンの基本設定では、BI ラUNCHパッドにおける日付、時間、および数値の書式を設定します。また、多言語オブジェクトの場合は PVL でオブジェクトの名前および説明を表示する言語も設定します。オブジェクトに翻訳された名前および説明が複数ある場合、表示言語は以下のようにして決定されます。

1. ユーザの PVL に対応する名前および説明が表示されます。BI プラットフォームではデフォルトのフォールバックロケールが使用されることもありますが、これは通常、ユーザの PVL のバリエーションとなります。たとえば、PVL がフランス語 (カナダ) である場合に、オブジェクトにフランス語 (カナダ) に翻訳された名前および説明がないと、フランス語 (フランス) が使用されます。
2. PVL が設定されていない場合、製品のロケールと同じ言語で名前および説明が表示されます。
3. 上記のオプション 1 または 2 に該当しない場合は、オブジェクトのソース言語で名前および説明が表示されます。


PVL およびタイムゾーンを選択すると、スケジュールされたオブジェクトは作業中のタイムゾーンで処理されます。

オブジェクトをスケジュールする前に、BI ラUNCHパッドで選択したタイムゾーンを確認します。デフォルトのタイムゾーンは、BI プラットフォームを実行している Web サーバのローカルタイムゾーンであり、ユーザのマシンが接続する Central Management Server (CMS) コンピュータのタイムゾーンではありません。

PVL およびタイムゾーンを設定するには、以下の手順を実行します。

1. [ホーム] ページから、グローバルナビゲーションバーの  (ユーザ設定) を選択します。

[ユーザ設定] ページが開きます。

2.  (設定) を選択します。

[設定] ダイアログボックスが表示されます。

3. 左側の [全般] ペインで、[アカウント基本設定] を選択します。
4. 右側の [アカウント基本設定] ペインで、[ロケールおよびタイムゾーンの基本設定] タブを選択します。
5. [優先表示ロケール] フィールドで、目的の優先表示ロケールを選択します。
6. [現在のタイムゾーン] フィールドで、目的のタイムゾーンを選択します。
7. [製品ロケール] フィールドで、目的の製品ロケールを選択します。
8. [保存] を選択します。

5.3 BI ラウンチパッドの表示のカスタマイズ

BI ラウンチパッドの表示をカスタマイズすることができます。

1. BI ラウンチパッドにログインします。
2. ► **設定** ► **表示** ► に進みます。
3. [テーマ] 一覧で、以下のテーマを選択します。
 - *SAP Belize Deep*
 - *SAP Belize*
 - *SAP Belize 高コントラストの黒*
 - *SAP Belize 高コントラストの白*
 - *Quartz Light*
 - *Quartz Dark*
 - *Quartz HCB*
 - *Quartz HCW*
4. [保存] をクリックします。
5. BI ラウンチパッドを最新表示にして、選択したテーマを確認します。

① 注記

BI ラウンチパッドでこの機能を有効化するには、プロパティファイルで CSS ルールが `theme.enable=default` になっていることを確認します。

5.4 BI ラウンチパッドのホームページのカスタマイズ

管理者とユーザの両方が、CMC で BI ラウンチパッドのホームページおよびユーザグループの設定をカスタマイズできるようになりました。

これを行うには、ホームページ基本設定の管理者から提供された設定をオフにする必要があります。

ホームページをカスタマイズするには、以下のステップを実行します。

1. [ホーム] ページで、グローバルナビゲーションバーの 8 (プロファイル) を選択します。
2. [ユーザ設定] ページで 9 (ユーザ設定) を選択します。

3. [設定] ダイアログボックスで、[アカウント基本設定] を選択します。
4. [アカウント基本設定] で、[ページカスタマイズ] タブを選択します。
5. 以下の一覧から必要なタブを選択して、ホームページに表示することができます。
 - ホーム
 - お気に入り
 - 最近使用したドキュメント
 - 最近の実行
 - アプリケーション
6. また、ホームページの [ホーム] グループに表示する必要なタイルを選択することもできます。
[ホーム] グループの以下のタイルから選択することができます。
 - すべてのドキュメント
 - カテゴリ
 - インスタンス
 - リサイクルビン
 - BI 受信ボックス
 - フォルダ

カスタマイズが完了したら、BI ラウンチパッドを再ロードして変更内容を確認します。

6 コンテンツオブジェクトの編成

BI プラットフォームは、パブリックおよび個人用のフォルダとカテゴリをサポートします。

すべてのユーザがアクセスできるパブリックのフォルダやカテゴリは通常、システム管理者が作成します。ユーザのアクセス権に応じて、BI ラウンチパッドで個人用フォルダと個人用カテゴリを作成することができます。

フォルダとドキュメントの並べ替え


並べ替えは、アルファベット順に系統立ててフォルダとドキュメントを並べるプロセスです。以下の属性に基づいて、アルファベットで昇順または降順で、最初にフォルダを次にドキュメント別に並べ替えることができますようになりました。

- [タイトル](#)
- [タイプ](#)
- [最終更新日時](#)
- [変更した日付](#)
- [現在開いているドキュメント](#)

ショートカットの管理: 古い BI ラウンチパッドで作成された既存のショートカットオブジェクトは、新しい SAP BI ラウンチパッド (4.3) で一覧表示することができ、統一ビューアで表示することができます。

6.1 フォルダの作成

フォルダを作成するには、以下を実行します。


1. BI ラウンチパッドにログオンします。
2. [\[ホーム\]](#) ページから、[\[フォルダ\]](#) タイルを選択します。
3. [\[フォルダ\]](#) ページで、フォルダを作成する場所に移動します。
 - 個人用フォルダを作成するには、[\[マイフォルダ\]](#) ドロワを展開します。
 - パブリックフォルダを作成するには、[\[パブリックフォルダ\]](#) ドロワを展開します。
4. 目的の場所で、メニューバーから  (オブジェクトの作成/アップロード) を選択します。
5. ドロップダウンメニューから [\[新しいフォルダ\]](#) オプションを選択します。
6. [\[フォルダの作成\]](#) ダイアログボックスで、以下を入力します。
 - a. [\[名前\]](#) フィールドに、新しいフォルダの名前を入力します。
 - b. [\[説明\]](#) フィールドに、新しいフォルダのオプションの説明を入力します。
 - c. [\[キーワード\]](#) フィールドに、新しいフォルダのオプションのキーワードを入力します。

7. [保存] を選択します。

新しいフォルダが正常に作成されました。

6.2 フォルダへのドキュメントのアップロード

ドキュメントをフォルダにアップロードするには、以下の手順を実行します。

1. BI ラウンチパッドにログオンします。
2. [ホーム] タブで、[フォルダ] タイルを選択します。
3. [フォルダ] ページで、ドキュメントをアップロードするフォルダに移動します。
4.  (オブジェクトの作成/アップロード) アイコンをクリックして、[ドキュメントのアップロード] オプションを選択します。
5. [マイフォルダにドキュメントをアップロード] ダイアログで、必要なファイルを照会してアップロードします。
6. [タイトル]、[説明]、[キーワード] (存在する場合) などのドキュメントの詳細を入力します。必要に応じて、ドキュメントを必要なカテゴリにマップすることができます。
7. [追加] をクリックします。


ドキュメントがフォルダにアップロードされます。

① 注記

- [置換] オプションにより、すべてのサードパーティドキュメント (Word、PDF、テキストなど) を、新しいドキュメントに置き換えることができます。
- ドキュメントは、[個人用カテゴリ] または [会社用カテゴリ] のいずれかにマップできます。ドキュメントがアップロードされ、特定のカテゴリにマッピングされると、マップされたカテゴリにナビゲートして、ドキュメントを検索することができます。

6.3 フォルダのプロパティの設定

フォルダのプロパティを設定するには、以下を実行します。

1. BI ラウンチパッドにログオンします。
2. [ホーム] ページから、[フォルダ] タイルを選択します。
3. [フォルダ] ページで、プロパティを設定する目的のフォルダに移動します。
4. 目的のフォルダに対応する  (その他) を選択します。
5. ドロップダウンメニューから [プロパティ] を選択します。
6. [プロパティ] ダイアログボックスで、目的のプロパティを入力/編集します。
7. [保存] を選択します。

フォルダのプロパティが正常に設定されました。

6.4 フォルダの移動またはコピー

フォルダをカットまたはコピーして、別のフォルダの場所にペーストすることができます。

フォルダをソースからターゲットの場所に移動させるには、以下の手順を実行します。

1. BI ラウンチパッドにログインします。
2. [ホーム] ページから、[フォルダ] タイルを選択します。
3. [フォルダ] ページで、該当するフォルダに移動します。
4. 該当するフォルダに対応する *** (その他) を選択し、ドロップダウンメニューから ► 整理 ► 切り取り ◀ を選択します。

① 注記

フォルダをソースの場所に保持して単にターゲットにコピーするだけである場合、► 整理 ► コピー ◀ を選択します。

5. コピーまたはカットするフォルダの移動先であるターゲットフォルダに移動します。
6. ターゲットフォルダの場所で、ページメニューバーから *** (その他) を選択し、[貼り付け] を選択します。
選択したフォルダがターゲットフォルダの場所に移動またはコピーされ、コンテンツ一覧に表示されます。

6.5 フォルダの削除

フォルダを削除するには、以下の手順を実行します。

1. BI ラウンチパッドにログインします。
2. [ホーム] ページから、[フォルダ] タブを選択します。
3. [フォルダ] ページで、該当するフォルダに移動します。
4. 該当するフォルダに対応する *** (その他) を選択し、ドロップダウンメニューから [削除] を選択します。
選択したフォルダが削除されます。

6.6 デフォルト値の CMC から BI ラウンチパッドへのマッピング

セントラル管理コンソール (CMC) で [\[デフォルト設定\]](#) を設定すると、BI ラウンチパッドではそれがデフォルト値として反映されます。

1. CMC にログインします。
2. レポートを右クリックし、[\[プロパティ\]](#) を選択します。
3. [\[デフォルト設定\]](#) を設定して、[\[保存\]](#) をクリックします。
4. BI ラウンチパッドにログインするか、または最新表示にします。
5. CMS でデフォルトプロパティを設定したレポートを選択し、[***](#) (その他) をクリックして [\[スケジュール\]](#) を選択します。

CMC で設定したデフォルトプロパティが [\[インスタンス\]](#) タブに表示されます。

6.7 フォルダまたはカテゴリへのリンクのアクセス

フォルダリンクにより、BI ラウンチパッドのパブリックフォルダまたはカテゴリへの直接アクセスが提供されます。他の人にリンクを送信して、その人に適切なアクセス権限があれば、そのフォルダやカテゴリへのアクセス権を付与できます。

① 注記

フォルダリンクは、個人用カテゴリでは使用できません。

1. CMC にログインし、[▶ アプリケーション ▶ 処理設定 ▶](#) を選択します。
[\[新しい BI ラウンチパッド URL のデフォルトフォルダ設定\]](#) に、デフォルトフォルダリンクが [http://\(ホスト名\)/\(Web アプリケーションサーバポート\)/BOE/BI?startFolder=%SL_CUID%](http://(ホスト名)/(Web アプリケーションサーバポート)/BOE/BI?startFolder=%SL_CUID%) と表示されます。
2. [ホスト名](#) を有効なホスト名または IP アドレスに置換します。
3. BI ラウンチパッドを最新表示します。
4. [\[フォルダ\]](#) タイルに移動して、フォルダリンクに関連付けるフォルダまたはカテゴリを特定します。
5. フォルダまたはカテゴリを右クリックし、[\[詳細\]](#) を選択します。
それぞれのフォルダまたはカテゴリのフォルダリンクが表示されます。
6. フォルダリンクをコピーし、[\[OK\]](#) をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
7. コピーしたフォルダリンクを受信者と共有し、その受信者でアクセス権に関するエラーメッセージが表示される場合はシステム管理者に連絡して指示を求めます。

そのリンクを開くには、受信者にフォルダまたはカテゴリに対するアクセス権が必要です。

受信者がブラウザでフォルダリンクを開くと、セッションがない場合は、BI ラウンチパッドのログイン画面が表示されます。受信者が有効なログイン認証情報を入力すると、BI ラウンチパッドでフォルダまたはカテゴリが開きます。

受信者にそのフォルダまたはカテゴリにアクセスする権限がない場合は、エラーメッセージが表示されます。

この場合は、受信者がシステム管理者に連絡する必要があります。

6.8 コンテンツオブジェクトへの迅速なアクセス

6.8.1 ハイパーリンクの使用

ハイパーリンクにより、コンテンツオブジェクトへのアクセスが簡単になります。[統一ビューア]で、または[ドキュメントを開く]を使用してコンテンツオブジェクトを表示します。

1. [フォルダ] タイルをクリックし、フォルダを開いて“+”(オブジェクトの作成/アップロード *Objects*) をクリックします。
2. [ハイパーリンク] をクリックします。
3. [ハイパーリンクの作成] ダイアログボックスで、ハイパーリンクのタイトルを入力します。
4. ハイパーリンクの説明およびキーワードを入力します。
5. 対象のコンテンツオブジェクトの URL を入力します。
6. ハイパーリンクを割り当てるには、[カテゴリに割り当て] をクリックし、[個人用カテゴリ] または [会社用カテゴリ] から1つまたは複数のカテゴリを選択します。
7. [保存] をクリックします。

このハイパーリンクは、選択したフォルダではコンテンツオブジェクトとして表示されます。

ハイパーリンクに対して次のアクションを実行できます。

- **表示** - ハイパーリンクインフォオブジェクトを表示できます。
[ドキュメントを開く]を使用して、コンテンツオブジェクトへのハイパーリンクを表示できます。Web Intelligence ドキュメントおよび Lumira ドキュメントへのハイパーリンクは、統一ビューアでも表示できます。
- **プロパティ** - ハイパーリンクのタイトル、説明、キーワード、URL、およびカテゴリに割り当ての各フィールドを表示および編集することができます。
- **モバイルプロパティ** - モバイルデバイスでハイパーリンクを表示できます。


① 注記

モバイルプロパティは、ハイパーリンクを BI 受信ボックスに送信する前に設定する必要があります。

- **カテゴリ** - ハイパーリンクインフォオブジェクトを対象のカテゴリに割り当てることができます。
- **お気に入り**に設定 - ハイパーリンクインフォオブジェクトを簡単にアクセスできるようにお気に入りとして設定できます。
- **詳細** - 説明、キーワード、カテゴリ、フォルダパス、およびドキュメントリンクなど、ハイパーリンクの詳細を表示できます。
- **送信先** - ハイパーリンクインフォオブジェクトを BI 受信ボックスに送信することができます。
- **削除** - ハイパーリンクインフォオブジェクトを削除できます。

6.8.2 外部リンク

外部リンクを使用して、統一ビューアで Web ページを表示することができます。

1. [フォルダ] タブをクリックし、フォルダを開きます。
2.  (オブジェクトの作成/アップロード) をクリックします。
3. [ハイパーリンク] を選択します。
4. [ハイパーリンクの作成] ダイアログボックスで、外部リンクの表題を入力します。
5. その外部リンクの説明およびキーワードを入力します。
6. 目的の Web ページの URL を入力します。
7. [カテゴリに割り当て] をクリックします。
8. 外部リンクを割り当てるには、[個人用カテゴリ] または [会社用カテゴリ] からカテゴリを選択します。
9. [保存] をクリックして、選択した Web ページの外部リンクを作成します。

外部リンクが作成されると、選択したフォルダにコンテンツオブジェクトとして表示されます。







① 注記

統一ビューアで外部リンクを表示でき、ここで、ハイパーリンクに関して記述されているすべてのアクションを実行できます。

https リンクは自動的に新しいウィンドウで開きます。

6.8.3 コンテンツオブジェクトへのショートカットの作成

ナビゲーション時間を節約するために、表示する頻度が高いコンテンツオブジェクトへのショートカットを作成します。

1. [フォルダ] ページで、コンテンツオブジェクトを選択してショートカットを作成します。  (その他) アイコンをクリックして、 **整理**  **ショートカットのコピー** を選択します。
2. ショートカットを置く場所のフォルダに移動し、  (その他) アイコンをクリックして  **整理**  **ショートカットの貼り付け** を選択します。

これでショートカットオブジェクトが作成されます。ショートカットを作成する対象のコンテンツオブジェクトのタイプに基づいて、さまざまなアクションを実行できます。

6.8.4 OpenDocument URL のコピー

ナビゲーション時間を節約するため、選択したコンテンツオブジェクトからの OpenDoc リンクのコピーを、2つの方法によりすばやく行うことが可能になりました。

1. [フォルダ] ページで、コンテンツオブジェクトを選択してショートカットを作成します。

2. 右クリックし、表示される一覧から [[OpenDoc リンクのコピー](#)] オプションを選択します。
画面上にトーストメッセージが表示されます。OpenDoc URL がクリップボードに正常にコピーされました。

① 注記

また、OpenDoc リンクを [[詳細](#)] からコピーすることもできます。

1. コンテンツオブジェクトを選択し、右クリックして、表示される一覧から [[詳細](#)] オプションを選択します。
2. [[詳細](#)] 画面が表示されます。ここには、コンテンツオブジェクトの情報が含まれています。
3. [[ドキュメントリンク](#)] をコピーします。
4. [[閉じる](#)] をクリックします。

6.8.5 将来表示するためのレポートの固定

BI ラウンチパッドで頻繁に表示するドキュメントまたはインスタンスを固定できるようになりました。

1. ドキュメントの固定:
 - オブジェクトを開き、オブジェクトまたはインスタンスを右クリックして [[表示](#)] を選択します。
 - レポートが開かれている場合、BI ラウンチパッドのクイックアクセスドロップダウンで 사용할 できるようになります。
 - ドロップダウンでレポートの横にある [[固定](#)] アイコンをクリックします。
 - アイコンが [[固定済み](#)] ステータスに変更されます。
2. ドキュメントの固定解除
 - クイックアクセスドロップダウンをクリックします。
 - レポートの横にある [[固定済み](#)] アイコンをクリックします。
 - これで、固定済みのアイコンが固定解除のアイコンに変更されました。

制限:





1. プロモーション管理では、レポートの固定はサポートされていません。
2. 固定がサポートされているオブジェクトは以下のとおりです。
 - WebI
 - Crystal レポート
 - Lumira
 - Analysis Office
 - ハイパーリンク
 - Analysis for OLAP

① 注記

クイックアクセスドロップダウンで利用可能なスケジュール、パブリケーション、アプリケーション、およびフォルダでは、固定は現在サポートされていません。

6.9 コンテンツオブジェクトの送信

BI ラウンチパッドで、コンテンツオブジェクトを下記のユーザまたはグループに送信することができます。

1. BI ラウンチパッドにログインします。
2. コンテンツオブジェクトを選択して、[ (その他)] をクリックします。
3.  **送信先**  **BI 受信ボックスに送信**  を選択します。
4. 同様に、コンテンツオブジェクトを次のような利用可能な他のオプションに送信することもできます。
[[Google ドライブ](#)]、[[Microsoft OneDrive](#)]、[[電子メール](#)]、[[FTP](#)]、および [[SFTP](#)]。

また、[[検索](#)] フィールドで、ユーザ名/ユーザグループ名またはユーザの氏名を使用してユーザまたはユーザグループを検索することもできます。


詳細については、[出力先 \[53 ページ\]](#)を参照してください。

検索結果では、ユーザ名/ユーザグループ名は [[タイトル](#)] 列に表示され、ユーザまたはグループのフルネームは [[フルネーム](#)] 列に表示されます。

7 カテゴリーの使用

7.1 カテゴリーの作成

以下の手順を実行してカテゴリーを作成します。

1. [\[マイホーム\]](#) タブで、[\[カテゴリー\]](#) タイルを選択します。
2. カテゴリーを作成する場所に移動し、 (オブジェクトの作成/アップロード) を選択します。
[\[カテゴリーの作成\]](#) ダイアログボックスが表示されます。
3. [\[カテゴリー名\]](#) フィールドに、カテゴリーの必要な名前を入力します。
4. (オプション)[\[説明\]](#) フィールドに、カテゴリーの説明を入力します。
5. カテゴリーに必要な[\[タイプ\]](#) を選択します。
6. (オプション)[\[タグの追加\]](#) フィールドに、カテゴリーに必要なタグを入力します。
7. (オプション)[\[画像のアップロード\]](#) フィールドで、カテゴリーにアップロードする画像ファイルを参照および選択します。

① 注記

サポートされる画像タイプは以下のとおりです。 .jpeg/.jpg、.png、.gif、.svg。サポートされる最大画像サイズは 100 KB です。

8. [\[保存\]](#) を選択します。

オブジェクトに対する適切なアクセス権がある場合には、フォルダまたはカテゴリーを作成した後でオブジェクトを追加できます。

7.2 カテゴリーを開く

以下の手順を実行してカテゴリーを開きます。

1. [\[ホーム\]](#) タブで、[\[カテゴリー\]](#) タイルを選択します。
2. [\[カテゴリー\]](#) ページで、目的のカテゴリーを選択して開きます。

7.3 カテゴリーの削除

以下の手順を実行してカテゴリーを削除します。

1. [ホーム] タブで、[カテゴリ] タイルを選択します。
2. 目的のカテゴリで、*** (その他) を選択します。
3. [削除] を選択します。

目的のカテゴリが削除されました。

7.4 お気に入りとしてのカテゴリの指定

以下の手順を実行して、カテゴリをお気に入りとして指定します。

1. [ホーム] タブで、[カテゴリ] タイルを選択します。
2. 目的のカテゴリで、*** (その他) を選択します。
3. [お気に入りに設定] を選択します。

目的のカテゴリがお気に入りとして指定されました。

7.5 カテゴリへのコンテンツオブジェクトの割り当て

コンテンツオブジェクトをカテゴリに割り当てるには、以下を実行します。

1. BI ラウンチパッドにログオンします。
2. [ホーム] ページで、[フォルダ] タイルを選択します。
3. [フォルダ] ページで、カテゴリに割り当てるコンテンツオブジェクトを含むフォルダに移動します。
4. 該当するオブジェクトについて *** (その他) をクリックし、
5. ドロップダウンメニューから [カテゴリ] を選択します。

[カテゴリへの割り当て] ダイアログボックスが表示されます。

6. コンテンツオブジェクトの割り当て先とするカテゴリを選択して、[OK] を選択します。

コンテンツオブジェクトをカテゴリに正常に割り当てました。

8 情報分類

BI プラットフォームでは、Microsoft Azure テナントの Azure Information Protection プラットフォームデプロイメント内で、組織の Azure Policy サーバで定義された秘密度ラベルを利用して、Web Intelligence および Crystal レポートドキュメントを分類できます。

管理者が情報分類機能を有効にしている場合は、BI ラウンチパッド内で Web Intelligence および Crystal レポートドキュメントの右クリックメニューで表示される **秘密度** オプションにアクセスできます。

① 注記

- 情報分類機能は、Windows プラットフォームでのみ利用可能です。
- 秘密度ラベルを適用する機能は、*Web Intelligence* および *Crystal レポート* ドキュメントでのみサポートされています。
- 秘密度ラベルを表示するには、管理者によって情報分類権限が付与されている必要があります。

8.1 分類を適用する方法

1. *BI ラウンチパッド* にログインします。
2. *フォルダ* にナビゲートします。
3. 分類するドキュメントを右クリックします。

Web Intelligence または Crystal レポートドキュメントのみを分類できます。

4. **秘密度** を選択します。
5. ダイアログボックスから、任意の分類ラベルを選択します。
6. **保存** をクリックします。

① 注記

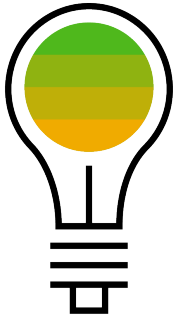
- ドキュメントの所有者のみが秘密度ラベルをドキュメントに適用できます。
- ドキュメントが分類され、後でスケジュールされると、スケジュールされたインスタンスの出力で同じ分類ラベルが自動的に採用されます。これは、スケジュールプロセス中にスケジュールされた出力形式が Microsoft Excel または Adobe Acrobat のいずれかとして選択されている場合に行われます。

9 コンテンツオブジェクトのスケジュール

9.1 概念

複数の要素およびパラメータは、コンテンツオブジェクトのスケジュールに役立ちます。

以下のセクションには、レポートのスケジュールに関連する概念についての詳細が示されています。

	詳細情報	参照
概要	インスタンス	インスタンス [46 ページ]
	プロンプト	プロンプト [49 ページ]
	形式	形式 [50 ページ]
	出力先	出力先 [53 ページ]
	スケジュールされたドキュメントの配信ルール	スケジュールの配信ルール [62 ページ]

9.1.1 インスタンス

インスタンスとは、ドキュメントまたはパブリケーションの単一のバージョンです。実行されるスケジュール済みの各ドキュメントに対し、BI プラットフォームはインスタンスの履歴をデフォルトの Enterprise サーバに保存します。

各ドキュメントまたはパブリケーションのインスタンスの一覧は、[\[履歴\]](#) ダイアログボックスに表示されます。また、ホームページの [\[インスタンス\]](#) タイルをクリックすることで、インスタンスの一覧にアクセスすることもできます。BI ラウンチパッドで [...](#) をクリックし、コンテキストメニューで [\[履歴\]](#) を選択します。履歴には、以下のような情報が表示されます。

- インスタンスの日時
- タイトル
- ステータス
- 作成者
- 種類
- パラメータ

BI ラウンチパッドが SAP Jam と統合されている場合、[\[履歴\]](#) ダイアログまたはフィードパネルの [\[コラボレーション\]](#) ドロワでインスタンスのディスカッションを表示できます。

9.1.2 置換

定期インスタンスを再スケジュールしようとする場合、スケジュールを置き換えることができます。

BI ラウンチパッドのスケジュールページでは、必要に応じて、すべての定期インスタンスを再スケジュールすることもできます。再スケジュールプロセスを容易にするために、[\[置換\]](#) オプションがあります。

これにより、既存のスケジュールを置き換えたり、既存のスケジュールから新しいスケジュールを作成したりすることができます。

スケジュールページでは、スケジュールを置き換える必要に応じて、以下のオプションから選択できます。

- [既存のスケジュールを置換します。](#)
- [既存のスケジュールから新しいスケジュールを作成します。](#)

デフォルトでは、トリガ元である定期スケジュールで設定されたオプションを持つ、新しい定期スケジュールを作成できます。

9.1.3 定期的なスケジュール

定期的なスケジュールパターンでは、BI プラットフォームがドキュメントを実行する頻度を定義します。

オプション	説明
今すぐ	ドキュメントをすぐに1回実行します。
1回	指定された時間に、ドキュメントを1回実行します。イベントを使用してドキュメントをスケジュールする場合、開始時間と終了時間の間にイベントが発生すると、ドキュメントは1回だけ実行されます。
時間単位	指定した日付の間隔で N 時間 X 分ごとにインスタンスを作成します。
日単位	ドキュメントを指定した日付の間隔で N 日に1回実行します。 指定された開始時間に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にドキュメントの実行が終了するまで、N 日ごとに指定された時間にインスタンスが作成されます。
週単位	ドキュメントを指定した日付の間隔で毎週選択した曜日に実行します。 指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にドキュメントの実行が終了するまで、毎週指定された曜日の指定された時間にインスタンスが作成されます。
業務時間	開始時間と終了時間の間に特定の区間 (N 時間ごとに) ドキュメントを実行します。また、ドキュメントを週の毎日実行するのか、または特定の曜日に実行するのかを指定し、ドキュメントを定期的に行う日付範囲 (たとえば、2020 年 2 月 13 日から 2020 年 6 月 12 日まで) を設定することもできます。

オプション	説明
月単位	<p>ドキュメントを指定した日付の間隔で N カ月に 1 回実行します。</p> <p>指定された開始時間に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にドキュメントの実行が終了するまで、N カ月ごとに指定された時間にインスタンスが作成されます。</p>
特定の日付	<p>[日付] に設定した場合は、毎月指定された日の指定された開始時間に、インスタンスを作成します。指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にドキュメントの実行が終了するまで、毎月指定された日の指定された時間にインスタンスが作成されます。</p> <p>[平日] に設定した場合は、月の週の特定の曜日を選択できます (例: 月の第 1 火曜日、月の第 3 月曜日など)。</p>
カレンダー	<p>指定されたカレンダーの日付の指定された開始時間に、インスタンスを作成します。</p> <div> <p>① 注記</p> <p>BI ラUNCHパッドではカレンダーを作成できません。これは、まずセントラル管理コンソールで作成してから、BI ラUNCHパッドで表示できます。詳細については、カレンダーの作成を参照してください。</p> </div>

9.1.3.1 定期的なスケジュールパターンのデフォルト終了日の変更

アプリケーションの `global.properties` ファイルを介して、定期的なインスタンスのデフォルトスケジュールの [終了日] を特定の値に変更することができます。

- BOE インストールフォルダから、`global.properties` ファイルに移動します。
例: `C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\tomcat\webapps\BOE\WEB-INF\config\default\global.properties`
- ファイル `global.properties` をテキストエディタで開きます。
- `schedule.end.year` プロパティを検索し、要件に応じて、値を任意の特定の数値に変更します。

① 注記

デフォルトの [終了日] 値は整数にする必要があります。たとえば、`schedule.end.year=2` のようになります。

- `global.properties` ファイルを保存します。

① 注記

行った変更は、新しいスケジュールにのみに影響し、定期的なスケジュールや保存されたパブリケーションには影響しません。

5. アプリケーションサーバを再起動します。
これで、デフォルトの **[終了日]** が新しい値に設定されました。

9.1.4 プロンプト

プロンプトは、Web Intelligence によって表示される質問形式のフィルタで、特定の値を選択して回答します。

プロンプトに回答することにより、レポートに表示されるデータが決まります。たとえば、販売で作業しており、プロンプトによって地域を選択するように求められた場合、ドキュメントには選択した地域に関連するデータのみが表示されます。

ドキュメントをスケジュールする場合、プロンプトに静的な値を使用することができます。この値はスケジュールリングジョブの作成時に指定します。SAP Business Explorer (SAP BEx) クエリの場合、BW 変数のデフォルト値を使用して動的にプロンプトに入力することができます。このメカニズムでは、SAP Exit 変数を含め、任意の種類の SAP Business Warehouse (SAP BW) デフォルト値がサポートされます。

動的なプロンプト値も、SAP HANA 変数、およびそのデフォルト値に動的な式が含まれているユニバースプロンプトパラメータに対してサポートされています。

① 注記

BEx でのスケジュールしたドキュメントで動的なプロンプト値を使用するには、必ず以下の処理を行ってください。

- **[変数マネージャ]** ウィザードで **[実行時にクエリの定義済みデフォルト値を使用]** オプションを選択します。
- **[最後に選択したプロンプト値を消去]** オプションを選択してドキュメントデータを消去します。
- スケジュールリングジョブの作成時にプロンプト値を消去します。

オプションがタブにどのように表示されるかは、システム管理者がパラメータを設定した方法に応じて、ドキュメントごとに異なります。

① 注記

[プロンプト] タブが表示されない場合は、スケジュールするドキュメントにプロンプトが含まれていないためです。

定数および動的値の処理

プロンプトの値の変更は、**[変更]** をクリックして値を編集するか、**[定数値]** または **[動的な値]** をクリックしてそれを動的または定数に設定して行うことができます。

定数値は、計算が必要ない固定の値です。Web Intelligence は、定数値ですぐにドキュメントをスケジュールできます。

動的な値は、値をフィルタして計算するために他のドキュメントに基づいて処理されます。

SAP BEx 変数、SAP HANA 変数、およびユニバース変数では、動的な値がサポート可能です。動的な値には式が含まれていて、実行時に計算が必要です。Web Intelligence は、ユニバース情報エンジン、SAP BEx、または SAP HANA のいずれかのバックエンドに対して計算を委任し、値が計算されるとドキュメントをスケジュールします。たとえば、SAP BW Exit またはカスタム Exit 変数がプロンプトで動的変数として頻繁に使用されます。

ソースドキュメントのプロンプト値を使用

[ソースドキュメントのプロンプト値を使用](#)オプションを選択できます。この場合、ドキュメントを最新表示して新しいインスタンスを生成すると、プロンプトへの回答には、ドキュメントに保存された回答が使用されます。これらの回答は、前回の最新表示から提供および保存された場合も、プロンプトのデフォルト値である場合もあります。

9.1.5 形式

BI プラットフォームで生成されたインスタンスは、さまざまな形式で保存することができます。

ドキュメントをスケジュールする場合、以下の形式でインスタンスを保存できます。

- Web Intelligence: .WID
- Microsoft Excel - データ: .XLSX
- Microsoft Excel - レポート: .XLSX
- Adobe Acrobat: .PDF
- カンマ区切り値 (CSV) - データ: .CSV
- カンマ区切り値 (CSV) アーカイブ - レポート: .ZIP
- テキスト: .TXT
- HTML アーカイブ: .ZIP

ドキュメントを公開する場合、以下の形式でインスタンスを保存できます。

- Web Intelligence: .WID
- Microsoft Excel: .XLSX
- Adobe Acrobat: .PDF
- MIME HTML: .MHTML

Excel 形式

スケジュールの対象をレポート全体にするか、データプロバイダのみにするかを選択できます。クエリのデータプロバイダをエクスポートするには、[\[Microsoft Excel - データ\]](#)を選択します。エクスポートする際、各データプロバイダにつき1つのシートが Excel ファイルで作成されます。シート名はデータプロバイダ名になります。

① 注記

このオプションを利用できるのは、[キューブのデータのエクスポート] セキュリティ権限が付与されている場合に限られます。

個別のレポートをエクスポートするには、[Microsoft Excel - レポート] を選択します。

CSV 形式

以下の CSV オプションを保存することを選択できます。

- CSV - データ: データプロバイダのコンテンツを含む CSV ファイルを生成します。
- CSV アーカイブ - レポート: CSV ファイルの ZIP ファイルを生成します。各 CSV は 1 つのレポートに対応しており、そのレポートデータを含みます。

選択する形式に関係なく、[デフォルトのオプション] トグルをオフに設定して CSV オプションを編集し、テキスト修飾子、列区切り文字、および文字セットを指定することができます。列区切り文字ドロップダウンで、たとえばパイプ (|) など、使用したいカスタム文字を直接に入力することもできます。必要に応じ、専用オプションをオンにすることで、データプロバイダごとに 1 つの CSV ファイルを生成することができます。

チャート解像度の設定

HTML アーカイブを保存するようにドキュメントをスケジュールする場合は、アーカイブに含めるレポートを選択して、各レポートの名前が一意であることを確認します。

HTML アーカイブには、ダウンロード可能な単一の ZIP ファイルに以下のファイルとフォルダが含まれます。

- アーカイブ内のレポートへのリンクを含むデフォルトの index.html ファイル。レポートを表示するには、そのレポート名を含むリンクをクリックします。
デフォルトの index.html ファイルは、業務ニーズに応じて作成したファイルに置き換えることができます。
- JavaScript ファイル report.js は、アーカイブに含まれるドキュメントからのレポート名を返します。このスクリプトは、index.html ファイル内のリンクを生成するために使用されます。
- アーカイブ内の各レポートのサブフォルダ。サブフォルダには、レポートの追加コンテンツが含まれます。

管理者は、C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\java\lib\procWebiPublishing.properties ファイルで、スケジュールによってピクチャとしてレンダリングされるチャートの解像度 (DPI) を管理します。

```
#webi scheduling/publishing properties
#Tue Dec 20 09:47:08 CET 2016
concurrency.minimum_documents_per_connection=20
processing.disable_refresh=false
concurrency.number_of_connections=1
filtering.keep_existing_filters=true
rendering.pdf.dpi=96
```

ZIP ファイルの出力先がファイルシステム、FTP、またはセキュア FTP である場合にスケジュールを定義するときは、ZIP ファイルの名前を BI プラットフォームルールに基づいて自動的に付けるか、または明示的に付けるか、いずれかのオプションを選択できます。

関連情報

[ドキュメント、レポート、またはデータのエクスポート](#)

9.1.6 キャッシュ

スケジュールされたドキュメントを BI プラットフォームが実行するたびに、インスタンスが生成され、Output File Repository Server に保存されます。ドキュメントのキャッシュに使用する形式を選択できます。

キャッシュ形式を選択する前に、以下を確認します。

- Web Intelligence ドキュメントでコンテキストが設定されていること。複数のコンテキストが存在する場合、スケジュールの前に正しいコンテキストを使用してドキュメントを最新表示します。
- Web Intelligence がドキュメントの出力形式として選択されていること。別の出力形式が選択されている場合は、キャッシュオプションは効果がありません。

⚠ 警告

キャッシュ形式を選択しないと、プラットフォームではドキュメントがキャッシュされません。

9.1.7 イベント

イベントベースのスケジュールおよび公開では、スケジュールされたドキュメントおよびパブリケーションに対して追加制御を行うことができます。特定のイベント発生後にのみドキュメントが処理されるように、イベントを設定できます。

イベント発生に合わせてドキュメントを適切にスケジュールするには、最初にイベントを作成してからドキュメントをスケジュールする必要があります。イベントを作成した後で、スケジューリングジョブをトリガする必須条件としてそのイベントを選択することができます。そのイベントが発生した場合にのみ、BI プラットフォームによってスケジューリングジョブがトリガされます。

ドキュメントをスケジュールするときに、セントラル管理コンソール (CMC) でイベントを作成してから、BI ラウンチパッドでそのイベントを選択します。イベントの作成方法の詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォームユーザガイドの該当する節を参照してください。

9.1.8 スケジューリングサーバグループ

スケジュールされたドキュメントを実行するデフォルトサーバを設定することができます。

サーバグループに関する以下の 3 つのオプションを使用することができます。

- **最初の利用可能サーバを使用します:** スケジュール時に最も多くのリソースが空いているサーバでドキュメントを実行します。これがデフォルトの選択です。
- **サーバグループに優先順位を付けます:** 特定のサーバグループのサーバでドキュメントを実行します。選択したサーバグループに使用できるサーバがない場合、ドキュメントは次に利用可能なサーバで実行されます。

- **このサーバグループを使用します:** 特定のサーバグループのサーバのみでドキュメントを実行します。選択したサーバグループに使用できるサーバがない場合、ドキュメントは次に利用可能なサーバで実行されます。

ベストプラクティスとして、BI プラットフォームのデプロイメント環境でフェデレーションを使用し、ドキュメントが配置されているサイトでドキュメントを実行する場合は、[\[元のサイトで実行\]](#) オプションをオンにします。

9.1.9 出力先

特定の出力先に送信するドキュメントインスタンスをスケジュールできます。

スケジュールページには、BI 受信ボックス、FTP、SFTP サーバ、ファイルシステムなどのさまざまな出力先が表示されます。

必要に応じて複数の出張先を一度に選択して、レポートをスケジュールすることができます。管理者は、BI レポートのスケジュール時に、セントラル管理コンソールからこの操作を実行できます。これにより、スケジュールの数を最適化できます。

利用できる出力先は、システム管理者が有効にしている出力先とユーザのアクセス権限によって変わります。管理者があるオブジェクトのある出力先を指定していた場合、[\[スケジュール\]](#) ダイアログボックスにその出力先のオプションが一覧表示されます。出力先のオプションを設定するか、別の出力先を選択することができます。ほとんどの出力先で、追加情報を設定する必要があります。

① 注記

セントラル管理コンソール (CMC) の [\[サーバ\]](#) エリアで、デフォルトの Adaptive Job Server の設定を変更できます。詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

⚠ 警告

システム内に数万人のユーザが存在する場合は、[\[出力先\]](#) タブのロードが遅くなることがあります。この問題が発生した場合は、[SAP ノート 2897486](#) を参照して、その理由と修正方法を確認してください。

デフォルトの **Enterprise** の場所のオプション

オプション	説明
出力先	デフォルトの Enterprise の場所 スケジュールされたジョブは、Output File Repository Server (FRS) で実行されます。この出力先では、追加のオプションを設定する必要はありません。履歴のインスタンスはデフォルトの Enterprise サーバに保存されますが、他の出力先には保存されません。

BI 受信ボックスのオプション

オプション	説明
出力先	BI 受信ボックス
履歴にインスタンスを保持する	<p>ドキュメントの履歴にこのインスタンスのコピーが保持されます。このオプションはデフォルトで有効になっています。</p> <p>BI プラットフォームでインスタンスを Output FRS から自動的に削除してサーバ上のインスタンス数を最小限に抑える場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>このオプションの選択が解除されている場合でも、履歴には、配信ルールを満たしていないことが原因で送信されなかった、スケジュールされたドキュメントのインスタンスが保持されます。</p>
デフォルト設定を使用	<p>BI 受信ボックスのデフォルトの Adaptive Job Server 値を使用します。</p> <p>デフォルトの Adaptive Job Server 値を使用しない場合はこのオプションを無効にして、表示される出力先受信者オプションを設定します。</p>
[利用可能な受信者] および [選択した受信者]	[利用可能な受信者] 一覧で、インスタンスの送信先とするユーザまたはユーザグループを選択して、[>] をクリックして [選択した受信者] 一覧にユーザまたはユーザグループを追加します。
タイトルの検索 (利用可能な場合)	利用可能な受信者リストでユーザをすばやく見つけるには、 タイトルの検索 ボックスに受信者のユーザ名、フルネーム、または電子メールアドレスを入力します。
ターゲット名	<ul style="list-style-type: none">自動的に生成される名前をインスタンスのファイル名に使用する場合は、自動で生成された名前を使用するを選択します。インスタンスのファイル名を選択するには、指定の名前を使用するを選択し、名前を入力するか、ブレースホルダの追加リストからファイル名の変数を選択します。複数のタイプの変数 [タイトル]、[ID]、[所有者]、[日時]、(ユーザの)[電子メールアドレス]、[ユーザのフルネーム]、および [ファイル拡張子] から選択できます。
送信形式	<ul style="list-style-type: none">インスタンスへのショートカットを受信者に送信するには、[ショートカット]を選択します。インスタンスのコピーを受信者に送信するには、[コピー]を選択します。

電子メールのオプション

オプション	説明
出力先	電子メール

オプション	説明
履歴にインスタンスを保持する	<p>ドキュメントの履歴にこのインスタンスのコピーが保持されます。このオプションはデフォルトで有効になっています。</p> <p>BI プラットフォームでインスタンスを Output FRS から自動的に削除してサーバ上のインスタンス数を最小限に抑える場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>このオプションの選択が解除されている場合でも、履歴には、配信ルールを満たしていないことが原因で送信されなかった、スケジュールされたドキュメントのインスタンスが保持されます。</p>
デフォルト設定を使用	<p>電子メールのデフォルトの Adaptive Job Server 値を使用します。</p> <p>デフォルトの Adaptive Job Server 値を使用しない場合はこのオプションを無効にして、表示される出力先受信者オプションを設定します。</p>
差出人	<p>差出人の電子メールアドレスを入力するか、ブレースホルダの追加リストから電子メールアドレスの変数を選択します。複数のタイプの変数 [タイトル]、[ID]、[所有者]、[日時]、(ユーザの)[電子メールアドレス]、および [ユーザのフルネーム] から選択できます。変数をクリックして追加します。電子メールアドレスは、セミコロン (;) で区切ります。</p> <p>システム設定によっては、このオプションを使用できない場合があります。</p>
宛先	<p>インスタンスを送信する電子メールアドレスをそれぞれ入力するか、ブレースホルダの追加リストから電子メールアドレスの変数を選択します。複数のタイプの変数 [タイトル]、[ID]、[所有者]、[日時]、(ユーザの)[電子メールアドレス]、および [ユーザのフルネーム] から選択できます。変数をクリックして追加します。電子メールアドレスは、セミコロン (;) で区切ります。</p>
CC	<p>電子メールおよびインスタンスのコピーを送信する電子メールアドレスをそれぞれ入力するか、ブレースホルダの追加リストから電子メールアドレスの変数を選択します。複数のタイプの変数 [タイトル]、[ID]、[所有者]、[日時]、(ユーザの)[電子メールアドレス]、および [ユーザのフルネーム] から選択できます。変数をクリックして追加します。電子メールアドレスは、セミコロン (;) で区切ります。</p>
BCC	<p>非公開受信者の電子メールアドレスをそれぞれ入力するか、[ブレースホルダの追加] リストから電子メールアドレスの変数を選択します。複数のタイプの変数 [タイトル]、[ID]、[所有者]、[日時]、(ユーザの)[電子メールアドレス]、および [ユーザのフルネーム] から選択できます。変数をクリックして追加します。電子メールアドレスは、セミコロン (;) で区切ります。</p>
件名	<p>電子メールの件名を入力します。</p>
メッセージ	<p>電子メールの本文について、さまざまな書式設定オプションを含むカスタムツールバーを含むリッチテキストエディタを使用して、メッセージコンテンツをカスタマイズできるようになりました。</p> <div> <p>④ 注記</p> <p>電子メールにイメージを挿入すると、使用されているイメージリンクに送信者および受信者の両方がアクセスできる場合、イメージが自動的にダウンロードされます。</p> </div>

オプション	説明
添付ファイルの追加	インスタンスを含む電子メールに添付ファイルを追加する場合は、このチェックボックスをオンにします。
ファイル名	<ul style="list-style-type: none"> 自動的に生成される名前をインスタンスのファイル名に使用する場合は、[自動で生成された名前を使用する] をオンにします。 インスタンスのファイル名を選択するには、[指定の名前を使用する] をオンにして、名前を入力するか、[プレースホルダの追加] 一覧からファイル名の変数を選択します。インスタンスファイル名に自動的にファイル拡張子を追加する場合は、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスをオンにします。ファイル拡張子を追加しない場合は、ドキュメントを開くことができないことがあります。
SSL を有効にする	

FTP サーバのオプション

オプション	説明
出力先	FTP サーバ
履歴にインスタンスを保持する	<p>ドキュメントの履歴にこのインスタンスのコピーが保持されます。このオプションはデフォルトで有効になっています。</p> <p>BI プラットフォームでインスタンスを Output FRS から自動的に削除してサーバ上のインスタンス数を最小限に抑える場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>このオプションの選択が解除されている場合でも、履歴には、配信ルールを満たしていないことが原因で送信されなかった、スケジュールされたドキュメントのインスタンスが保持されます。</p>
デフォルト設定を使用	<p>FTP サーバのデフォルトの Adaptive Job Server 値を使用します。</p> <p>デフォルトの Adaptive Job Server 値を使用しない場合はこのオプションを無効にして、表示される出力先受信者オプションを設定します。</p> <p>CMC の [サーバ] エリアで、値を変更できます。詳細については、<i>SAP BusinessObjects Business Intelligence</i> プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。</p>
ホスト	インスタンスを送信する FTP サーバホストコンピュータの IP アドレスを入力します。
ポート	インスタンスを送信する FTP サーバのポートを入力します。デフォルトは「21」です。
ユーザ名	FTP サーバにオブジェクトをアップロードするアクセス権限を持つユーザ名を入力します。
パスワード	FTP サーバへのアクセスに必要なパスワードを入力します。

オプション	説明
アカウント	<p>FTP サーバへのアクセスに必要なアカウントを入力します。</p> <p>アカウントは標準の FTP プロトコルの一部ですが、実装されている場合はまれです。アカウントは、FTP サーバで必要な場合にのみ入力します。</p>
ディレクトリ	<p>インスタンスを送信する FTP ディレクトリへのパスを入力します。</p>
ファイル名	<ul style="list-style-type: none"> 自動的に生成される名前をインスタンスのファイル名に使用する場合は、[自動で生成された名前を使用する] をオンにします。 インスタンスのファイル名を選択するには、[指定の名前を使用する] をオンにして、名前を入力するか、[プレースホルダの追加] 一覧からファイル名の変数を選択します。複数のタイプの変数 [タイトル]、[ID]、[所有者]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、[ユーザのフルネーム]、および [ファイル拡張子] から選択できます。 <p>インスタンスファイル名に自動的にファイル拡張子を追加する場合は、[ファイル拡張子を追加する] をオンにします。ファイル拡張子を追加しない場合は、ドキュメントを開くことができないことがあります。</p>

ファイルシステムのオプション

オプション	説明
出力先	<p>ファイルシステム</p>
履歴にインスタンスを保持する	<p>ドキュメントの履歴にこのインスタンスのコピーが保持されます。このオプションはデフォルトで有効になっています。</p> <p>BI プラットフォームでインスタンスを Output FRS から自動的に削除してサーバ上のインスタンス数を最小限に抑える場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>このオプションの選択が解除されている場合でも、履歴には、配信ルールを満たしていないことが原因で送信されなかった、スケジュールされたドキュメントのインスタンスが保持されます。</p>
デフォルト設定を使用	<p>ファイルシステムのデフォルトの Adaptive Job Server 値を使用します。</p> <p>デフォルトの Adaptive Job Server 値を使用しない場合はこのオプションを無効にして、表示される出力先受信者オプションを設定します。</p>
ユーザ名	<p>出力先ディレクトリにファイルを保存するアクセス権限を持つユーザ名を入力します。</p> <p>Windows のサーバにだけ、ユーザ名とパスワードを指定することができます。</p>
パスワード	<p>出力先ディレクトリへのアクセスに必要なユーザパスワードを入力します。</p> <p>Windows のサーバにだけ、ユーザ名とパスワードを指定することができます。</p>

オプション	説明
ディレクトリ	ローカルハードディスクの場所がマップされた場所へのパス、またはインスタンスを送信するディレクトリへの UNC パスを入力します。 Web Intelligence ドキュメントをスケジュールしていて、変数 (インスタンスのタイトル、オーナー、日時、ユーザ名など) に基づいてフォルダを作成する場合は、プレースホルダを使用します。プレースホルダは、このボックスのテキストの後に挿入されます。
ファイル名	<ul style="list-style-type: none"> 自動的に生成される名前をインスタンスのファイル名に使用する場合は、[自動で生成された名前を使用する] をオンにします。 インスタンスのファイル名を選択するには、[指定の名前を使用する] をオンにして、名前を入力するか、[プレースホルダの追加] 一覧からファイル名の変数を選択します。複数のタイプの変数 [タイトル]、[ID]、[所有者]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、[ユーザのフルネーム]、および [ファイル拡張子] から選択できます。 インスタンスファイル名に自動的にファイル拡張子を追加する場合は、[ファイル拡張子を追加する] をオンにします。ファイル拡張子を追加しない場合は、ドキュメントを開くことができないことがあります。

Google ドライブオプション

オプション	説明
出力先	Google ドライブ
履歴にインスタンスを保持する	ドキュメントの履歴にこのインスタンスのコピーが保持されます。このオプションはデフォルトで有効になっています。 BI プラットフォームでインスタンスを Output FRS から自動的に削除してサーバ上のインスタンス数を最小限に抑える場合は、このチェックボックスをオフにします。 このオプションの選択が解除されている場合でも、履歴には、配信ルールを満たしていないことが原因で送信されなかった、スケジュールされたドキュメントのインスタンスが保持されます。
クラウドドライブフォルダ詳細	インスタンスを送信する Google ドライブディレクトリへのパスを入力します。
ファイル名	<ul style="list-style-type: none"> 自動的に生成される名前をインスタンスのファイル名に使用する場合は、[自動で生成された名前を使用する] をオンにします。 インスタンスのファイル名を選択するには、[指定の名前を使用する] を選択し、名前を入力するか、[プレースホルダの追加] リストからファイル名の変数を選択します。 複数のタイプの変数 [タイトル]、[ID]、[所有者]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、[ユーザのフルネーム]、および [ファイル拡張子] から選択できます。

① 注記

BI ラウンチパッドで認証が完了していない場合、[\[Google ドライブ\]](#) または [\[Microsoft OneDrive\]](#) へのスケジュールを選択すると、認証を要求するプロンプトが表示されます。

Microsoft OneDrive オプション

オプション	説明
出力先	Microsoft OneDrive
履歴にインスタンスを保持する	<p>ドキュメントの履歴にこのインスタンスのコピーが保持されます。このオプションはデフォルトで有効になっています。</p> <p>BI プラットフォームでインスタンスを Output FRS から自動的に削除してサーバ上のインスタンス数を最小限に抑える場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>このオプションの選択が解除されている場合でも、履歴には、配信ルールを満たしていないことが原因で送信されなかった、スケジュールされたドキュメントのインスタンスが保持されます。</p>
クラウドドライブフォルダ詳細	インスタンスを送信する Microsoft ディレクトリへのパスを入力します。
ファイル名	<ul style="list-style-type: none">自動的に生成される名前をインスタンスのファイル名に使用する場合は、[自動で生成された名前を使用する] をオンにします。インスタンスのファイル名を選択するには、[指定の名前を使用する] をオンにします。名前を入力するか、[プレースホルダの追加] 一覧からファイル名の変数を選択します。複数のタイプの変数[タイトル]、[ID]、[所有者]、[日時]、(ユーザの)[電子メールアドレス]、[ユーザのフルネーム]、および[ファイル拡張子] から選択できます。

9.1.10 パーソナライゼーション

パーソナライゼーションとは、パブリケーションの受信者に対して関連するデータのみが表示されるように、ソースドキュメントのデータをフィルタリングする処理です。

パーソナライゼーションでは、データのビューを変更しますが、データソースからクエリされたデータを変更することはありません。

以下の図では、パーソナライゼーションの動作方法を示します。異なるタイプのデータが含まれているドキュメントを作成しています。タイプ 1、2、および 3 がすべてドキュメントに含まれています。ドキュメントを 3 名の受信者に送信する必要があります。各受信者は 1 つのタイプのデータを受信します。最初の受信者はタイプ 1 のデータ、2 番目の受信者はタイプ 2 のデータ、3 番目の受信者はタイプ 3 のデータをそれぞれ受信します。



ソースドキュメントをパーソナライズするには、以下を実行します。

- Enterprise 受信者の場合は、パブリケーションを設計するときにプロファイルを適用する必要があります。

① 注記

Enterprise 受信者のデータのパーソナライズにプロファイルを使用する前に、セントラル管理コンソールで、プロファイルを作成および設定する必要があります。プロファイルを追加する必要がある場合は、[プロファイルの作成](#)を参照してください。

- 動的受信者の場合は、ソースドキュメントのデータフィールドまたは列を動的受信者ソースのデータにマップできます。たとえば、ソースドキュメントの "顧客 ID" フィールドを動的受信者ソースの "受信者 ID" フィールドにマップできます。

パーソナライゼーションの完了後、パーソナライズされていないパブリケーションインスタンスを受信する受信者の一覧を表示するには、[新規パブリケーション] ダイアログボックスで、**追加オプション** **詳細** を選択して、[パーソナライゼーションが適用されないユーザを表示] チェックボックスを選択します。

関連情報

[ソースドキュメント名のパーソナライズされたプレースホルダ \[61 ページ\]](#)

[電子メールフィールドのパーソナライズされたプレースホルダ \[61 ページ\]](#)

ソースドキュメントに対してパーソナライズされたプレースホルダを選択する
電子メールフィールドに対してパーソナライズされたプレースホルダを選択する
グローバルプロファイルターゲットを使用してドキュメントをパーソナライズする
フィールドをフィルタリングすることでドキュメントをパーソナライズする

9.1.10.1 ソースドキュメント名のパーソナライズされたプレースホルダ

プレースホルダは、変数データのコンテナです。パーソナライズされたプレースホルダをソースファイル名に追加すると、受信者はフィルタリングされたデータを識別しやすくなります。

パーソナライゼーション値が異なる複数のユーザグループに属している受信者は、同じソースドキュメントの複数のバージョンの違いをそのコンテンツを表示することなく区別できます。パブリケーションに複数のソースドキュメントが含まれている場合、すべてのソースドキュメントが同じフィールドでフィルタリングされていなければ [指定の名前を使用する] の [プレースホルダの追加] 一覧にパーソナライズされたプレースホルダは含まれません。

レポートで利用できるパーソナライズされたプレースホルダは、次のとおりです。

- %fieldname_VALUE%
たとえば、[電子メールアドレス] プレースホルダを選択すると、[指定の名前を使用する] ボックスに [%SI_EMAIL_ADDRESS%] と表示されます。実行時に、プレースホルダはドキュメントをフィルタリングするために使用されるフィールドの値に置換されます。このプレースホルダは受信者ごとに固有です。
- %fieldname_NAME%
たとえば、[タイトル] プレースホルダを選択すると、[指定の名前を使用する] ボックスに [%SI_Name%] と表示されます。実行時に、プレースホルダはフィールドの実際の名前に置換されます。このプレースホルダはすべての受信者で同じです。

関連情報

ソースドキュメントに対してパーソナライズされたプレースホルダを選択する

9.1.10.2 電子メールフィールドのパーソナライズされたプレースホルダ

プレースホルダは、変数データのコンテナです。パブリケーションの電子メール送信時に [件名] ボックスおよび [メッセージ] ボックスでパーソナライズされたプレースホルダを使用できます。

パーソナライゼーション時にドキュメントで使用されるフィルタごとに、以下のプレースホルダが [プレースホルダの追加] 一覧に表示されます。

- %Field - Query 1-VALUE%
実行時に、プレースホルダはドキュメントをフィルタリングするために使用されるパーソナライズされた値に置換されます。このプレースホルダは受信者ごとに固有です。

- %Field - Query 1-NAME%

実行時に、プレースホルダはフィールドの名前に置換されます。このプレースホルダはすべての受信者で同じです。

[件名] ボックスおよび [メッセージ] ボックスでパーソナライズされたプレースホルダを使用する前に、パブリケーションのすべてのソースドキュメントが同じフィールドでパーソナライズされていることを確認します。パブリケーションに複数のソースドキュメントが含まれている場合、すべてのソースドキュメントが同じフィールドでフィルタされていると、[件名] および [メッセージ] ボックスの [プレースホルダの追加] 一覧にパーソナライゼーションパラメータが表示されます。

関連情報

[電子メールフィールドに対してパーソナライズされたプレースホルダを選択する](#)

9.1.11 スケジュールの配信ルール

不正なドキュメントや空のドキュメントが送信されないように、スケジュールされたドキュメントの配信ルールを設定します。ルールと一致しないドキュメントのステータスを定義して、これらのドキュメントの識別と再スケジュール、接続詳細の変更、またはその他の適切なアクションを実行できるようにします。

以下の出力先に送信されるためにドキュメントが一致する必要がある条件を定義します。

- BI 受信ボックス
- 電子メール
- FTP サーバ
- ファイルシステム
- SFTP サーバ

ドキュメントは、これらの条件と一致しない場合には送信されません。ドキュメントについて、以下のいずれかまたは両方の条件を選択できます。

- [スケジュール済みコンテンツが正常に最新表示され、部分的ではありません。](#) : ドキュメントは、そのドキュメントのすべてのデータプロバイダが正常に最新表示された場合にのみ送信されます。不完全な結果からのデータが含まれるドキュメントは、送信されません。
- [スケジュール済みコンテンツにデータが含まれています。](#) : ドキュメントは、ドキュメント内の少なくとも 1 つのレポートにデータが含まれている場合にのみ送信されます。空のドキュメントは送信されません。

条件を選択する際、以下のように、条件と一致しないドキュメントの履歴に表示されるステータスを定義することもできます。

- [警告](#) (デフォルト)
- [失敗](#)

ドキュメントのレポートに複数のクエリがあり、1 つまたは複数のクエリが部分的な結果を返す場合、[スケジュール済みコンテンツが正常に最新表示され、部分的ではありません。] ルールを選択すると、レポートは、[警告] ステータスの場合は送信されますが、[失敗] ステータスの場合は送信されません。

両方の条件を選択し、一方の条件のステータスが [警告] で、他方の条件のステータスが [失敗] である場合、履歴には、[失敗] が表示されます。

9.1.12 公開の配信ルール

配信ルールを設定して、パブリケーションの処理と配信を微調整することができます。

ドキュメントに配信ルールを設定すると、パブリケーションは特定の条件と一致する場合にのみ受信者に配信されます。BI プラットフォームでは、複数の種類の配信ルールがサポートされています。ただし、Web Intelligence ドキュメントの場合は、受信者の配信ルールのみを設定することができます。受信者の配信ルールには次の 2 種類があります。

- 条件に一致するときに個々のドキュメントを配信する
- すべての条件が一致する場合のみすべてのドキュメントを配信する

パブリケーションの各ドキュメントでは、配信ルールが常に条件と結び付けられます。これは、公開者としてパブリケーション配信先の受信者に基づいてパブリケーションプロセスを微調整する 1 つの方法です。選択できる条件は 4 つあります。

- 常に配信する
- 配信しない
- スケジュールされているコンテンツにデータが含まれている場合
- スケジュールされているコンテンツが完全に最新表示されている場合

意図的に選択した条件をドキュメントが満たせなかった場合は、その特定のドキュメントの配信をキャンセルするか、パブリケーション全体をキャンセルすることができます。

9.2 ドキュメントのスケジュール

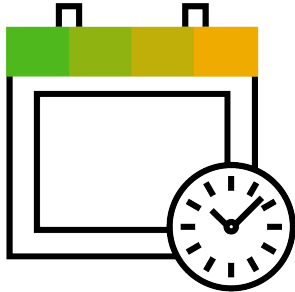
指定された時刻に自動的に実行されるよう、ドキュメントをスケジュールできます。スケジュールしたドキュメントが正しく実行されるたびに、そのドキュメントのインスタンスが作成されます。

インスタンスは、ドキュメントの実行時刻以降のデータを含むドキュメントのバージョンです。インスタンスの一覧には、ドキュメントの履歴でアクセスできます。インスタンスのステータスをチェックして、インスタンスが送信されたかどうか、および送信されなかった場合にはその理由を確認できます。オンデマンドでドキュメントを表示するアクセス権を持っていれば、任意のインスタンスを最新表示して、データソースから最新のデータが取得できます。インスタンスをスケジュールおよび表示することにより、常にドキュメントの最新情報が表示、印刷および配布されます。

デフォルトのタイムゾーンは、BI プラットフォームを実行している Web サーバのローカルタイムゾーンであり、ユーザが接続する Central Management Server (CMS) マシンのタイムゾーンではありません。ドキュメントをスケジュールする前に、BI ラウンチパッドの基本設定でローカルタイムゾーンを選択していることを確認します。さらに、ドキュメントを利用可能な複数の場所 (ファイルシステム、FTP、SFTP、SMTP、BI 受信ボックス、Google ドライブ) に対してスケジュールするために必要とされるセキュリティ権限を付与されていることも確認します。基本設定を表示または設定するか、またはドキュメントをスケジュールするためのアクセス権がない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

	詳細情報	参照
ドキュメントのスケジュール	ドキュメントのスケジュール	ドキュメントのスケジュール [63 ページ]

詳細情報	参照
ドキュメントをスケジュールする	ドキュメントをスケジュールする [64 ページ]
最新のインスタンス	ドキュメントのインスタンスを表示する [67 ページ]



9.2.1 ドキュメントをスケジュールする

ドキュメントのスケジュール時に、デフォルトで特定の設定のオプションが設定されることがあります。必要に応じて、このような設定を変更することができます。

ドキュメントをスケジュールする前に、ドキュメントでコンテキストが設定されていることを確認します。ドキュメントに複数のコンテキストが存在する場合、スケジュールの前に正しいコンテキストを使用してドキュメントを最新表示します。

⚠ 警告

ナビゲーションタブを使用してドキュメントをスケジュールする場合は、システム内に数万人のユーザが存在すると、**[出力先]** タブのロードが遅くなることがあります。この問題が発生した場合は、[SAP ノート 2897486](#) を参照して、その理由と修正方法を確認してください。

1. BI ラウンチパッドで、**[最近使用したドキュメント]** セクション、**[ドキュメント]** タイル、または **[フォルダ]** タイルを使用して、スケジュールするドキュメントを参照します。
2. **...** > **[スケジュール]** をクリックします。
3. **[インスタンスタイトル]** タブで、スケジュールするインスタンスの名前を指定します。デフォルトでは、インスタンス名はドキュメント名です。
4. **[選択された配信の出力先]** セクションで **[追加]** をクリックします。デフォルトでは、この出力先は **[デフォルトの Enterprise の場所]** に設定されます。
5. **[出力先]** ドロップダウンで出力先を選択します。
6. **[定期]**、**[イベント]**、および **[サーバグループのスケジュール]** オプションをそれぞれ該当するセクションで設定します。

① 注記

いずれかのイベントが発生した後にスケジュールされたオブジェクトをトリガする場合は、**任意のイベント** チェックボックスを選択します。

7. **[レポート機能]** タブをクリックします。

8. [出力形式]、[プロンプト]、および[配信ルール] オプションをそれぞれ該当するセクションで設定します。
9. [スケジュール] をクリックします。

9.2.2 インスタンスを一時停止および再開する

[待機] または [定期] のステータスがある、スケジュールされたドキュメントのインスタンスを一時停止および再開することができます。

たとえば、Job Server がメンテナンス目的で停止されている場合は、スケジュールされたインスタンスを一時停止して BI プラットフォームがドキュメントを実行しないようにすることができます。Job Server が稼働していないとき、スケジュールされたジョブは失敗します。Job Server が再始動したら、このスケジュールされたインスタンスを再開することができます。

1. BI ラウンチパッドで、ホームページの [インスタンス] タイルをクリックします。
[最近使用したドキュメント] セクション、[ドキュメント] タイル、または [フォルダ] タイルを使用して、探しているドキュメントを参照することもできます。
2. ●●● > [履歴] をクリックします。
3. 専用のチェックボックスを使用して、1つまたは複数のドキュメントを選択し、一時停止または再開するインスタンスの横にある ●●● をクリックします。
4. [一時停止] または [再開] をクリックします。

9.2.3 インスタンスの出力ファイル形式

オブジェクトは、インスタンスの種類ごとに異なる形式で送信またはスケジュールすることができます。

Crystal レポートのファイル形式[crystal レポートノファイルケイシキ]

Crystal Reports オプションでは、他のファイル形式よりも多くの書式設定が保持されます。Crystal Reports 以外のファイル形式を選択する場合、BI プラットフォームはその形式で可能な限り多くの書式設定を保持します。ただし、レポートでは一部または全部の書式設定が失われる場合があります。スケジュール時にレポートの印刷を選択すると、レポートインスタンスが Crystal Reports 形式で自動的にプリンタに送信されます。このファイル形式は、レポートをスケジュールする際に選択したファイル形式と競合することはありません。

Crystal レポートを特定の形式にスケジュールする詳細については、SAP Crystal Reports 2020 ユーザガイドのエクスポートに関する情報を参照してください。

形式	説明
Crystal Reports	この .rpt 形式は、すべての出力形式オプションのほとんどの書式設定を保持します。この形式では、通常の編集可能なレポートが作成されます。
Crystal Reports (RPTR)	この .rptra 形式では、読み取り専用の Crystal レポートが作成されます。
Microsoft Excel (XLSX)	.xlsx 形式は、レポートコンテンツを 1 ページ単位で Excel のセルに変換するページベースの形式です。複数ページにわたるコンテンツは、1 つの Excel ワークシートにエクスポートされます。レポート要素が複数のセルにわたる場合は、エクスポートプログラムはセルをマージしてレポート要素を表します。このエクスポート形式でほとんどの書式設定が維持されますが、レポートの線要素とボックス要素はエクスポートされません。この形式は、既存の Microsoft Excel (XLS) エクスポートタイプの拡張であり、65536 行および 256 列の制限はありません。
Microsoft Excel (XLS)	この .xls 形式では、元のレポートの外観を維持しようとします。データを保持し、セルのマージを行いません。レポートの書式設定プロパティをいくつか指定する必要があります。
Microsoft Excel - データのみ (XLS)	この .xls 形式ではデータのみが保存され、各セルはフィールドを表します。
Microsoft Excel Workbook データのみ (XLSX)	この .xlsx 形式は、データに特化したレコードベースの形式です。ただし、この形式は大部分の形式を同様にエクスポートします。データのみ形式はセルを結合せず、各オブジェクトは 1 つのセルのみに追加されます。データのみ形式は、Crystal Reports に含まれる特定の種類の集計を Excel 関数としてエクスポートすることもできます。サポートされている集計は、SUM、AVERAGE、COUNT、MIN、および MAX です。
Microsoft Word	この .doc 形式では、グラフィックを含め、できるだけ多くの書式設定が保持されます。各オブジェクトは、個別のテキストフィールドに表示されます。
PDF	.pdf 形式
リッチテキスト形式 (RTF)	この .rtf 形式では、グラフィックを含め、できるだけ多くの書式設定が保持されます。各オブジェクトは、個別のテキストフィールドに表示されます。このオプションは、Web ビューアでのみ使用できます。
Microsoft Word - 編集可能 (RTF)	この .doc 形式で維持される書式設定は、 Microsoft Word (97-2003) オプションよりも少なくなります。テキストは行内に表示され、イメージはテキストと共に行内に配置されます。
テキスト	



形式	説明
ページ区切り付きテキスト	レポートの書式設定プロパティをいくつか指定する必要があります。
タブ区切りテキスト (TTX)	この形式では、複数の値の間にタブ文字を置きます。レポートの書式設定プロパティをいくつか指定する必要があります。
カンマ区切り値(CSV)	この .csv 形式では、複数の値の間に指定された文字を置きます。レポートの書式設定プロパティをいくつか指定する必要があります。 たとえば、このオプションを選択した場合は、区切り文字および区切り記号を入力する必要があります。
XML	.xml 形式


Web Intelligence ファイル形式

形式	注
Web Intelligence	.wid 形式
Microsoft Excel	.xlsx 形式
Adobe Acrobat	.pdf 形式
カンマ区切り値 (CSV)	.csv 形式
テキスト	.txt 形式

9.2.4 ドキュメントのインスタンスを表示する

スケジュールされたドキュメントのインスタンスを表示できます。

1. BI ラウンチパッドで、ホームページの **[インスタンス]** タイルをクリックします。
[最近使用したドキュメント] セクション、[ドキュメント] タイル、または [フォルダ] タイルを使用して、探しているドキュメントを参照することもできます。
2.  > **[履歴]** をクリックします。
3. インスタンスを表示するには、 > **[表示]** をクリックします。

また、 > **[最新のインスタンスを表示]** をクリックして、スケジュールされたドキュメントの最新インスタンスを確認することもできます。Web Intelligence インスタンスを編集することはできませんが、保存および消去することはできません。代わりに、**[名前を付けて保存]** 機能を使用します。

9.2.5 Crystal レポートインスタンスの書式設定オプション

Crystal レポートインスタンスをいくつかの出力形式にスケジュールする場合、追加のオプションの設定が必要になる場合があります。

Microsoft Excel (XLS) および (XLSX) 形式

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none">すべてのページをレポートに含めるには、[すべて] を選択します。ページ範囲を含めるには、ページ指定を選択して最初を含めるページ番号を入力し、終了ボックスに最後に含めるページを入力します。
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスを選択します。他の書式設定オプションは設定できません。
列幅の設定	<ul style="list-style-type: none">レポート内のオブジェクトに基づいて Excel 列の幅を設定するには、[列幅を次のオブジェクトに合わせる] を選択し、リストで列幅を取得するレポート領域を選択します。一定の列幅を設定するには、列幅を一定にする (ポイント単位) を選択し、ボックスに幅を入力します。
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	<ul style="list-style-type: none">インスタンスにページヘッダとページフッタをエクスポートするタイミングを選択するには、[レポートごとに 1 回] または [各ページ] を選択します。インスタンスからページヘッダおよびページフッタを除外するには、[なし] を選択します。
ページごとにページ区切りを作成	レポート内の各ページの後にページ区切りを作成する場合は、このチェックボックスを選択します。
日付の値を文字列に変換する	レポート内の日付値をテキスト文字列としてエクスポートする場合は、このチェックボックスを選択します。
グリッドラインの表示	エクスポートしたドキュメントにグリッドラインを表示する場合は、このチェックボックスを選択します。

Microsoft Excel - データのみ (XLS) および Microsoft Excel - データのみ (XLSX) 形式

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスを選択します。他の書式設定オプションは設定できません。
列幅の設定	<ul style="list-style-type: none">レポート内のオブジェクトに基づいて Excel 列の幅を設定するには、[列幅を次のオブジェクトに合わせる] を選択し、リストで列幅を取得するレポート領域を選択します。一定の列幅を設定するには、列幅を一定にする (ポイント単位) を選択し、ボックスに幅を入力します。
オブジェクトの書式設定をエクスポートする	オブジェクトの書式設定を維持する場合は、このチェックボックスを選択します。
画像をエクスポートする	レポート内の画像をエクスポートする場合は、このチェックボックスを選択します。

オプション	説明
集計にワークシートの関数を使用する	レポートで集計を使用して Excel でワークシート関数を作成する場合は、このチェックボックスを選択します。
オブジェクトの相対位置を維持する	別のオブジェクトと相対的なオブジェクトの位置を維持する場合は、このチェックボックスを選択します。
列の配置を維持する	レポートの列内のテキスト配置を維持する場合は、このチェックボックスを選択します。
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	インスタンスにヘッダおよびフッタを含める場合は、このチェックボックスを選択します。
ページヘッダを簡略化する	簡略なページヘッダを使用する場合は、このチェックボックスを選択します。
グループのアウトラインを表示する	グループアウトラインを表示する場合は、このチェックボックスを選択します。

Microsoft Word 形式

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> すべてのページをレポートに含めるには、[すべて]を選択します。 ページ範囲を含めるには、ページ指定を選択して最初を含めるページ番号を入力し、終了ボックスに最後に含めるページを入力します。

PDF 形式

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> すべてのページをレポートに含めるには、[すべて]を選択します。 ページ範囲を含めるには、ページ指定を選択して最初を含めるページ番号を入力し、終了ボックスに最後に含めるページを入力します。
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスを選択します。他の書式設定オプションは設定できません。
グループツリーからブックマークを作成	レポートのツリー構造に基づいて PDF ファイルにブックマークを作成する場合は、このチェックボックスを選択します。これにより、レポート内での移動が簡単になります。

リッチテキスト形式 (RTF)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> すべてのページをレポートに含めるには、[すべて]を選択します。 ページ範囲を含めるには、ページ指定を選択して最初を含めるページ番号を入力し、終了ボックスに最後に含めるページを入力します。

Microsoft Word - 編集可能 (RTF) 形式

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> すべてのページをレポートに含めるには、[すべて]を選択します。 ページ範囲を含めるには、開始をクリックして最初に含めるページを入力し、終了ボックスに最後に含めるページを入力します。
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスを選択します。他の書式設定オプションは設定できません。
レポートのページごとに改ページする	レポート内の各ページの後にページ区切りを挿入する場合に、このチェックボックスを選択します。

テキスト形式 - Crystal Reports 2020 のみ

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスを選択します。他の書式設定オプションは設定できません。
インチあたりの文字数	インチあたりに含める文字数として 8 ～ 16 の値を入力します。この設定では、テキストファイルの表示方法と書式設定方法を指定します。

ページ区切り付きテキスト形式 - Crystal Reports 2020 のみ

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスを選択します。他の書式設定オプションは設定できません。
1 ページあたりの行数	ページ区切り間に含めるテキストの行数を入力します。
インチあたりの文字数	インチあたりに含める文字数として 8 ～ 16 の値を入力します。この設定では、テキストファイルの表示方法と書式設定方法を指定します。

新規のページ区切り付きテキスト形式 - Crystal Reports for Enterprise のみ

オプション	説明
ページ範囲	このオプションは、エクスポートするレポートページの数制限する場合に使用します。
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスを選択します。他の書式設定オプションは設定できません。
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	<p>インスタンスにページヘッダとページフッタをエクスポートする頻度を選択するには、[レポートごとに1回] または [各ページ] を選択します。</p> <p>インスタンスからページヘッダおよびページフッタを除外するには、[なし] を選択します。</p>
文字のエンコード	エクスポートされたテキストファイルで使用する文字エンコーディングシステムを選択します。UTF-8、UTF-16 リトルエンディアン、または UTF-16 ビッグエンディアンです。

オプション	説明
1 ページの最小行数	ページ区切り間に含めるテキストの行数を入力します。
フォームフィード文字の挿入	このチェックボックスを選択して、[1 ページの最小行数] フィールドの指定に従い、各ページの後にフォームフィード文字を挿入します。フォームフィード文字によって、改ページが挿入されます。
インチあたりの文字数	インチあたりに含める文字数として 8 ～ 20 の値を入力します。この設定では、テキストファイルの表示方法と書式設定方法を指定します。

新規のタブ区切りテキスト形式 – Crystal Reports for Enterprise のみ

オプション	説明
ページ範囲	このオプションは、エクスポートするレポートページの数制限する場合に使用します。
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスを選択します。他の書式設定オプションは設定できません。
二重引用符文字列フィールド	このチェックボックスを選択して、文字列フィールドを二重引用符 ("") で囲みます。引用符で囲んだ文字列を有意に保持するため、複数行テキストオブジェクトが 1 行にエクスポートされます。
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	インスタンスにページヘッダとページフッタをエクスポートする頻度を選択するには、[レポートごとに 1 回] または [各ページ] を選択します。 インスタンスからページヘッダおよびページフッタを除外するには、[なし] を選択します。
文字のエンコード	エクスポートされたテキストファイルで使用する文字エンコーディングシステムを選択します。UTF-8、UTF-16 リトルエンディアン、または UTF-16 ビッグエンディアンです。
1 ページの最小行数	ページ区切り間に含めるテキストの行数を入力します。
フォームフィード文字の挿入	このチェックボックスを選択して、[1 ページの最小行数] フィールドの指定に従い、各ページの後にフォームフィード文字を挿入します。フォームフィード文字によって、改ページが挿入されます。
インチあたりの文字数	インチあたりに含める文字数として 8 ～ 20 の値を入力します。この設定では、テキストファイルの表示方法と書式設定方法を指定します。

区切り値 (CSV) 形式

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスを選択します。他の書式設定オプションは設定できません。
区切り文字	区切り文字として使用する文字を入力します。
区切り	値を区切るのに使用する文字を入力するか、 <input type="checkbox"/> タブ チェックボックスを選択します。

オプション	説明
モード	[標準モード] または [レガシーモード] を選択します。[標準モード] を選択すると、インスタンスに含めるレポートセクション、ページセクション、およびグループセクションを選択できます。[レガシーモード] を選択すると、レポートセクション、ページセクション、またはグループセクションのオプションを選択できません。
レポートセクションとページセクション	[標準モード] を選択した場合、[エクスポート] または [エクスポートしない] を選択してレポートセクションとページセクションをエクスポートするかどうかを指定します。 [エクスポート] を選択した場合、レポートセクションとページセクションを切り離すには、[レポート/ページセクションを切り離す] チェックボックスを選択します。
グループセクション	[標準モード] を選択した場合、[エクスポート] または [エクスポートしない] を選択してグループセクションをエクスポートするかどうかを指定します。[エクスポート] を選択した場合、グループセクションを切り離すには、[グループセクションを切り離す] チェックボックスを選択します。
XML	
オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスを選択します。他の書式設定オプションは設定できません。
XML エクスポート形式	[Crystal Reports XML] などの XML エクスポート形式を選択します。

9.2.6 定期スケジュールの Crystal Reports 2020 OData サービス

Crystal Reports 定期スケジュールは、OData サービス (OData v4) として公開できます。



以下の前提条件を満たしていることを確認します。

- Crystal Reports 2020 レポートの定期スケジュールを設定している。
- スケジュール形式が Crystal Reports に設定されている。
- スケジュールの出力先に、デフォルトの Enterprise の場所または [インスタンスを履歴に保持] オプションが有効になっている出力先が含まれていること。

9.2.6.1 Crystal Reports OData サービスの正確な URL を検索してログオンする

OData サービスの URL の形式: `http://host:port/biprws/infostore/<%rptID%>/rpt/recurringSchedules/<%recurringScheduleID%>/data.svc/v4`

これは、WACS および Tomcat 用に認定されています。デフォルトポートは、WACS の場合が 6405、Tomcat の場合が 8080 です。

1. BI ラウンチパッドで、Crystal Reports 2020 レポートを検索し、▶  ▶ **履歴** ▶ をクリックします。
2. ([**定期**]、[**一時停止**]、または [**期限切れ**] 状態の) 定期インスタンスを検索し、▶  ▶ **詳細** ▶ をクリックします。
3. (実際の `<%rptID%>` と `<%recurringScheduleID%>` を持つ) OData サービスの URL をコピーしてアプリケーション (SAP Analytic Cloud など) で使用します。
4. BOE ログオントークンまたは HTTP 基本認証で BOE アカウントを使用してログインします。
HTTP 基本認証を有効にするには、*Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドの [HTTP 基本認証を有効化する](#) を参照してください。

9.2.6.2 SAP Analytics Cloud で Crystal Reports OData サービスを使用する

SAP Cloud コネクタをインストールして設定していることを確認します。詳細については、[SAP Cloud コネクタの設定](#)を参照してください。

1. SAP Analytics Cloud にログインし、左上のメインメニューをクリックして、[接続] をクリックします。
2. [+] をクリックして新しい接続を作成し、[データの取得] で [OData サービス] を選択します。
3. OData 接続に名前を付け、Crystal Reports OData サービスの URL を [データサービス URL] ボックスに貼り付けます。
4. BOE の接続に SAP Cloud コネクタを使用する場合は、[On-Premise OData サービスに接続] をチェックし、設定に従って場所を選択します。
5. [認証の種類] で [基本認証] を選択し、BOE 認証情報を入力します。
6. [作成] をクリックして接続を作成します。
7. 新しく作成された OData サービス接続に基づいてモデルを作成します。また、特定の時間間隔で最新表示するようにモデルを設定することもできます (たとえば、Crystal Reports からの新しいデータの追加または再ロードを 1 日に 1 回実行するように BOE に定期スケジュールします)。
8. このモデルのストーリーやチャートなどを作成し、Crystal Reports からのデータの取得を開始します。

9.2.6.3 公開された Crystal Reports データ

OData サービスは、最後に成功したインスタンスで保存されたデータを公開します。

レポートのキャンバスに配置すると、以下の要素が公開されます。

- データベースフィールド
- 式フィールド
- グループ名フィールド
- パラメータフィールド (レポートのキャンバスに配置されたフィールド)
- 積算合計フィールド
- 特殊フィールド: グループ番号、データ日付/時刻など
- SQL 式フィールド

- 集計

以下の要素は公開されません。

- Crosstab
- サブレポート内のフィールド

以下は、OData と Crystal Reports 間のデータ型マッピングです。

Crystal Reports のデータ型	OData のデータ型
ブール型	OData ブール型
数値型/通貨型	OData 数値
日付	OData 日付
時刻	OData 時刻
日時	OData DateTimeOffset (日付と時刻の両方で構成される。SAP Analytics Cloud でのタイムスタンプ)
文字列	OData 文字列
メモ (最大 65535 文字)	OData 文字列
BLOB (ピクチャなど)	サポートされていません

9.2.6.4 ページング、並べ替え、およびフィルタ

以下のパラメータを使用して、データのサブセットをページング、並べ替え、フィルタ、または選択できます。

Crystal Reports OData サービスの URL の後に必須パラメータを追加してください。たとえば、以下のようになります。
[http://host:port/biprws/infostore/%rptID%/rpt/recurringSchedules/
 %recurringScheduleID%/data.svc/v4/Rows?\\$top=500&\\$skip=1000&\\$count=true](http://host:port/biprws/infostore/%rptID%/rpt/recurringSchedules/%recurringScheduleID%/data.svc/v4/Rows?$top=500&$skip=1000&$count=true)

ページング

Crystal Reports 2020 OData サービスは、デフォルトでは1回に 200 レコードを返します。このバッチサイズは、\$top パラメータを使用して設定できます。たとえば、位置 1000 (\$skip=1000) から 500 レコード (\$top=500) を取得するパラメータは、以下のようになります。

- skip=1000&top=500

並べ替え

デフォルトでは、保存されたデータの元の順序は保持されます。ユーザは、列を指定してデータセットを並べ替えることができます。例:

- \$orderby=Order Amount desc

フィルタ

一致するアイテムのみが返されます。例:

- `$filter=Shipped eq true`
- `$filter=Shipped gt 1000`
- `$filter=Customer_Name eq 'abc'`
- `$filter=contains(Customer_Name,'abc')`
- `$filter=Delivery_Time lt 17:00:00`
- `$filter=Delivery_Date eq 2004-01-30`
- `$filter=Delivery_DateTime eq 2012-12-02T17:00:00Z`

選択

選択フィールドのみが返されます。例:

- `$select=Order_ID,Customer_Name,Order_Amount`

9.2.6.5 ヒント

レポートセクションとページセクションを公開するかどうかを制御できます。

多くの場合、レポートセクションとページセクションには、レポートタイトル、列タイトル、免責事項など、複数の静的フィールドがあります。これらのフィールドを Crystal Reports OData サービスに公開しない場合は、以下の手順に従います。

1. Crystal Reports 2020 Designer でレポートを開きます。
2. **ファイル > エクスポート > レポートエクスポートのオプション** をクリックします。
3. .CSV 形式を選択して、デフォルトのエクスポートオプションを変更します。
4. **[レポートおよびページセクション]** で、**[エクスポートしない]** を選択します。
5. レポートを保存します。
6. 新しい定期スケジュールを作成します。その OData サービスは、レポートおよびページセクションからのフィールドの公開を停止します。

グループセクションのフィールドが表示されるかどうかを同様の方法で制御できます。

OData フィールド名を更新する必要がある場合は、以下の手順に従います。



1. Crystal Reports 2020 Designer でレポートを開きます。
2. レポートキャンバス (またはレポートエクスプローラ) で集計フィールドを見つけます。
3. **[フィールドの書式]** を右クリックします。
4. 書式エディタで、**[共通]** タブに切り替えます。
5. オブジェクト名を更新します。
6. レポートを保存します。

7. 新しい定期スケジュールを作成します。新しい OData サービスの集計フィールド名がそれに応じて更新されます。

グループ名フィールド、特殊フィールドの OData フィールド名も同様に更新することができます。

9.2.7 BI 受信ボックスからインスタンスを削除する

BI 受信ボックスからすべてのインスタンスを削除できます。


1. BI ラウンチパッドで、[BI 受信ボックス] をクリックします。
2.  **整理**  **すべてのメッセージを削除** をクリックします。
3. メッセージが表示されたら、[OK] をクリックして削除を確認します。


9.3 オブジェクトパッケージのスケジュール

ドキュメントのスケジュール時に、デフォルトで特定の設定のオプションが設定されることがあります。必要に応じて、このような設定を変更することができます。

ドキュメントをスケジュールする前に、ドキュメントでコンテキストが設定されていることを確認します。ドキュメントに複数のコンテキストが存在する場合、スケジュールの前に正しいコンテキストを使用してドキュメントを最新表示します。

⚠ 警告

ナビゲーションタブを使用してドキュメントをスケジュールする場合は、システム内に数万人のユーザが存在すると、[出力先] タブのロードが遅くなることがあります。この問題が発生した場合は、[SAP ノート 2897486](#)  を参照して、その理由と修正方法を確認してください。

1. BI ラウンチパッドで、[最近使用したドキュメント] セクション、[ドキュメント] タイル、または [フォルダ] タイルを使用して、スケジュールするドキュメントを参照します。
2.  > [スケジュール] をクリックします。
3. [インスタンスタイトル] タブで、スケジュールするインスタンスの名前を指定します。デフォルトでは、インスタンス名はドキュメント名です。
4. [選択された配信の出力先] セクションで [追加] をクリックします。デフォルトでは、この出力先は [デフォルトの Enterprise の場所] に設定されます。
5. [出力先] ドロップダウンで出力先を選択します。
6. [定期]、[イベント]、および [サーバグループのスケジュール] オプションをそれぞれ該当するセクションで設定します。

① 注記

いずれかのイベントが発生した後にパブリケーションのスケジュールをトリガする場合は、[任意のイベント](#) チェックボックスを選択します。

7. [レポート機能] タブをクリックします。
8. [コンポーネント] を選択します。

① 注記

選択したコンテンツタイプ (CR、WebI、Lumira など) に基づき、レポート固有機能を選択してください。

9. [スケジュール] をクリックします。

10 パブリケーションの使用

10.1 BI ラウンチパッドでのパブリケーションの作成

1. [ホーム] グループで [フォルダ] タイルをクリックします。
2. [フォルダ] ページで、パブリケーションを作成する場所のフォルダに移動します。
3. + (オブジェクトの作成/アップロード) アイコンをクリックして、[パブリケーション] を選択します。
[新規パブリケーション] ダイアログボックスが開き、一般プロパティのオプションが表示されます。

① 注記

[全般] タブには、パブリケーションの作成中またはパブリケーションのプロパティを表示している間、デフォルトで選択されたフィールドが表示されます。

[集計] タブには、パブリケーションの作成中またはパブリケーションのプロパティを表示している間、パブリケーションの概要情報が表示されます。

4. (必須) [タイトル] フィールドに、パブリケーションのタイトルを入力します。
5. (オプション) [キーワード] フィールドに、パブリケーションの内容に関連する目的のキーワードを入力します。
6. (オプション) [説明] フィールドに、パブリケーションの説明を入力します。
7. [ソースドキュメント] 領域で、+ (追加) アイコンをクリックします。
8. [ソースドキュメントの選択] ダイアログボックスで、パブリケーションに追加するソースドキュメントを1つまたは複数選択します。
9. [OK] をクリックします。

① 注記

1つ以上のレポートを選択すると、[全般] タブと [概要] タブの間に [レポート機能] タブが表示されます。

選択したレポートに基づいて、詳細については、「パブリケーションでの *Crystal Reports* の設定」の節、Webi ドキュメントについては、「*Web Intelligence* ドキュメントの設計」の節を参照してください。

各ソースドキュメントでは、[実行時に最新表示] チェックボックスがデフォルトで選択されています。これにより、パブリケーションの実行時に、ドキュメントがデータソースに合わせて最新表示されます。


実行時にソースドキュメントを最新表示しない場合は、[実行時に最新表示] チェックボックスをオフにします。

10. パブリケーションに必要な情報 (出力先、定期的なパターン、Enterprise 受信者と動的受信者、配信形式、イベント、サーバグループ、およびドキュメントのパーソナライズ方法) を指定します。

詳細については、[パブリケーションのデザイン \[79 ページ\]](#) セクションを参照してください。

11. [保存して終了] をクリックします。

① 注記

パブリケーションをお気に入りとしてマークし、簡単にすばやくアクセスするには、パブリケーションの横のアイコン  をクリックし、[お気に入りに設定] を選択します。


10.2 パブリケーションのデザイン

新しいパブリケーションをデザインするには、BI プラットフォーム内の公開機能を使用します。

公開機能には、所有している権限と BI プラットフォームの Web ベースアプリケーションへのアクセス権に応じて、セントラル管理コンソール (CMC) または BI ラウンチパッドでアクセスできます。

パブリケーションデザイン時には、任意の時点でパブリケーションの変更の保存、終了、リオープン、および追加変更ができます。

10.2.1 編集用のパブリケーションを開く

1. BI ラウンチパッドで、パブリケーションを見つけます。
 - a. [マイホーム] グループで、[フォルダ] タイルをクリックし、パブリケーションを作成した場所のフォルダに移動します。
 - b. パブリケーションの横の  アイコンをクリックし、[プロパティ] を選択します。

パブリケーションの [プロパティ] ページが表示されます。ここでは、パブリケーションのさまざまなプロパティを変更し、変更を保存することができます。

2. BI プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) でパブリケーションを見つけます。

- パブリケーションをダブルクリックします。
- パブリケーションを右クリックし、[プロパティ] を選択します。

パブリケーションの [プロパティ] ページが表示されます。ここでは、パブリケーションのさまざまなプロパティを変更し、変更を保存することができます。

パブリケーションが新しいウィンドウで開きます。

10.2.2 パブリケーションでの一般プロパティの定義

[プロパティ] ページで、パブリケーションのプロパティを定義します。

CMC または BI ラウンチパッド:

1. 一般プロパティを定義するパブリケーションを開きます。
[プロパティ] ページが表示され、パブリケーションの一般プロパティとタイトルが表示されます。
2. (オプション) [説明] ボックスに、パブリケーションの説明を入力します。

3. (オプション) キーワードボックスに、パブリケーションの内容に関連するキーワードを入力します。
4. [保存して閉じる] をクリックします。

10.2.3 ソースドキュメントの追加

パブリケーションの作成中に、[新規パブリケーション] ページでドキュメントをパブリケーションに追加、変更、および削除できます。

ソースドキュメントの選択時に、動的コンテンツドキュメントタイプに基づき、利用可能なオプションが決定されます。

1. [新規パブリケーション] ページで、[全般] を展開し、[ソースドキュメント] を選択します。
2. + (追加) アイコンをクリックします。
3. [ソースドキュメントの選択] ダイアログボックスで、パブリケーションに含める同じタイプのドキュメントの動的コンテンツドキュメントを見つけて選択します。
4. [OK] をクリックします。

選択したソースドキュメントは、[新規パブリケーション] ページの [項目] リストに表示されます。すべてのソースドキュメントに対しては、[実行時に最新表示] 列内のチェックボックスがデフォルトで選択されています。チェックボックスが選択されている場合、パブリケーションの実行時にデータソースに対してドキュメントは最新表示されます。ドキュメントを最新表示しない場合は、[実行時に最新表示] 列でそのドキュメントのチェックボックスをオフにします。

① 注記

システムのパフォーマンスを向上させるために、ドキュメントごとに、[実行時に最新表示] 列内のチェックボックスの選択を解除してください。

5. ソースドキュメントを添付ファイルまたはマージされた PDF ファイルとして送信するときに、ドキュメントの表示順序を設定できます。[新規パブリケーション] ページの [ソースドキュメント] 領域で、[項目] リストからドキュメントを選択し、[上へ移動] または [下へ移動] をクリックしてドキュメントを並べ替えます。
6. [保存して終了] をクリックします。

10.2.4 パブリケーションの出力先の選択

パブリケーションを作成またはスケジュールしながら、パブリケーションの出力先を選択します。

1. [新規パブリケーション] または [パブリケーションスケジュール] ページで、[全般] を展開し、[出力先] を選択します。
2. (オプション) 使用しているシステムにパブリケーションインスタンスを保存しないようにするには、[選択された配信の出力先] リストの下にある [デフォルトの Enterprise の場所] を削除します。
3. パブリケーションオブジェクトのインスタンスの制限を低く設定します。
手順については、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームユーザガイドを参照してください。
4. [選択された配信の出力先] の下にある [追加] をクリックして、パブリケーションを送信する各出力先の横にあるチェックボックスを選択します。

パブリケーションのショートカットを作成する場合、出力先として [\[BI 受信ボックス\]](#) および [\[デフォルトの Enterprise の場所\]](#) を選択します。

パブリケーションが電子メール受信者に送信され、電子メール本文に Enterprise の場所へのリンクを埋め込む場合、出力先として [\[電子メール\]](#) および [\[デフォルトの Enterprise の場所\]](#) を選択します。

選択した出力先が [\[送信先の選択\]](#) ダイアログの左ナビゲーションペインに表示されます。

5. 必要に応じて、左ナビゲーションペインから設定する出力先を選択します。
その出力先に対するオプションが表示されます。
6. (オプション) パブリケーションの名前を選択するには、[\[指定の名前を使用する\]](#) を選択し、名前を入力するか [\[プレースホルダの追加\]](#) リストにあるプレースホルダを選択します。
名前を選択しないと、システムで生成された名前がパブリケーションに割り当てられます。パブリケーションの実行時、各プレースホルダに値が挿入されます。
7. (オプション) [\[指定の名前を使用する\]](#) を選択し、パブリケーションに個別の名前を割り当てる複数のドキュメントが含まれている場合、[\[ドキュメントごとの指定の名前\]](#) チェックボックスを選択し、各ドキュメントの名前を入力するか、[\[プレースホルダの追加\]](#) リストにあるプレースホルダを選択します。
名前を選択しないと、システムで生成された同じ名前が各ドキュメントに割り当てられます。
8. ([\[電子メール\]](#) のみ) 電子メール本文に Enterprise の場所へのリンクを埋め込むには、[\[メッセージ\]](#) ボックスにカーソルを置き、ボックスの下にある [\[プレースホルダの追加\]](#) リストにある [\[ビューア\]](#) を選択します。
プレースホルダ [%\\$VIEWER_URL%](#) が電子メール本文に挿入されます。これは、パブリケーションの実行時にリンクに置換されます。リンクを埋め込むことができない場合、出力先として [\[電子メール\]](#) および [\[デフォルトの Enterprise の場所\]](#) の両方が選択されていることを確認してください。
9. ([\[BI 受信ボックス\]](#) のみ) [\[送信形式\]](#) の下で、[\[ショートカット\]](#) をクリックしてパブリケーションへのショートカットを作成するか、[\[コピー\]](#) をクリックしてパブリケーションのコピーを作成します。
ショートカットを作成できない場合、出力先として [\[BI 受信ボックス\]](#) および [\[デフォルトの Enterprise の場所\]](#) の両方が選択されていることを確認してください。
10. 複数の出力先を選択している場合、出力先の選択および設定のために、手順 5～10 を出力先ごとに繰り返します。
11. [\[確認\]](#) をクリックします。

10.2.4.1 パブリケーション出力先

パブリケーションには、次の出力先が使用できます。

- [デフォルトの Enterprise の場所](#)
- [BI 受信ボックス](#)
- [電子メール](#)
- [FTP サーバ](#)
- [ファイルシステム](#)
- [SFTP サーバ](#)

デフォルトでは、すべての出力先に対して [\[各ユーザにオブジェクトを配信\]](#) チェックボックスがオンになっています。ただし、場合によっては、各ユーザにオブジェクトを配信しないようにする場合もあります。たとえば、3 人の受信者が同一のパーソナライゼーション値を持っていると、パブリケーションインスタンスの同じデータが受信されます。[\[各ユーザにオブジェクトを配信\]](#) チェックボックスをオフにした場合は、1 つのパブリケーションインスタンスが生成され、それが 3 人の受信者すべてに配信されます。[\[各ユーザにオブジェクトを配信\]](#) チェッ

クボックスをオンにした場合は、同じパブリケーションインスタンスが3回(受信者ごとに1回ずつ)配信されます。

デフォルトの **Enterprise** の場所

この場所にパブリケーションを送信する場合は、すべての受信者がアクセスできるフォルダを選択します。

パブリケーション出力先	パブリケーションで実行可能なアクション	インスタンスの保存先
それを作成したフォルダ	<ul style="list-style-type: none">すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する	Output File Repository Server 履歴のインスタンスはデフォルトの Enterprise サーバに保存されますが、他の出力先には保存されません。

BI 受信ボックス

パブリケーション出力先	パブリケーションで実行可能なアクション	インスタンスの保存先
各受信者の BI 受信ボックス	<ul style="list-style-type: none">すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal Reports レポートのみ)パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する個別のユーザにオブジェクトを配信するデフォルトのファイル名を使用するか、指定のファイル名を入力してプレースホルダを追加する [指定の名前を使用する] を選択する場合、ファイル拡張子を入力するか、[ファイル拡張子] プレースホルダを追加するか、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスを選択して拡張子を自動的にファイル名に追加します。 <div><p>① 注記</p><p>ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p></div> <ul style="list-style-type: none">パブリケーションをショートカットまたはコピーとして送信する パブリケーションを受信者の BI 受信ボックスにショートカットとして送信する場合は、すべての受信者がアクセスできるフォルダを選択します。パブリケーションのショートカットを BI 受信ボックスに送信するには、出力先として、[BI 受信ボックス] および [デフォルトの Enterprise の場所] の両方を選択します。	<ul style="list-style-type: none">Output File Repository Server指定された BI 受信ボックス

電子メール

レポートインスタンスをスケジュールするかこの出力先に送信するには、Adaptive Job Server で電子メール (SMTP) の出力先を有効にして設定する必要があります。

パブリケーション出力先	パブリケーションで実行可能なアクション	インスタンスの保存先
電子メールで各受信者に	<ul style="list-style-type: none"> すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal Reports レポートのみ) パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する 個別のユーザにオブジェクトを配信する (必須) 差出人 ボックスに自分の電子メールアドレスを入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> Output File Repository Server 指定された電子メール受信者
<div data-bbox="667 797 762 831">① 注記</div> <div data-bbox="667 853 978 1361"> <p>電子メールアドレスを入力しない場合、BI プラットフォームでは、公開者のアカウントに関連付けられている電子メールアドレスが使用されます。公開者のアカウントに電子メールアドレスがない場合、プラットフォームでは、Adaptive Job Server の電子メールアドレスが使用されます。[差出人] ボックス、公開者のアカウント、または Adaptive Job Server のいずれにも電子メールアドレスがない場合、パブリケーションは失敗します。</p> </div>		
<ul style="list-style-type: none"> 宛先 ボックスに、受信者の電子メールアドレスを入力するか、電子メールアドレス のプレースホルダを追加する CC ボックスに、受信者の電子メールアドレスを入力するか、電子メールアドレス のプレースホルダを追加する BCC ボックスに、受信者の電子メールアドレスを入力するか、電子メールアドレス のプレースホルダを追加する [件名] ボックスに件名を入力するか、プレースホルダを追加する 		

パブリケーション出力先	パブリケーションで実行可能なアクション	インスタンスの保存先
	<ul style="list-style-type: none"> メッセージを入力し、リッチテキストエディタを使用して書式設定オプションにカスタマイズするか、プレースホルダを追加して、[メッセージ] ボックスで電子メールの本文に動的コンテンツドキュメントを埋め込む ソースドキュメントのインスタンスを電子メールに添付する 	
	<div data-bbox="647 741 991 1032"> <p>① 注記</p> <p>電子メールにイメージを挿入すると、使用されているイメージリンクに送信者および受信者の両方がアクセスできる場合、イメージが自動的にダウンロードされます。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> デフォルトのファイル名を使用するか、指定のファイル名を入力してプレースホルダを追加する [指定の名前を使用する] を選択する場合、ファイル拡張子を入力するか、[ファイル拡張子] プレースホルダを追加するか、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスを選択して拡張子を自動的にファイル名に追加します。 	
	<div data-bbox="647 1406 991 1585"> <p>① 注記</p> <p>ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> </div>	

FTP サーバ

パブリケーションを *FTP サーバ* 出力先に送信し、何人かの受信者が同じパーソナライゼーション値を持っている場合は、**各ユーザにオブジェクトを配信** チェックボックスをオフにすると、処理時間全体を短縮できます。[各ユーザにオブジェクトを配信] をオフにする場合は、出力先の設定時に使用するプレースホルダには、受信者ではなく公開者の情報が入力されます。

パブリケーション出力先	パブリケーションで実行可能なアクション	インスタンスの保存先
<p>FTP サーバ</p> <p>(ホストボックスに、FTP サーバの場所を入力する必要があります。入力しないと、プラットフォームは、Adaptive Job Server 用に設定された FTP サーバを使用します)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal Reports レポートのみ) パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する ポート番号、ユーザ名とパスワード、およびアカウントを入力する ディレクトリ名を入力する。 デフォルトのファイル名を使用するか、指定のファイル名を入力してプレースホルダを追加する [指定の名前を使用する] を選択する場合、ファイル拡張子を入力するか、[ファイル拡張子] プレースホルダを追加するか、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスを選択して拡張子を自動的にファイル名に追加します。 	<ul style="list-style-type: none"> Output File Repository Server 選択された FTP サーバ

① 注記

ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。

ファイルシステム

パブリケーションをファイルシステム出力先に送信し、何人かの受信者が同じパーソナライゼーション値を持っている場合は、**各ユーザにオブジェクトを配信**チェックボックスをオフにすると、処理時間全体を短縮できます。**各ユーザにオブジェクトを配信**をオフにする場合は、出力先の設定時に使用するプレースホルダには、受信者ではなく公開者の情報が入力されます。

パブリケーション出力先	パブリケーションで実行可能なアクション	インスタンスの保存先
ファイルシステムのディレクトリ (パブリケーションのディレクトリを入力する必要があります)。	<ul style="list-style-type: none"> すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal Reports レポートのみ) パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する ファイルの場所にアクセスするためのユーザ名とパスワードを入力する 個別のユーザにオブジェクトを配信する デフォルトのファイル名を使用するか、指定のファイル名を入力してプレースホルダを追加する [指定の名前を使用する] を選択する場合、ファイル拡張子を入力するか、[ファイル拡張子] プレースホルダを追加するか、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスを選択して拡張子を自動的にファイル名に追加します。 	<ul style="list-style-type: none"> Output File Repository Server 選択されたファイルの場所

① 注記

ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。

SFTP サーバ

パブリケーションを [SFTP サーバ] 出力先に送信し、何人かの受信者が同じパーソナライゼーション値を持っている場合は、[各ユーザにオブジェクトを配信] チェックボックスをオフにすると、処理時間全体を短縮できます。[各ユーザにオブジェクトを配信] をオフにする場合は、出力先の設定時に使用するプレースホルダには、受信者ではなく公開者の情報が入力されます。

パブリケーション出力先	パブリケーションで実行可能なアクション	インスタンスの保存先
<p>SFTP サーバ</p> <p>([ホスト] ボックスに、SFTP サーバの場所を入力する必要があります。入力しないと、プラットフォームは、Adaptive Job Server 用に設定された SFTP サーバを使用します。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal Reports レポートのみ) パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する ポート番号、ユーザ名とパスワード、およびアカウントを入力する ディレクトリ名を入力する。 フィンガープリントを入力する。 デフォルトのファイル名を使用するか、指定のファイル名を入力してプレースホルダを追加する [指定の名前を使用する] を選択する場合、ファイル拡張子を入力するか、[ファイル拡張子] プレースホルダを追加するか、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスを選択して拡張子を自動的にファイル名に追加します。 	<ul style="list-style-type: none"> Output File Repository Server 選択された SFTP サーバ

① 注記

ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。

10.2.5 定期的なパターンの選択

定期的なスケジュールパターンでは、パブリケーションの実行頻度を決定します。[スケジュール](#)ダイアログボックスで、パブリケーションの定期的なパターンを選択します。

1. 定期的なパターンを設定するパブリケーションを右クリックして、[スケジュール](#)を選択します。
2. [[スケジュール](#)] ダイアログボックスで[[定期](#)] をクリックします。
3. [[オブジェクトの実行](#)] リストで、定期的なスケジュールパターンを選択します。
4. [可能な再試行回数](#)ボックスに、失敗したジョブをサーバが再実行する回数を入力します。
5. [再試行間隔 \(秒単位\)](#)ボックスに、サーバがジョブを再実行する前に待機する秒数を設定します
6. [スケジュール](#)をクリックします。

パブリケーションは、スケジュールされた時刻に実行されます。

10.2.5.1 定期パターンオプション

① 注記

4.2 SP4 以降、BI ラウンチパッドの [スケジュール] ページおよび [パブリケーション] ページにある繰返オプションは、4 つの最初のレベルのオプションのみ ([[今すぐ](#)]、[[1 回](#)]、[[定期](#)] (サブオプションあり)、[[カレンダー](#)]) に変更されました。

これらの繰返オプションを設定して、オブジェクトパッケージの 1 つ以上のコンポーネントをスケジュールすることができます。以下に、使用可能な繰返オプションとその動作を示します。

オプション	サブオプション	説明
今すぐ		オブジェクトを 1 回実行します。すぐに開始されます。
1 回		指定された開始時間に、オブジェクトを 1 回だけ実行します。イベントを使用してオブジェクトをスケジュールする場合、開始時間と終了時間の間にイベントが発生すると、オブジェクトは 1 度だけ実行されます。 開始日時 リストおよび 終了日時 リストで、オブジェクトの開始日時および終了日時を選択し、開始日時および終了日時を入力します。
定期	時間単位	指定された時刻に、インスタンスを n (n は 00 から 23 までの範囲) 時間ごとに作成します。指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にオブジェクトの実行が終了するまで、n 時間ごとにインスタンスが作成されます。 いずれの [時間] ドロップダウンをクリックしても表示される [時間] リストおよび [分] リストでオブジェクトの実行時間を選択します。[開始日時] リストおよび [終了日時] リストで、オブジェクトの開始日時および終了日時を選択し、開始日時および終了日時を入力します。

オプション	サブオプション	説明
定期	日単位	<p>指定された開始時間に、オブジェクトを1日に1回だけ実行します。指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にオブジェクトの実行が終了するまで、毎日指定された時間にインスタンスが作成されます。</p> <p>[日数 (N)] ボックスでオブジェクトを実行する曜日を選択し、[開始日時] リストおよび [終了日時] リストで、オブジェクトの開始日時および終了日時を選択し、開始日時および終了日時を入力します。</p>
定期	週単位	<p>毎週指定された曜日の指定された開始時間に、オブジェクトを実行します。指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にオブジェクトの実行が終了するまで、毎週指定された曜日の指定された時間にインスタンスが作成されます。</p> <p>オブジェクトを実行する必要な曜日を選択し、[開始日時] リストおよび [終了日時] リストで、オブジェクトの開始日時および終了日時を選択し、開始日時および終了日時を入力します。</p>
定期	月単位	<p>指定された月間隔で、指定された日の指定された開始時間に、オブジェクトを実行します。指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にオブジェクトの実行が終了するまで、指定された月間隔の指定された時間にインスタンスが作成されます。</p> <p>[月 (N)] ボックスでオブジェクトを実行する月を選択し、[開始日時] リストおよび [終了日時] リストで、オブジェクトの開始日時および終了日時を選択し、開始日時および終了日時を入力します。</p> <div> <p>① 注記</p> <p>オブジェクトを毎月実行する場合は、月の特定の日と曜日を選択するオプションも有効になります。</p> </div>

オプション	サブオプション	説明
定期	特定の日付	毎月指定された日の指定された開始時間に、インスタンスを作成します。指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にオブジェクトの実行が終了するまで、毎月指定された日の指定された時間にインスタンスが作成されます。オブジェクトの実行開始日時および終了日時、オブジェクトを実行する月の日を入力します。
定期	第1月曜日	指定した開始時刻から終了日まで、毎月第1月曜日にインスタンスを作成します。オブジェクトの実行開始時間および実行停止時間を入力します。
定期	第N週のX曜日	毎月指定された週の日の指定された開始時間に、インスタンスを作成します。オブジェクトの実行開始日時および終了日時、オブジェクトを実行する月の週と週の日を入力します。
定期	月末日	指定した開始時刻から終了日まで、毎月末日にインスタンスを作成します。オブジェクトの実行開始時間および実行停止時間を入力します。
カレンダー	オブジェクトはカレンダーで指定された日に実行されます。	指定されたカレンダーの日付の指定された開始時間に、インスタンスを作成します。 オブジェクトの実行開始時間および終了時間を入力し、アクセス権を持っているカレンダーを選択します。スケジュールは、選択したカレンダー用にCMCで定義した日付に基づいて実行されます。
業務時間	オブジェクトは、指定されたカレンダーの日付の指定された開始時間に実行されます。	オブジェクトは、営業日および業務時間で指定された特定の曜日の特定の時間帯に実行されます。

10.2.6 Enterprise パブリケーションまたは動的受信者

パブリケーションは、Enterprise 受信者にはBI受信ボックス、電子メール、FTP、ファイルシステム経由で送信できます。また、動的受信者には電子メールで送信できます。

Enterprise 受信者は、BIプラットフォームシステムに含まれるユーザです。このようなユーザ向けレポートは、そのBI受信ボックス宛てか、電子メール、FTP、ファイルシステム経由で送信することができます。

動的受信者は非 Enterprise ユーザであり、ネットワーク外のユーザか、ユーザ、グループ、プロファイル、セキュリティなどが設定されていないユーザです。たとえば、会社の毎月の事務用品や仕入のサプライヤが動的受信

者になる場合があります。動的受信者は BusinessObjects Enterprise のユーザアカウントを持たないため、BI 受信ボックスは動的受信者には無効な宛先です。

動的受信者は、次の点で Enterprise 受信者と異なります。

- 動的受信者には、パブリケーションを電子メール経由でのみ送信できる。
- 動的受信者は、ローカルプロファイルでのみ使用できる。

パブリケーションを作成するには、ソースファイルと受信者ファイルを作成して、BI ランチパッドでパブリケーションを設定してから、パブリケーションをスケジュールします。

ソースファイルにはパブリケーションの未処理データが含まれます。パブリケーションには複数のソースファイルを含めることができます。たとえば、サプライヤの月次レポートでは、ソースファイルに仕入の SKU 番号が一覧表示され、"サプライヤ ID" フィールドで定義した一意の ID やサプライヤが分類して含まれます。受信者ファイルには、ソースファイルと同じ一意の ID とサプライヤ、およびソースファイルにマップするための受信者の電子メールアドレスを含める必要があります。例では、受信者ファイルに "サプライヤ ID" と同じ ID、サプライヤ名、およびサプライヤの電子メールアドレスを含める必要があります。

10.2.6.1 Enterprise 受信者向けのパブリケーションの作成

Enterprise 受信者は、BI プラットフォームシステムに含まれるユーザです。Enterprise 受信者のために、ソースファイルでのフィルタ処理を定義するプロンプトを作成する必要があります。

セントラル管理コンソール (CMC) でプロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

1. セントラル管理コンソール (CMC) で [\[プロファイル\]](#) をクリックします。
2. [▶ 管理 ▶ 新規 ▶ 新しいプロファイル ▶](#) の順に選択します。
3. [\[新規プロファイルの作成\]](#) ダイアログボックスで、プロファイルの [\[タイトル\]](#) と [\[説明\]](#) を入力します。
4. [\[OK\]](#) をクリックします。

作成したプロファイルをダブルクリックして、そのプロパティを設定します。

① 注記

ユーザまたはユーザグループへのアクセスレベルの割り当てと削除は、オプションのステップです。[使用可能なアクセスレベル] を使用して実行できます。選択したアクセスレベルが [\[割り当てられたアクセスレベル\]](#) の下に表示されます。

アクセスレベルの割り当ておよび削除を行うには、以下の手順に従います。

1. [\[ユーザセキュリティ\]](#) をクリックして、ユーザまたはユーザグループにアクセス権を割り当てます。
2. ユーザまたはグループを選択し、[\[セキュリティの割り当て\]](#) をクリックします。
3. [\[適用\]](#) をクリックし、[\[OK\]](#) をクリックします。

割り当てられたアクセスレベルが [\[アクセス\]](#) 列に表示されます。

5. [\[プロファイルターゲット\]](#) をクリックし、ターゲットを定義して、ソースファイルをフィルタリングします。
 - a. 使用するプロファイルターゲットを [\[オブジェクト\]](#) 列で見つけ、横にあるチェックボックスを選択します。
 - b. [\[編集\]](#) をクリックします。

ローカルプロファイルはソースファイルから派生し、グローバルプロファイルはユニバースをベースとします。

- c. **フィルタ式**を選択して、**編集**をクリックします。

ダイアログボックスが開き、プロファイルオプションが表示されます。

- d. **ユーザ/グループ**列で、プロファイルターゲットを定義するユーザまたはユーザグループを見つけ、横にあるチェックボックスを選択します。

プロンプトが定義されました。BI ラUNCHパッドでパブリケーションを作成できます。

6. BI ラUNCHパッドでパブリケーションを作成するには、**BI ラUNCHパッドでのパブリケーションの作成 [78 ページ]**を参照してください。

7. **[配信の出力先]**を選択するには、**[追加]**をクリックします。

[送信先の選択] ダイアログボックスが表示されます。

- a. パブリケーションを作成する出力先を選択します。
- b. **[デフォルトの Enterprise の場所]**で、**[ZIP ファイルとしてパッケージ化する]**チェックボックスを選択します (オプション)。
8. 電子メールで、次の手順を実行します。
 - a. **[差出人]** フィールドに、送信者の電子メールアドレスを入力するか、一覧からプレースホルダを選択します。
 - b. **[宛先]** フィールドで、一覧から **[%SI_EMAIL_ADDRESS%]**を選択します。
 - c. **[件名]** フィールドに、件名を入力するか、プレースホルダを選択します。
 - d. (オプション) **[メッセージ]** フィールドで、受信者に対するパブリケーションに関するメッセージを入力するか、プレースホルダを選択します。
9. **[Enterprise 受信者]**に移動して受信者を選択し、**[選択]** ボタンをクリックします。

[Enterprise 受信者] ダイアログボックスが表示されます。パブリケーションを受信する必要があるユーザまたはユーザグループごとに、受信者を検索してフィルタリングします。

10. **[利用可能な受信者]**で、各ユーザまたはユーザグループの横にあるチェックボックスをオンにして、**[選択したアイテム]**または**[除外された項目]**に移動し、**[OK]**をクリックします。
11. **[パーソナライゼーション]**をクリックします。
12. パブリケーションの各ソースドキュメントについて、**グローバルプロファイル**で、**Enterprise 受信者のマッピング**列の一覧から、作成したプロファイルを選択します。
13. **[形式]**をクリックし、次の操作を実行します。
 - a. **ドキュメント**で、レポートを選択します。
 - b. **選択したドキュメントの形式オプション**で、パブリケーションに必要な配信形式の横にあるチェックボックスを選択します。
 - c. **[出力形式の詳細]**で、**[すべてのレポート]**を選択してパブリケーションのすべてのレポートで同じ形式を使用するか、**[1つのレポートを選択]**を選択して一覧からレポートを選択します。
14. **[出力先]**をクリックし、出力先を選択します。
 - a. **送信先の選択**で、**電子メール**チェックボックスを選択します。
 - b. (オプション) **ZIP ファイルとしてパッケージ化する**チェックボックスを選択します。
 - c. **各ユーザにオブジェクトを配信**チェックボックスを選択します。
 - d. **差出人**ボックスに、送信者の電子メールアドレスを入力するか、一覧からプレースホルダを選択します。
 - e. **宛先**ボックスで、一覧から **[%SI_EMAIL_ADDRESS%]**を選択します。
 - f. **件名**ボックスで、件名を入力するか、プレースホルダを選択します。
 - g. (オプション) **メッセージ**ボックスで、受信者に対するパブリケーションに関するメッセージを入力するか、プレースホルダを選択します。
15. パブリケーションを受信する必要がある各ユーザまたはグループの横にあるチェックボックスを選択します。

16. [保存して閉じる](#)をクリックします。

パブリケーションの実行をスケジュールします。

10.2.6.2 動的受信者向けのパブリケーションの作成

動的受信者は非 Enterprise ユーザであり、ネットワーク外のユーザか、ユーザ、グループ、プロファイル、セキュリティなどが設定されていないユーザです。

ソースファイルと動的受信者ファイルを作成する必要があります。BI ランチパッドでパブリケーションを作成するには、[BI ランチパッドでのパブリケーションの作成 \[78 ページ\]](#)を参照してください。

動的受信者向けのパブリケーションを作成するには、以下の手順に従います。

1. [\[動的受信者のソースの選択\]](#) 一覧で、[\[Web Intelligence レポート動的受信者プロバイダ\]](#) または [\[Crystal Reports 動的受信者データプロバイダ\]](#) を選択します。
2. [\[動的受信者のソースの選択\]](#) の下で、[\[参照\]](#) をクリックし、受信者ファイルを選択します。
3. 受信者ファイル (ソースドキュメント) からパブリケーションにフィールドをマップします。
 - a. [\[受信者の識別子\(必須\)\]](#) 一覧で、受信者ファイルからフィールドを選択してパブリケーションにマップします。
 - b. [\[フルネーム\]](#) 一覧で、受信者ファイルからフィールドを選択して受信者にマップします。
 - c. [\[電子メール\]](#) 一覧で、[\[電子メール ID\]](#) を選択して、受信者ファイルの電子メールアドレスをパブリケーションにマップします。

動的受信者ファイルに定義されているすべての受信者にパブリケーションを送信するには、[\[完全リストの使用\]](#) チェックボックスを選択できます。

4. [\[パーソナライゼーション\]](#) をクリックし、受信者のパーソナライゼーションを設定します。
 - a. [パラメータ](#)で、パーソナライズするレポートフィールドを選択します。
 - b. [動的受信者のマッピング列](#)で、受信者ファイルのフィールドを選択し、選択したレポートフィールドにマップします。
 - c. 特定の受信者に送信する必要がある各フィールドに対して、ステップ 11a と 11b を繰り返します。
5. [\[形式\]](#) をクリックし、パブリケーションの配信形式を選択します。
6. [\[出力先\]](#) をクリックし、出力先を選択します。
 - a. [送信先の選択](#)で、[電子メール](#)チェックボックスを選択します。
 - b. (オプション) [ZIP ファイルとしてパッケージ化する](#)チェックボックスを選択します。
 - c. [各ユーザにオブジェクトを配信](#)チェックボックスを選択します。
 - d. [差出人](#)ボックスに、送信者の電子メールアドレスを入力するか、一覧からプレースホルダを選択します。
 - e. [宛先](#)ボックスで、一覧から [%SI_EMAIL_ADDRESS%](#) を選択します。
 - f. [件名](#)ボックスで、件名を入力するか、プレースホルダを選択します。
 - g. (オプション) [メッセージ](#)ボックスで、受信者に対するパブリケーションに関するメッセージを入力するか、プレースホルダを選択します。

7. [\[保存して閉じる\]](#) をクリックします。

パブリケーションの実行をスケジュールします。

10.2.7 SAP 受信者用のパブリケーション

SAP 受信者用パブリケーションは、Enterprise または動的受信者用のパブリケーションと同じ方法で動作します。

ただし、SAP 受信者の場合、公開ワークフローにおいて以下の違いがあります。

- SAP 受信者用にソースドキュメントをデザインする場合、パーソナライゼーションは使用しません。各 SAP 受信者には、BI プラットフォーム以外のユーザアカウントにマップされているプロファイル値があり、このプロファイル値が組み込みのパーソナライゼーションの機能を果たします。プラットフォームで SAP 受信者のプロファイルおよびプロファイル値を作成したり、ソースドキュメントフィールドにプロファイルをマップしたりする必要はありません。
- SAP 受信者用のパブリケーションに関して機能するレポートバースト方法は、[受信者ごとのデータベースフェッチ]のみです。この方法はセキュリティを最大化し、各パブリケーション受信者のデータベースログオン認証情報を個別に処理します。

シングルサインオン設定および認証の詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

10.2.8 Live Office 向けパブリケーション

SAP BusinessObjects Live Office で使用するためのパブリケーションをデザインする場合は、次の情報について考慮してください。

- 動的なコンテンツのドキュメントは、元の形式の Crystal レポートまたは Web Intelligence ドキュメントでのみ構成できます。
- 動的受信者はサポートされません。
- 使用できる出力先オプションは、[デフォルトの Enterprise の場所]のみです。
- 受信者がパーソナライゼーションの後に複数のパブリケーションインスタンスを受信した場合、最初のパブリケーションインスタンスのみを、Live Office クライアントで表示できます。グループメンバーシップから複数のプロファイル値を継承している受信者は、複数のインスタンスを受信する可能性があります。複数のインスタンスが送信されることを回避するため、必要なプロファイル値のみを受信者に割り当ててください。

10.2.9 パブリケーションソースドキュメントのパーソナライズされたプレースホルダの選択

スケジュールダイアログボックスで、パブリケーションのパーソナライズされたプレースホルダを選択します。

パーソナライズされたプレースホルダをパブリケーションインスタンス名に使用する前に、パブリケーションのソースドキュメントで、データをフィルタリングするためのパーソナライゼーションを使用する必要があります。

パブリケーションインスタンスのスケジュール時に、ソースドキュメントの**指定の名前を使用する**フィールドでプレースホルダを使用し、パブリケーション名でテキストとプレースホルダを組み合わせることができます。また、複数のプレースホルダを使用することもできます。

1. プレースホルダを選択するパブリケーションを右クリックして、**スケジュール**を選択します。

2. **スケジュール**ダイアログボックスのナビゲーションリストで、**出力先**をクリックします。
3. **[選択した出力先のオプションを表示]**の下で**[指定の名前を使用する]**を選択し、**[プレースホルダの追加]**リストからパブリケーション名に対するプレースホルダを選択します。
選択したプレースホルダは、ドキュメントタイトルの**[指定の名前]**ボックスに表示されます。
4. 個々のドキュメントを追加するには、以下の手順に従います。
 - a. **[ターゲット名]**の下で、**[ドキュメントごとの指定の名前]**を選択します。
 - b. ドキュメントタイトルごとに、**[プレースホルダの追加]**リストからプレースホルダを選択します。
選択したプレースホルダは、各ドキュメントタイトルの**[指定の名前]**ボックスに表示されます。
5. **OK**をクリックします。

パブリケーションに対するパーソナライズの設定が終了したら、パーソナライズされたプレースホルダは**[出力先]**ダイアログボックスの**[プレースホルダの追加]**リストに表示されます。

10.2.10 電子メールフィールドのパーソナライズされたプレースホルダの選択

スケジュールダイアログボックスで、パブリケーションのパーソナライズされたプレースホルダを選択します。

すべての電子メールフィールドで、テキストとプレースホルダを組み合わせ使用できるほか、複数のプレースホルダを使用できます。電子メール出力先へのパブリケーションをスケジュールする場合、**[差出人]**、**[宛先]**、**[CC]**、**[BCC]**、**[件名]**、**[メッセージ]**、および**[指定の名前を使用する]**フィールドにプレースホルダを使用できます。

1. プレースホルダを選択するパブリケーションを右クリックして、**スケジュール**を選択します。
2. **スケジュール**ダイアログボックスのナビゲーションリストで、**出力先**をクリックします。
3. **[出力先]**リストで、**[電子メール]**を選択します。
4. 必要に応じて、プレースホルダを含めて出力先オプションを設定します。
5. **OK**をクリックします。

10.2.11 電子メールへの動的ソースドキュメントのコンテンツの埋め込み

スケジュールダイアログボックスで、パブリケーションのソースドキュメントのコンテンツを埋め込みます。

動的コンテンツドキュメントから、電子メールの本文にコンテンツを埋め込むことができます。Crystal レポートの場合は、レポートのコンテンツを埋め込むことができます。Web Intelligence ドキュメントの場合は、ドキュメント全体または1つのレポートタブを埋め込むことができます。

1. コンテンツを取得するパブリケーションを右クリックして、**スケジュール**を選択します。
2. **スケジュール**ダイアログボックスのナビゲーションリストで、**形式**をクリックします。
3. (Crystal レポートのみ) **選択したドキュメントの形式オプション**で**mHTML**チェックボックスを選択します。
4. (Web Intelligence ドキュメントのみ) ドキュメント全体を公開するか、レポートタブの1つを公開するかを選択します。
 - a. **[出力形式]**で、**[mHTML]**チェックボックスを選択します。

- b. [出力形式の詳細] で、[すべてのレポート] を選択してドキュメント全体を公開するか、[1つのレポートを選択] を選択してリスト内のレポートタブを選択します。
5. ナビゲーション一覧で [出力先] をクリックします。
6. [出力先] ダイアログボックスの [送信先の選択] で、[電子メール] チェックボックスを選択します。
電子メールの設定オプションが表示されます。
7. 差出人ボックスで、名前または電子メールアドレスを入力するか、プレースホルダの追加リストで電子メールを選択します。
たとえば、Robert、公開者、publisher@sap.com などを入力できます。名前を入力すると、Publisher@<EmailServer> のように、その名前が電子メールサーバに追加されます。
8. 件名ボックスで、件名を入力するか、プレースホルダを選択します。
レポートをパーソナライズした場合、パーソナライズされたプレースホルダは [プレースホルダの追加] リストで使用できるようになります。
9. メッセージボックスに、電子メールの本文に表示するメッセージを入力します。
10. メッセージボックスに動的コンテンツを埋め込むには、コンテンツを埋め込むメッセージボックスにカーソルを置いて、プレースホルダの追加リストからレポート HTML コンテンツを選択します。
メッセージボックスに、%SI_DOCUMENT_HTML_CONTENT% と表示されます。パブリケーションの実行時、動的コンテンツドキュメントのパーソナライズされたコンテンツにプレースホルダが置き換えられます。
11. パブリケーションにその他のソースドキュメントが含まれている場合、[添付ファイルの追加] チェックボックスを選択します。
パブリケーションの実行時、パブリケーション内のその他のソースドキュメントは、添付ファイルとして電子メールに追加されます。
12. OK をクリックします。

10.2.12 パブリケーションでの Crystal Reports の設定

10.2.12.1 Crystal Reports でのパーソナライゼーション

パラメータまたはフィールドのフィルタリングによって受信者の Crystal レポートをパーソナライズできます。

可能な場合は、Crystal レポートをローカルプロファイルターゲットでパーソナライズしてください。パラメータがレコード選択式、コマンド、テーブル、またはストアードプロシージャで 사용되는場合、パラメータベースのパーソナライゼーションでは受信者ごとにデータベースフェッチを1回行う必要があり、パブリケーションの処理に時間がかかる場合があります。

たとえば、プロファイルがパラメータにマップされ、Enterprise 受信者のプロファイル値がパラメータ値と競合する場合は、パブリケーションが実行されると、プロファイル値によってパラメータ値が上書きされます。同様に、動的受信者ソースの値が動的受信者のパラメータ値と競合する場合、パブリケーションが実行されるとパラメータ値は上書きされます。

パラメータに基づくパーソナライゼーションは、他のパーソナライゼーション方法で上書きされます。

10.2.12.1.1 パラメータ値を使用した **Crystal** レポートのパーソナライズ

スケジュールダイアログボックスで、Crystal レポートをパーソナライズできます。

- Enterprise 受信者のデータのパーソナライズにプロファイルを使用する前に、BI プラットフォームでプロファイルを設定する必要があります。
 - このタスクを実行するには、Crystal レポートにパラメータが含まれている必要があります。
- パーソナライズする Crystal レポートを右クリックして、**スケジュール**を選択します。
 - スケジュール**ダイアログボックスのナビゲーションリストで、**パーソナライゼーション**をクリックします。
 - [**パラメータ**] でパラメータ値を検討し、変更が必要な値がないか確認します。
 - デフォルト値を変更する場合は、デフォルトパラメータ値の横にある**値の編集**ボタンをクリックし、パラメータ値を選択または入力して **OK** をクリックします。
 - 次の操作のいずれかを実行します。
 - デフォルトパラメータのパーソナライゼーション値を Enterprise 受信者のプロファイル値で上書きする場合は、[**Enterprise 受信者のマッピング**] 列で、一覧からプロファイルを選択します。
このプロファイルが BI プラットフォームで設定されていない場合、パーソナライゼーションは失敗します。BI プラットフォームに追加するプロファイルが必要な場合は、システム管理者に問い合わせてください。
 - デフォルトパラメータ値のみを使用してレポートをパーソナライズする場合は、[**Enterprise 受信者のマッピング**] 列で [**すべての受信者のデフォルト値**] を選択します。
- [**Enterprise 受信者のマッピング**] 列は、Enterprise 受信者向けのパブリケーションにのみ表示されます。
- デフォルトパラメータのパーソナライゼーション値を動的受信者のパーソナライゼーション値で上書きする場合は、[**動的受信者のマッピング**] 列で、一覧から動的受信者ソースを選択します。
- [**動的受信者のマッピング**] 列は、動的受信者向けのパブリケーションにのみ表示されます。
- デフォルトパラメータ値を使用してレポートをパーソナライズする場合は、[**動的受信者のマッピング**] 列で [**指定なし**] を選択します。- OK** をクリックします。

10.2.12.1.2 フィールドのフィルタリングによる **Crystal** レポートのパーソナライズ

スケジュールダイアログボックスで、Crystal レポートをパーソナライズします。

Enterprise 受信者のデータのパーソナライズにプロファイルを使用する前に、BI プラットフォームでプロファイルを設定する必要があります。

フィルタを使用すると、ViewTime 選択式がレポートに追加され、データがフィルタリングされます。この式は、パブリケーションが実行され、レポートに保存されていない場合に適用されます。Crystal レポートでは、複数のフィールドをフィルタリングできます。静的値のプロファイルでは、Crystal レポートの文字列フィールドのみをフィルタリングできます。他の種類のフィールドをフィルタ処理する場合は、式のプロファイル値を使用します。不適切なタイプのフィールドをプロファイルにマップすると、パーソナライゼーションは失敗します。

この機能は、.rptr 形式の Crystal レポートでは使用できません。

1. パーソナライズする Crystal レポートを右クリックして、**スケジュール**を選択します。
2. **スケジュール**ダイアログボックスのナビゲーションリストで、**パーソナライゼーション**をクリックします。
3. **[ローカルプロファイル]**の**[レポートフィールド]**列で、一覧から Crystal レポートフィールドを選択します。
使用可能なフィールドの一覧には、メインレポートおよび非オンデマンド型サブレポートのすべてのデータベースフィールドおよび繰り返し式が含まれています。
4. **[Enterprise 受信者のマッピング]**列で、一覧からプロファイルを選択します。
このプロファイルは、Enterprise 受信者に対して定義されたレポートをプロファイル値にマップします。このプロファイルが BI プラットフォームで設定されていない場合、パーソナライゼーションは失敗します。プロファイルの追加が必要な場合は、システム管理者に問い合わせてください。
[Enterprise 受信者のマッピング]列は、Enterprise 受信者向けのパブリケーションにのみ表示されます。
5. **[動的受信者のマッピング]**列で、一覧から動的受信者のソースを選択します。
レポートフィールドは、対応する値を含む動的受信者ソースの列にマッピングされます。
[動的受信者のマッピング]列は、動的受信者向けのパブリケーションにのみ表示されます。
6. フィルタリング対象の各レポートフィールドに対し、手順 2～5 を繰り返します。
7. **OK** をクリックします。

10.2.12.2 Crystal レポートのパブリケーション形式の選択

Crystal レポートのパブリケーション形式は、**[パブリケーションプロパティ]** > **[レポート機能]** > **[形式]** で選択します。

1つの Crystal レポートに対して複数のパブリケーション形式を選択して設定することができます。形式を選択すると、使用可能な形式オプションが表示されます。**[Crystal Reports]** および **[Crystal Reports (RPTR)]** などの一部のオプションでは、形式オプションが表示されず、デフォルトのソースドキュメント形式が適用されます。

1. パブリケーション形式を選択する Crystal レポートを右クリックして、**[スケジュール]**を選択します。
2. **[スケジュール]**ダイアログボックスで**[形式]**を選択します。
3. **[選択したドキュメントの形式オプション]**で、Crystal レポートを公開する形式を選択します。
選択した形式のオプションが表示されます。
4. 必要に応じて書式オプションを設定します。
5. **[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用]**チェックボックスが使用可能な場合は、以下のいずれかを行います。
 - ソースドキュメントで定義されているデフォルトのエクスポートオプションを使用する場合は、チェックボックスをオンにします。
 - 選択した形式でのエクスポートオプションを設定する場合は、チェックボックスをオフにして、表示されるオプションを設定します。
6. Crystal レポートを公開する各形式に対し、手順 3～5 を繰り返します。
7. **OK** をクリックします。

パブリケーションの Crystal レポートごとに、このタスクを繰り返します。

10.2.12.2.1 Crystal レポートの書式設定オプション

書式設定オプションとして [\[タブ区切りテキスト \(TTX\)\]](#) を選択する場合は、追加のオプションは表示されません。
[\[PDF\]](#) オプションは、PDF ファイルとして公開されるソースドキュメントに適用されます。

Microsoft Excel(97-2003)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none">レポート全体を Excel ファイルとして公開する場合は、[すべて] を選択します。特定のレポートページを公開するには、[ページ] を選択し、[開始] ボックスに最初のページ番号を入力してから、[終了] ボックスに最後のページ番号を入力します。
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
列幅の設定	<ul style="list-style-type: none">レポートのオブジェクトを基準にして列幅を定義するには、[列幅を次のオブジェクトに合わせる] を選択して、[レポート全体]、[レポートヘッダ]、[ページヘッダ]、[グループヘッダ #]、[詳細]、[グループフッタ #]、[ページフッタ]、または [レポートフッタ] の一覧からオプションを選択します。すべてのレポート列に対して一定の幅を定義する場合は、[列幅を一定にする (ポイント単位)] を選択して、ボックスに数値を入力します。
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	Excel ファイルでヘッダとフッタを表示する頻度を選択する場合は、このチェックボックスを選択して、 [なし] 、 [レポートごとに 1 回] 、または [各ページ] の一覧からオプションを選択します。
ページごとにページ区切りを作成する	このチェックボックスを選択すると、レポートのページ区切りを反映するページ区切りを作成できます。
日付の値を文字列に変換する	このチェックボックスを選択すると、データ値をテキスト文字列に変換できます。
グリッドラインを表示する	このチェックボックスを選択すると、Excel ファイルにグリッドラインを表示できます。

Microsoft Excel (97-2003) (データのみ)

[\[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用\]](#) チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。

オプション	説明
列幅の設定	<ul style="list-style-type: none"> レポートのオブジェクトを基準にして列幅を定義するには、[列幅を次のオブジェクトに合わせる]を選択して、[レポート全体]、[レポートヘッダ]、[ページヘッダ]、[グループヘッダ #]、[詳細]、[グループフッタ #]、[ページフッタ]、または[レポートフッタ]の一覧からオプションを選択します。 すべてのレポート列に対して一定の幅を定義する場合は、[列幅を一定にする (ポイント単位)]を選択して、ボックスに数値を入力します。
オブジェクトの書式設定をエクスポートする	レポートのオブジェクトの書式設定を維持するには、このチェックボックスを選択します。
画像をエクスポートする	Excel ファイルでレポート画像を公開するには、このチェックボックスを選択します。
集計にワークシートの関数を使用する	レポートの集計を使用して Excel ファイルのワークシート関数を作成するには、このチェックボックスを選択します。
オブジェクトの相対位置を維持する	レポートオブジェクトの相対位置を維持するには、このチェックボックスを選択します。
列の配置を維持する	レポートの列の配置を維持するには、このチェックボックスを選択します。
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	Excel ファイルでヘッダとフッタを表示する頻度を選択する場合は、このチェックボックスを選択して、[なし]、[レポートごとに1回]、または[各ページ]の一覧からオプションを選択します。
ページヘッダを簡略化する	レポートのページヘッダを簡略化する場合は、このチェックボックスを選択します。
グループのアウトラインを表示する	レポートのグループアウトラインを表示するには、このチェックボックスを選択します。

Microsoft Excel ワークブックデータのみ

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。

オプション	説明
列幅の設定	<ul style="list-style-type: none"> レポートのオブジェクトを基準にして列幅を定義するには、[列幅を次のオブジェクトに合わせる]を選択して、[レポート全体]、[レポートヘッダ]、[ページヘッダ]、[グループヘッダ #]、[詳細]、[グループフッタ #]、[ページフッタ]、または[レポートフッタ]の一覧からオプションを選択します。 すべてのレポート列に対して一定の幅を定義する場合は、[列幅を一定にする (ポイント単位)]を選択して、ボックスに数値を入力します。
オブジェクトの書式設定をエクスポートする	レポートのオブジェクトの書式設定を維持するには、このチェックボックスを選択します。
画像をエクスポートする	Excel ファイルでレポート画像を公開するには、このチェックボックスを選択します。
集計にワークシートの関数を使用する	レポートの集計を使用して Excel ファイルのワークシート関数を作成するには、このチェックボックスを選択します。
オブジェクトの相対位置を維持する	レポートオブジェクトの相対位置を維持するには、このチェックボックスを選択します。
列の配置を維持する	レポートの列の配置を維持するには、このチェックボックスを選択します。
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	Excel ファイルでヘッダとフッタを表示する頻度を選択する場合は、このチェックボックスを選択して、[なし]、[レポートごとに1回]、または[各ページ]の一覧からオプションを選択します。
ページヘッダを簡略化する	レポートのページヘッダを簡略化する場合は、このチェックボックスを選択します。
グループのアウトラインを表示する	レポートのグループアウトラインを表示するには、このチェックボックスを選択します。

Microsoft Word(97-2003)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none">レポート全体を Word ファイルとして公開する場合は、[すべて]を選択します。特定のレポートページを公開するには、[ページ]を選択し、[開始] ボックスに最初のページ番号を入力してから、[終了] ボックスに最後のページ番号を入力します。

PDF

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none">レポート全体を PDF ファイルとして公開する場合は、[すべて]を選択します。特定のレポートページを公開するには、[ページ]を選択し、[開始] ボックスに最初のページ番号を入力してから、[終了] ボックスに最後のページ番号を入力します。
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
グループツリーからブックマークを作成	グループツリー構造に基づいて、生成された PDF ファイルにブックマークを作成する場合は、このチェックボックスを選択します。

リッチテキスト形式 (RTF)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none">レポート全体を RTF ファイルとして公開する場合は、[すべて]を選択します。特定のレポートページを公開するには、[ページ]を選択し、[開始] ボックスに最初のページ番号を入力してから、[終了] ボックスに最後のページ番号を入力します。

Microsoft Word - 編集可能 (RTF)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none">レポート全体を Word ファイルとして公開する場合は、[すべて]を選択します。特定のレポートページを公開するには、[ページ]を選択し、[開始] ボックスに最初のページ番号を入力してから、[終了] ボックスに最後のページ番号を入力します。
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
レポートのページごとに改ページする	このチェックボックスを選択すると、レポートのページ区切りを反映するページ区切りを作成できます。

テキスト

[\[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用\]](#) チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。

オプション	説明
インチあたりの文字数	テキストファイルで1インチあたりに表示する文字数を入力します。推奨される範囲は8～16です。

ページ区切り付きテキスト

[\[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用\]](#) チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。

オプション	説明
1 ページあたりの行数	ページ区切り付きテキストファイルで1ページあたりに表示する行数を入力します。
インチあたりの文字数	ページ区切り付きテキストファイルで1インチあたりに表示する文字数を入力します。推奨される範囲は8～16です。

カンマ区切り値 (CSV)

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。

オプション	説明
区切り文字	区切り文字として使用する文字を入力します。
区切り	値の区切り文字として使用する文字を入力するか、 <input type="checkbox"/> [タブ] チェックボックスを選択してタブで値を区切ります。
モード	[標準モード] (デフォルト) または [レガシーモード] を選択します。標準モードでは、CSV 出力にレポートのページ、グループヘッダ、およびグループフッタを表示する方法を制御できます。
レポートセクションとページセクション	<ul style="list-style-type: none">レポートセクションとページセクションをエクスポートする場合は、[エクスポート] を選択します。レポートセクションとページセクションをエクスポートしない場合は、[エクスポートしない] を選択します。レポートセクションとページセクションを切り離す場合は、[レポート/ページセクションを切り離す] チェックボックスを選択します。
グループセクション	<ul style="list-style-type: none">グループセクションをエクスポートする場合は、[エクスポート] を選択します。グループセクションをエクスポートしない場合は、[エクスポートしない] を選択します。グループセクションを切り離す場合は、[レポート/ページセクションを切り離す] チェックボックスを選択します。

XML

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。

オプション	説明
XML エクスポート形式	XML 形式を指定するには、一覧からオプションを選択します。

10.2.12.3 (オプション) パブリケーションの Crystal レポートでの印刷オプションの選択

[パブリケーションプロパティ] > [レポート機能] > [出力設定] で、Crystal レポートの印刷オプションを選択できます。

デフォルトプリンタの印刷オプションを設定する前に、以下の条件が満たされている必要があります。


- プリンタを適切に設置および設定されている。
- Crystal Reports Job Server が、指定したプリンタにアクセスする権限を持つアカウントによって実行されている。
詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

Crystal Reports Job Server のデフォルトプリンタまたはその他のプリンタを使用して、パブリケーションを実行するたびに Crystal レポート形式のインスタンスを印刷できます。BI プラットフォームは、パブリケーションがパーソナライズされた後、それが配信される前にインスタンスを印刷します。

1. 印刷オプションを設定する Crystal レポートを右クリックして、[スケジュール] を選択します。
2. [スケジュール] ダイアログボックスで、[出力設定] をクリックします。
3. [ドキュメント] で、パブリケーションの実行時に印刷する Crystal レポートを選択します。
4. [スケジュール時に Crystal レポートを印刷する] チェックボックスを選択します。
Crystal レポートの印刷オプションが表示されます。
5. [通常使用するプリンタ] を選択して Job Server のデフォルトプリンタを使用するか、[プリンタの指定] を選択して、プリンタのパスおよび名前を選択します。
 - Job Server が Windows で実行されている場合には、**プリンタを指定する**ボックスに `¥<PrintServer>¥<PrinterName>` と入力します。
`<PrintServer>` には使用しているプリンタサーバの名前を入力し、`<PrinterName>` には使用しているプリンタの名前を入力してください。
 - Job Server が Unix で実行されている場合は、Unix が表示されている (非表示でない) ことを確認し、通常使用する印刷コマンドを **プリンタを指定**ボックスに入力します。
たとえば、`lp -d <PrinterName>` と入力します。
6. **部数**ボックスに、印刷する部数を入力します。
7. [ページ範囲] で、[すべて] を選択してパブリケーションのすべてのページを印刷するか、[ページ] を選択して、印刷するページ範囲を入力します。
8. (オプション) [部単位で印刷するオプションを設定] リストで、[部単位で印刷]、[ページ単位で印刷]、または [プリンタのデフォルト値を使用] を選択します。
9. (オプション) [ページの拡大縮小] リストで、[拡大して合わせる]、[縮小のみで合わせる]、または [縮小拡大しない] を選択します。
10. (オプション) レポートコンテンツをページ上で中央揃えにするには、[ページの中央揃え] チェックボックスをオンにします。
11. (オプション) 幅の広い Crystal レポートを 1 ページに印刷するには、[横方向のページを 1 ページに合わせる] チェックボックスをオンにします。
12. **スケジュール** をクリックします。


10.2.12.4 (オプション) パブリケーションでの Crystal Reports レポートの受信者配信ルールを選択

受信者配信ルールでは、処理およびパーソナライゼーションの後、各受信者にパブリケーションを配信するかどうかを決定します。パブリケーションの作成後、パブリケーションを開いてその配信ルールを変更できます。

1. 配信ルールを選択するパブリケーションの横にある  アイコンをクリックして、[プロパティ] を選択します。
2. [パブリケーションプロパティ] ウィンドウで、[レポート機能] を展開し、ナビゲーションリストで [配信ルール] をクリックします。
3. [受信者配信ルール] で、[条件に一致するときに個々のドキュメントを配信する] または [すべての条件が一致する場合のみすべてのドキュメントを配信する] を選択します。
4. 各ドキュメントの横にある [条件] 列で、パブリケーションを配信するために満たされる条件を選択します。
5. [保存して終了] をクリックします。

10.2.12.5 (オプション) パブリケーションのグローバル配信ルールの選択

グローバル配信ルールでは、パブリケーションを処理してすべての受信者に配信できるかどうかを決定します。グローバル配信ルールは、Crystal Reports レポートに基づいて BI プラットフォームの任意のパブリケーションで設定できます。

1. 配信ルールを選択するパブリケーションの横にある  アイコンをクリックして、[プロパティ] を選択します。
2. [パブリケーションプロパティ] ページで、[レポート機能] を展開し、ナビゲーションリストで [配信ルール] をクリックします。
3. [グローバル配信ルール] で、[参照] をクリックします。
[ドキュメントの選択] ダイアログボックスが表示され、グローバル配信ルールのソースとして Crystal Reports レポートを選択できます。

① 注記

Crystal Reports レポートにはアラートが含まれている必要があります。

4. Crystal Reports レポートを見つけて選択し、[OK] をクリックします。
5. [条件] リストで、処理して配信するパブリケーションに適用可能な条件を選択します。
6. [保存して終了] をクリックします。

10.2.12.6 (オプション) Crystal レポートからの結合 PDF ファイルの書式設定

結合 PDF ファイルを書式設定する前に

- Crystal レポートを結合 PDF ファイルに含めるには、レポートにタイトルが必要です。レポートのタイトルを設定するには、レポートを SAP Crystal Reports で開き、**ファイル** ▶ **プロパティ** を選択し、**概要** タブの **タイトル** ボックスにレポートのタイトルを入力します。レポートを保存し、リポジトリに再エクスポートします。
- BI ラウンチパッドでは、**プロパティ** ページの **ソースドキュメント** に、結合する Crystal レポートおよび PDF ファイルが正しい順序で表示されている必要があります。
- BI ラウンチパッドでパブリケーションの **プロパティ** ページで、**レポート機能** を展開します。
- **形式** で、マージされた PDF ファイルに含める各 Crystal レポートの形式として **PDF** チェックボックスが選択されている必要があります。
- BI ラウンチパッドでは、**スケジュール** ページの **出力先** で、結合 PDF ファイルを送信する各出力先に対し、**エクスポートされた PDF をマージ** チェックボックスが選択されている必要があります。

マージされた PDF にナビゲーションが容易になる詳細なブックマークが含まれるようにします。一覧表示された Crystal レポートごとに以下を行います。

- **形式** 領域の **ドキュメント** リストからレポートを選択します。
- **レポートで指定されたエクスポートオプションを使用** チェックボックスをクリアします。
- **グループツリーからブックマークを作成** チェックボックスを選択します。

マージされた PDF ファイルを書式設定するには、以下の手順を実行します。

1. マージされた PDF ファイルを書式設定するパブリケーションの横にある *** アイコンをクリックして、**プロパティ** を選択します。
2. **プロパティ** ページで、**レポート機能** を展開し、ナビゲーションリストで **結合 PDF オプション** をクリックします。
3. 結合 PDF ファイルの目次を作成します。
 - a. **目次の作成** トグルボタンを有効にします。
目次の書式設定オプションが表示されます。
 - b. **タイトル** ボックスに、目次のタイトルを入力します。
 - c. **タイトルのフォント** 一覧で、目次のタイトルのフォント、フォントサイズ (ポイント単位)、およびフォントの色を選択します。
 - d. **アイテムのフォント** 一覧で、目次のアイテムのフォント、フォントサイズ (ポイント単位)、およびフォントの色を選択します。
4. 結合 PDF ファイルのページ番号の書式設定を行います。
 - a. **実行中のページ番号を適用** トグルボタンを有効にします。
ページ番号の書式設定オプションが表示されます。
 - b. **数値の書式設定** ボックスにページ番号の書式を入力します。
デフォルトでは、この形式は Page &p of &P に設定されています。この書式は変更できます。ただし、現在のページ番号のプレースホルダには &p、ページ総数のプレースホルダには &P を使用する必要があります。
 - c. **数値の場所** 一覧で、結合 PDF ファイルのページ番号の向きを選択します。
 - d. **数値のフォント** 一覧で、ページ番号のフォント、フォントサイズ (ポイント単位)、フォントの色を選択します。
 - e. 目次にページ番号を含める場合は、**目次ページにページ番号を適用** チェックボックスをオンにします。
5. 受信者のログオン認証情報と受信者アクションに関する許可を設定します。
 - a. **制限の設定** トグルボタンを有効にします。

- b. **ユーザパスワード**ボックスに、結合 PDF ファイルを受信者が表示する場合に必要なパスワードを入力します。
 - c. **所有者パスワード**ボックスに、結合 PDF ファイルを受信者が編集する場合に必要なパスワードを入力します。
 - d. 受信者が PDF ファイルを印刷できるようにするには、**[印刷を許可]** チェックボックスをオンにします。
 - e. 受信者が PDF ファイルを変更できるようにするには、**[コンテンツの変更を許可]** チェックボックスをオンにします。
 - f. 受信者が PDF コンテンツをコピーして貼り付けることができるようにするには、**[コピーと貼り付けを許可]** チェックボックスをオンにします。
 - g. 受信者が PDF ファイルの注釈を変更できるようにするには、**[注釈の変更を許可]** チェックボックスをオンにします。
6. **[保存]** をクリックします。

10.2.12.7 Crystal Reports レポートのデータベースログオン情報の設定

受信者がデータベースにログオンしたり、Crystal Reports レポートのデータを最新表示したりする場合に使用するデータベースログオン情報を設定できます。

Crystal Reports レポートのデータベース設定が正しいことを確認するか、レポートのデフォルトのデータベース設定を変更します。CMC の **フォルダ** で Crystal レポートを選択し、**管理** ▶ **デフォルト設定** ▶ **データベース設定** ▶ を選択し、データベース情報を確認するか、新しい情報を入力します。

① 注記

既存のスケジュールまたはパブリケーションの分割を防ぐため、CMC データベース設定の変更は、次回の Crystal Reports レポートをスケジュールまたは公開したときにのみ表示されます。

1. データベースログオン情報を設定する対象のパブリケーションの横にある *** アイコンをクリックして、**[スケジュール]** または **[プロパティ]** を選択します。
2. **[スケジュール]** または **[プロパティ]** ページで、**[レポート機能]** を展開し、ナビゲーションリストで **[データベースログオン]** をクリックします。
3. **[データソース]** リストで、データソースを選択します。
データソースのデータベース情報が **[詳細]** セクションに表示されます。
4. **[データベースサーバ]** フィールドと **[データベース]** フィールドの情報が正しいことを確認します。
5. **[ユーザ]** フィールドに、受信者がログオンに使用するユーザ名を入力します。
6. **[パスワード]** フィールドに、受信者がログオンに使用するパスワードを入力します。
7. **[スケジュール]** をクリックします (または **[プロパティ]** ページで **[保存]** をクリックします)。

また、Crystal Reports レポートが内部的に参照するデータソース情報を変更することもできます。SAP Crystal Reports で Crystal Reports レポートを開き、**データベース** ▶ **データソースの保存場所の設定** ▶ を選択します。接続を選択するか、**[データソースの保存場所の設定]** ダイアログボックスで新しい接続を作成します。

10.2.13 Web Intelligence ドキュメントのデザイン

10.2.13.1 Web Intelligence ドキュメントのパブリケーション形式の選択

パブリケーションの各動的コンテンツソース Web Intelligence ドキュメントのパブリケーション形式を選択する必要があります。

1. パブリケーション形式を指定する Web Intelligence ドキュメントを右クリックして、[スケジュール](#)を選択します。
2. [スケジュール](#)ダイアログボックスのナビゲーションリストで、[形式](#)をクリックします。
3. [出力形式](#)で、Web Intelligence ドキュメントを公開する形式の横にあるチェックボックスを選択します。
 - [Web Intelligence](#)
 - [Microsoft Excel](#)
 - [Adobe Acrobat](#)
 - [mHTML](#)
4. [\[カンマ区切り値 \(CSV\)\]](#)を選択した場合、[\[形式オプションと設定\]](#)で以下のアクションを実行します。
 - a. [\[テキスト修飾子\]](#) リストで、テキスト修飾子を選択します。
 - b. [\[列区切り文字\]](#) リストで、列区切り文字を選択します。
 - c. [\[文字セット\]](#) リストで、文字セットを選択します。
 - d. 新しい文字セットを入力する場合、[新しい文字セットの入力](#)チェックボックスを選択し、ボックスに文字セットを入力します。
 - e. 指定した設定をデフォルトとして使用する場合、[\[デフォルト値として設定\]](#) チェックボックスを選択します。
 - f. 各データソースに対してカンマ区切り値を生成する場合、[\[データプロバイダごとに個別の CSV を生成する\]](#) チェックボックスを選択します。
5. ドキュメントを公開する各形式に対し、手順 3～4 を繰り返します。
6. [OK](#) をクリックします。

10.2.13.2 グローバルプロファイルターゲットを使用する Web Intelligence ドキュメントのパersonライゼーション

グローバルプロファイルターゲットを使用してフィルタ処理することにより、Enterprise 受信者向けの Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズできます。

- Enterprise 受信者のデータのパーソナライズにプロファイルを使用する前に、BI プラットフォームでプロファイルを設定する必要があります。プロファイルがプラットフォームで設定されていない場合、パーソナライゼーションは失敗します。
- Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズする前に、プロファイルにグローバルプロファイルターゲットが含まれることを確認します。

[グローバルプロファイル](#)の下でパーソナライゼーションを定義する場合は、[フィルタ](#)の下のパersonライゼーションオプションを設定する必要はありません。BI プラットフォームに追加するプロファイルが必要な場合は、システム管理者に問い合わせてください。

1. パーソナライズする Web Intelligence ドキュメントを右クリックして、[スケジュール](#)を選択します。
2. [スケジュール](#)ダイアログボックスのナビゲーションリストで、[パーソナライゼーション](#)をクリックします。
3. [\[グローバルプロファイル\]](#)の下にある [\[Enterprise 受信者のマッピング\]](#) 列で、リスト内のプロファイルを選択します。
このプロファイルにより、ドキュメントが、Enterprise 受信者でフィルタリングされたユニバースフィールド (グローバルプロファイルターゲット) にマップされます。
4. [OK](#) をクリックします。

10.2.13.3 フィールドのフィルタリングによる Web Intelligence ドキュメントのパーソナライズ

データのパーソナライズにプロファイルを使用する前に、BI プラットフォームでプロファイルを設定する必要があります。このプロファイルがプラットフォームで設定されていない場合、パーソナライゼーションは失敗します。

静的な値のプロファイルは、ソースドキュメントの文字列フィールドのみをフィルタできます。他の種類のフィールドをフィルタ処理する場合は、式のプロファイル値を使用します。不適切なタイプのフィールドをプロファイルにマップすると、パーソナライゼーションは失敗します。プラットフォームに追加するプロファイルが必要な場合は、システム管理者に問い合わせてください。

Web Intelligence ドキュメントを .wid 形式にスケジュールおよび公開すると、.wid ファイルが生成されます。.wid ファイルのフィルタは、適切なセキュリティ権限を持つ受信者であれば削除することができます。.wid ファイルが受信者または出力先に送信される場合は、フィルタは慎重に使用してください。たとえば、Web Intelligence ドキュメントをフィルタして受信者が参照できる情報を制限し、公開された .wid ファイルを受信者に送信した場合、ドキュメントを編集するセキュリティ権限を持つ受信者はフィルタを削除または更新して、表示されていないデータにアクセスすることができます。

1. パーソナライズする Web Intelligence ドキュメントを右クリックして、[スケジュール](#)を選択します。
2. [スケジュール](#)ダイアログボックスのナビゲーションリストで、[パーソナライゼーション](#)をクリックします。
3. [\[ローカルプロファイル\]](#)の下で、[\[タイトル\]](#)列のプロファイルごとに、[\[レポートフィールド\]](#)列を選択します。
このプロファイルは、Enterprise 受信者向けにレポートフィールドをプロファイル値にマップします。
4. [\[ローカルプロファイル\]](#)の下にある [\[Enterprise 受信者のマッピング\]](#) 列で、リスト内のプロファイルを選択します。
このプロファイルにより、ドキュメントが、Enterprise 受信者でフィルタリングされたユニバースフィールド (グローバルプロファイルターゲット) にマップされます。
5. [\[動的受信者のマッピング\]](#) 列で、リスト内のプロファイルを選択します。
ソースドキュメント内のフィールドは、動的受信者ソース内の対応する値を含む列にマップされます。
6. フィルタする各フィールドに対し、手順 3～5 を繰り返します。
7. [OK](#) をクリックします。

10.2.14 オプションのパブリケーションタスク

この節のタスクはオプション (パブリケーションのデザインおよびスケジュールの必須設定ではない) ですが、パブリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。

10.2.14.1 オブジェクトに対するパラメータ (プロンプト) 値の編集

コンテンツオブジェクトでデフォルトパラメータ (プロンプト) 値を使用しない場合は、値を編集することができます。

パラメータ (プロンプト) では、情報の入力が必要されます。レポートオブジェクトでは、入力した情報によってレポートに表示されるデータが決まります。たとえば、営業で使用するレポートでは、地域を選択を求めるパラメータが表示されます。地域が選択されると、選択された地域についてのみ結果が表示されます。

1. **[ドキュメント]** タブでパラメータ (プロンプト) 値を編集するオブジェクトを右クリックして、**[スケジュール]** を選択します。
2. **[スケジュール]** ページで、**[レポート機能]** を展開し、ナビゲーションリストで **[プロンプト]** をクリックします。

パラメータ (プロンプト) オプションは、システム管理者がパラメータまたはプロンプトを設定した方法に応じて、オブジェクトごとに異なります。たとえば、プログラムオブジェクトは **[引数]** ボックスに表示されることがあります。

[プロンプト] オプションを使用できない場合、コンテンツオブジェクトにパラメータまたはプロンプトが含まれません。

3. (Crystal Reports レポートのみ) **[プロンプト]** 領域で、**[値の編集...]** をクリックし、パラメータ値を編集します。
4. (SAP BEx クエリに基づく Web Intelligence ドキュメントのみ) **[プロンプト]** 領域で、**[変更]** をクリックしてプロンプト値を編集するか、**[クリア]** をクリックして値を削除します。

Web Intelligence ドキュメントでは、パラメータはプロンプトと呼ばれます。スケジュールされたドキュメントが SAP Business Explorer (SAP BEx) クエリに基づいて実行されると、プロンプトの値を SAP Business Warehouse (SAP BW) データソース変数によって固定するか取得することができます。プロンプトには、SAP BW データソースの必須変数を含めることができます。

SAP BW データソースは、プロンプトに対して入力された値を処理する必要があります。データソースが値を処理できない場合、ドキュメント実行は失敗します。たとえば、SAP BW Exit またはカスタム Exit 変数がプロンプトで動的変数として頻繁に使用されます。


クリア ボタンを使用できない場合、管理者が `<InstallDir>%<WebAppServer>%webapps%boe%web-inf%config%custom%AnalyticalReporting.properties` ファイルで `bex.dynamic_variable.schedule=true` を設定することで、このボタンを有効にできます。手順については、*Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

5. **スケジュール** をクリックします。

10.2.14.2 パブリケーションを起動するイベントの選択

イベントベースのスケジュールでは、パブリケーションを実行するタイミングに対して追加の制御を行うことができます。イベントを使用してパブリケーションをトリガするか、パブリケーションジョブを使用してイベントをトリガします。

イベントの詳細については、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームユーザガイドを参照してください。

1. イベントを選択するパブリケーションの横にある  アイコンをクリックして、[スケジュール] を選択します。
2. [スケジュール] ページで、[全般] を展開し、ナビゲーションリストで [イベント] を選択します。
3. パブリケーションに対してファイルベースおよびカスタムイベントを指定するには、[待機するイベント] フィールドをクリックします。
4. [イベントの選択] ダイアログで、イベントの横にあるチェックボックスを選択し、[選択した項目] リストに移動して [追加] をクリックします。
イベントにより、パブリケーションジョブが起動されます。


④ 注記

いずれかのイベントが発生した後にパブリケーションのスケジュールをトリガする場合は、**任意のイベント** チェックボックスを選択します。

5. パブリケーションのスケジュールイベントを指定するには、[完了時に発生させるイベント] フィールドをクリックします。
6. [イベントの選択] ダイアログで、イベントの横にあるチェックボックスを選択し、[選択したアイテム] リストに移動して [追加] をクリックします。
パブリケーションジョブが実行されるとイベントが発生します。
7. **スケジュール** をクリックします。

10.2.14.3 パブリケーションでのサーバグループの選択

フェデレーションのサイトをまたいでパブリケーションをスケジュールすることはできません。サーバグループの詳細については、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

1. サーバグループを選択するパブリケーションの横にある  アイコンをクリックして、[スケジュール] を選択します。
2. [スケジュール] ページで、[全般] を展開し、ナビゲーションリストで [サーバグループのスケジュール] を選択します。
3. 元のサイトでパブリケーションジョブを実行する場合、[元のサイトで実行] トグルボタンを有効にします。
4. サーバグループオプションを選択し、[スケジュール] をクリックします。

10.2.14.4 CMC におけるパブリケーション拡張の追加

パブリケーション拡張とは、ビジネスロジックをパブリケーションに適用するコードのライブラリです。パブリケーションで拡張を使用する前に、パブリケーション拡張を追加する必要があります。

パブリケーション拡張を使用する前に、Adaptive Processing Server を実行するすべてのコンピュータで拡張をデプロイしてから、Adaptive Processing Server および公開サービスをホストするその他のサーバ再起動します。サーバの場所は、オペレーティングシステムによって変わります。

- Windows の場合、サーバの場所は `<InstallDir>\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\java\lib` です。
- Unix の場合、サーバの場所は `<InstallDir>/sap_bobj/enterprise_xi40/java/lib/` です。

パブリケーション拡張は、セントラル管理コンソール (CMC) のみで追加できます。(BI ラUNCHパッドにおけるパブリケーションの設計時には追加できません)

パブリケーション拡張の実行順序を指定するには、[[パブリケーション配信前](#)] リストまたは [[パブリケーション配信後](#)] リストの下にある [[上へ移動](#)] または [[下へ移動](#)] をクリックします。パブリケーション拡張の詳細については、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム Java SDK 開発者ガイドを参照してください。

1. CMC で [フォルダ](#) 管理エリアに移動し、パブリケーション拡張を追加するパブリケーションを特定します。
2. パブリケーションを右クリックし、[プロパティ](#) を選択します。
3. [プロパティ](#) ダイアログボックスのナビゲーションリストで [追加オプション](#) を展開し、[パブリケーション拡張](#) をクリックします。
4. [パブリケーション拡張名](#) ボックスにパブリケーション拡張の名前を入力します。
5. [クラス名](#) ボックスに、拡張の完全修飾クラス名を入力します。
6. (オプション) [パラメータ](#) ボックスに、パラメータ名を入力します。
7. 処理後かつ配信前に拡張を使用するには、[[パブリケーション配信前](#)] リストの上部にある [[追加](#)] ボタンをクリックします。
拡張が [[パブリケーション配信前](#)] リストに追加されます。
8. 配信後に拡張を使用するには、[[パブリケーション配信後](#)] リストの上部にある [[追加](#)] ボタンをクリックします。
拡張が [[パブリケーション配信後](#)] リストに追加されます。
9. [保存](#) をクリックします。

10.2.14.5 CMC におけるパブリケーションジョブに対する電子メール通知の有効化

パブリケーションジョブの実行後に電子メールのメッセージを受信する必要がある場合は、電子メール通知を有効化します。

電子メール通知を有効化する前に、Adaptive Job Server が適切に設定されていることを確認します。

電子メール通知は、セントラル管理コンソール (CMC) のみで有効化できます。(BI ラUNCHパッドにおけるパブリケーションの設計時には有効化できません)

1. CMC で [フォルダ](#) 管理エリアに移動し、電子メール通知を有効化するパブリケーションを特定します。
2. パブリケーションジョブを右クリックして、[スケジュール](#) を選択します。

3. [スケジュール] ダイアログボックスのナビゲーションリストで[通知]をクリックし、[電子メール通知: 無効]を展開します。
4. 成功したパブリケーションジョブの場合、デフォルトの受信者電子メールアドレスで電子メール通知を受信するには、**ジョブの実行に成功しました**チェックボックスを選択し、*Job Server* のデフォルト値を使用するを選択して、Adaptive Job Server でデフォルトアドレスを使用します。
5. 成功したパブリケーションジョブの場合、指定した受信者電子メールアドレスで電子メール通知を受信するには、**ジョブの実行に成功しました**チェックボックスを選択し、**ここで使用する値を設定する**を選択して、以下の操作を実行します。
 - a. **差出人**ボックスに、通知の送信元の電子メールアドレスまたは名前を入力します。
 - b. **宛先**ボックスに、通知を受信する必要がある各受信者の電子メールアドレスを入力します。
 - c. **CC** ボックスに、通知でコピーされる必要がある追加の各受信者の電子メールアドレスを入力します。
 - d. **件名**ボックスに、通知の件名を入力します。
 - e. **メッセージ**ボックスに、通知に添付するメッセージを入力します。
6. 失敗したパブリケーションジョブの場合、デフォルトの受信者電子メールアドレスで電子メール通知を受信するには、**ジョブを実行できませんでした**チェックボックスを選択し、*Job Server* のデフォルト値を使用するを選択して、Adaptive Job Server でデフォルトアドレスを使用します。
7. 失敗したパブリケーションジョブの場合、指定した受信者電子メールアドレスで電子メール通知を受信するには、**ジョブを実行できませんでした**チェックボックスを選択し、**ここで使用する値を設定する**を選択して、以下の操作を実行します。
 - a. **差出人**ボックスに、通知の送信元の電子メールアドレスまたは名前を入力します。
 - b. **宛先**ボックスに、通知を受信する必要がある各受信者の電子メールアドレスを入力します。
 - c. **CC** ボックスに、通知でコピーされる必要がある追加の各受信者の電子メールアドレスを入力します。
 - d. **件名**ボックスに、通知の件名を入力します。
 - e. **メッセージ**ボックスに、通知に添付するメッセージを入力します。
8. **スケジュール**をクリックします。

10.2.14.6 CMC におけるパブリケーションジョブに対する監査通知の有効化

成功または失敗したパブリケーションジョブを監査する場合に、監査通知を有効化します。

監査通知は、セントラル管理コンソール (CMC) のみで有効化できます。(BI ラウンチパッドにおけるパブリケーションの設計時には有効化できません) 監査の詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

1. CMC で**フォルダ**管理エリアに移動し、監査通知を有効化するパブリケーションを特定します。
2. パブリケーションジョブを右クリックして、**スケジュール**を選択します。
3. [スケジュール] ダイアログボックスで、[追加オプション]を展開し、[通知]をクリックし、[監査通知: 無効]を展開します。
4. 成功したパブリケーションジョブを監査する場合は、**ジョブの実行に成功しました**を選択します。
5. 失敗したパブリケーションジョブを監査する場合は、**ジョブを実行できませんでした**を選択します。
6. **スケジュール**をクリックします。

10.2.14.7 プロファイルの解決方法の選択

プロファイルの解決方法を選択して、プロファイルの競合が発生した場合に、このプロファイルの解決方法により、パブリケーションでインスタンスを結合できるか別々のドキュメントとして配信できるかを決定するようにします。

プロファイルの解決方法は、セントラル管理コンソール (CMC) または BI ラウンチパッドのいずれかで選択できます。

10.2.14.7.1 CMC におけるプロファイルの解決方法の選択

1. CMC で **フォルダ** 管理エリアに移動し、プロファイルの解決方法を選択するパブリケーションを特定します。
2. パブリケーションジョブを右クリックして、**[プロパティ]** を選択します。
3. **[プロパティ]** ダイアログボックスで、ナビゲーションリストの **[プロパティ]** オプションを展開し、**[詳細]** をクリックします。
4. **プロファイルの解決方法** で、次のいずれかのアクションを実行します。
 - 複数のユーザグループのプロファイルを別々のドキュメントに適用する場合、**[マージしない]** を選択します。
 - 複数のユーザグループのプロファイルを同じドキュメントに適用する場合、**[マージ]** を選択します。
5. **[保存して閉じる]** をクリックします。

10.2.14.7.2 BI ラウンチパッドでのプロファイル解決方法の選択

1. **[マイホーム]** グループで **[フォルダ]** タイルをクリックします。
2. **[フォルダ]** ページで、プロファイルの解決方法を選択するパブリケーションがあるフォルダに移動します。
3. パブリケーションの横の *** アイコンをクリックし、**[プロパティ]** を選択します。
4. **[プロパティ]** ページで、**[全般]** を展開し、ナビゲーションリストで **[詳細]** を選択します。
5. **[プロファイルの解決]** で、次のいずれかのアクションを実行します。
 - 複数のユーザグループのプロファイルを別々のドキュメントに適用する場合、**[マージしない]** を選択します。
 - 複数のユーザグループのプロファイルを同じドキュメントに適用する場合、**[マージ]** を選択します。
6. **[保存して終了]** をクリックします。

10.2.14.8 レポートバースト方法の選択

レポートバースト方法を選択して、パブリケーションでのソースドキュメントのパーソナライゼーション、処理、および配信方法を決定します。

レポートバースト方法を選択する前に、パブリケーションに Enterprise 受信者向けの Web Intelligence ドキュメントが含まれることと、パーソナライゼーションに使用されるプロファイルにフィルタ式が含まれることを確認します。

レポートバースト方法には、ドキュメントのパーソナライゼーションと処理の際に異なるフィルタタイプが使用されます。たとえば、[すべての受信者のデータベースフェッチ] オプションではレポートフィルタが使用され、[受信者ごとのデータベースフェッチ] オプションではクエリフィルタが使用されます。各フィルタタイプは、異なる演算子のセットをサポートします。レポートバースト方法でサポートされない演算子をフィルタ式が使用する場合は、パブリケーションは失敗します。

レポートバースト方法は、セントラル管理コンソール (CMC) または BI ラウンチパッドのいずれかで選択できます。

10.2.14.8.1 CMC におけるレポートバースト方法の選択

1. CMC で、[フォルダ] 管理エリアに移動し、プロファイルの解決方法を選択するパブリケーションを特定します。
2. パブリケーションジョブを右クリックして、[プロパティ] を選択します。
3. [プロパティ] ダイアログボックスで、ナビゲーションリストの [プロパティ] オプションを展開し、[詳細] をクリックします。
4. [レポートバースト方法] の下で、レポートバースト方法を選択します。
5. [保存して閉じる] をクリックします。

10.2.14.8.2 BI ラウンチパッドでのレポートバースト方法の選択

1. [ホーム] グループで [フォルダ] タイルをクリックします。
2. [フォルダ] ページで、プロファイルの解決方法を選択するパブリケーションがあるフォルダに移動します。
3. パブリケーションの横の *** アイコンをクリックし、[プロパティ] を選択します。
4. [プロパティ] ページで、[全般] を展開し、ナビゲーションリストで [詳細] を選択します。
5. [レポートバースト方法] の下で、レポートバースト方法を選択します。
6. [保存して終了] をクリックします。

10.3 パブリケーションの実行およびパブリッシュされたインスタンスの使用



パブリケーションの設計の途中または後の任意の時点で、[概要] ダイアログボックスでパブリケーションのプロパティを確認できます。プロパティには、パブリケーションのタイトル、場所、説明、ソースドキュメント、そのパブリケーションを受信する受信者数 (受信者タイプ (Enterprise または動的) によって並べ替え)、パブリケーションのパーソナライズ方法、配布形式および出力先などが含まれます。

概要をクリックして概要ダイアログボックスを開きます。ナビゲーションパネルの他のオプションを使用して、パブリケーションのプロパティの変更や、パブリケーションの保存やスケジュールを実行できます。

10.3.1 パブリケーションのテスト

BI ラウンチパッドのテストモードを使用し、受信者にパブリケーションを送信する前に自分自身に送信することができます。

パブリケーションをテストし、受信者として自分自身を追加した場合、パブリケーションで設定された受信者に配信予定と同じ情報がユーザに送信されます。必要に応じて、テストモードでは、元の受信者グループから選択した受信者を除外できます。これにより、パブリケーションの内容が受信者に表示される方法をチェックすることができます。

1. パブリケーションを作成した場所のフォルダに移動し、 (その他オプションはここをクリック) → [テストモード] を選択します。
2. (オプション)[テストモード] で、必要に応じて受信者を変更します。
 - a. [Enterprise 受信者] で、 をクリックします。
 - b. [利用可能な受信者] で、ユーザーまたはユーザーグループを包含または除外します。
 - c. [OK] を選択します。
3. (オプション)[動的受信者] では、ドキュメントから取得される受信者リストを変更したり、ドキュメントを削除したりできます。
4. [テスト] を選択します。

テストモードでパブリケーションが実行され、完了すると、対象のテスト受信者に送信されます。

10.3.2 パブリケーションの実行のスケジュール

パブリケーションをスケジュールする場合は、デフォルトの定期的なスケジュールパターンを使用するか、新しい値を入力できます。また、パブリケーションをスケジュールするたびに、受信者を変更することができます。

Business Intelligence ラウンチパッドでパブリケーションを作成するには、BI ラウンチパッドユーザガイドの BI ラウンチパッドでのパブリケーションの作成セクションを参照してください。

これにより、実行をスケジュールする前に、パブリケーションを設計して保存することができます。

1. スケジュールするパブリケーションの横にある *** アイコンをクリックし、[スケジュール] を選択します。
2. [スケジュール] ページで、[全般] を展開し、ナビゲーションリストで [繰り返し] を選択し、[レポートの実行] リストで選択されたオプションが正しいことを確認します。
3. [スケジュール](#) をクリックします。

10.3.2.1 パブリケーションジョブの進捗または履歴の表示

1. パブリケーションジョブの横にある *** アイコンをクリックして、[履歴] を選択します。
[履歴] ページがインスタンスのリストとともに表示され、[ステータス] 列にジョブのステータス (成功、失敗、または実行中) が表示されます。
2. ステータス (成功、失敗、または実行中) をクリックして詳細を表示し、ログをダウンロードします。

10.3.2.2 パブリケーションの最新のインスタンスの表示

1. パブリケーションの最新のインスタンスを表示するには、パブリケーションの横の *** アイコンをクリックし、[最新のインスタンスを表示] を選択します。成功したインスタンスがある場合には、ドキュメントのリストとともにダイアログボックスが表示されます。
2. ドキュメントをクリックして、ダウンロードするか、統一ビューアに表示します。ドキュメントの種類に基づいて、ダウンロードされるか、統一ビューアで開かれます。
3. ログファイルをダウンロードするには、ダイアログボックスの下部にある [ログのダウンロード] をクリックします。

10.3.3 購読および購読解除

購読では、パブリケーションの受信者ではないユーザが、最新インスタンスを表示できます。Enterprise 受信者は、いつでもパブリケーションの購読解除を行うことができます。Dynamic 受信者はパブリケーションの購読および購読解除のいずれも行うことはできません。適切な権限を持っているユーザは、他のユーザの購読および購読解除を行うことができます。パブリケーションを購読する、または購読を解除するには、以下が必須です。

- BI プラットフォームのアカウント
- プラットフォームでの BI ランチパッドへのアクセス
- パブリケーションに対する表示権限
- ユーザアカウントの購読者権限 (Enterprise 受信者)

10.3.3.1 パブリケーションからの購読または購読解除

パブリケーションがスケジュールされてからこれを購読するには、パブリケーションの繰り返し発生するインスタンスを購読するか、パブリケーションを再スケジュールします。

パブリケーションを購読するには、パブリケーションに対する適切なアクセス権限が必要です。

Enterprise 受信者のみが、パブリケーションを購読および購読解除することができます。動的受信者はパブリケーションの購読および購読解除はできません。

1. [ホーム] ページで [フォルダ] タイルをクリックします。
2. 購読または購読解除するパブリケーションのあるフォルダに移動します。
3. パブリケーションの横にある *** アイコンをクリックし、[購読] または [購読解除] を選択します。

これで、選択に基づいて、パブリケーションの購読または購読解除が行われました。

10.3.3.2 パブリケーションインスタンスからの購読または購読解除

繰り返し発生するパブリケーションがスケジュールされた後にも、Enterprise 受信者はその最初の繰り返し発生するパブリケーションを購読できます。たとえば、パブリケーションが週 2 回実行されるようスケジュールされている場合、最初のパブリケーションインスタンスを購読し、2 回目のインスタンスは購読しないよう指定できます。

パブリケーションインスタンスを購読するには、パブリケーションに対する適切なアクセス権限が必要です。

Enterprise 受信者だけがパブリケーションインスタンスを購読および購読解除することができます。動的受信者は、パブリケーションインスタンスの購読または購読解除ができません。

1. [マイホーム] グループで [フォルダ] タイルをクリックします。
2. 購読または購読解除するパブリケーションおよびそのインスタンスのあるフォルダに移動します。
3. パブリケーションの横の *** アイコンをクリックし、[履歴] を選択します。
4. [履歴] ページで、インスタンスの横にある *** アイコンをクリックして [購読] または [購読解除] を選択します。

これで、選択に基づいて、パブリケーションインスタンスの購読または購読解除が行われました。

10.3.4 デフォルトの Enterprise の場所に送信されたパブリケーションの表示

受信者は、自身のパーソナライズ済みパブリケーションインスタンスのみを BI プラットフォームで表示できます。

1. 以下のアクションのいずれかを実行し、セントラル管理コンソール (CMC) を起動します。

- Windows で、**スタート** > **プログラム** > **SAP Business Intelligence** > **SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4** > **SAP BusinessObjects BI プラットフォームセントラル管理コンソール** をクリックします。
 - Web ブラウザで、**http://<ServerName>:<ConnectionPort>/CMC** を入力します。<ServerName> は CMS 名、<ConnectionPort> は接続ポート番号 (インストール時に指定) で置き換えます。デフォルトの接続ポート番号は 8080 です。
2. ログオン認証情報を入力します。
 - a. **システム** ボックスで、CMS 名と CMS ポートが正しいことを確認します。
 - b. ユーザ名とパスワードを入力します。
 - c. **認証** 一覧から認証タイプを選択します。
 3. **ログオン** をクリックします。
 4. **フォルダ** の下で、パブリケーションを右クリックし **履歴** を選択します。
 5. **履歴** ダイアログボックスで、**インスタンスの日時列** のリンクをクリックします。
 6. 表示するインスタンスをダブルクリックします。

10.3.5 BI 受信ボックスに送信されたパブリケーションの表示

動的受信者は、BI 受信ボックスに送信されたパブリケーションを表示できます。BI ラUNCHパッドにログオンしてパブリケーション結果を表示することはできません。

1. 以下のアクションのいずれかを実行し、BI ラUNCHパッドを起動します。
 - Windows で、**スタート** > **プログラム** > **SAP Business Intelligence** > **SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4** > **SAP BusinessObjects BI プラットフォーム Java BI ラUNCHパッド** をクリックします。
 - Web ブラウザで、**http://<ServerName>:<ConnectionPort>/BOE/BI** を入力します。
<ServerName> は CMS 名、<ConnectionPort> は接続ポート番号 (インストール時に指定) で置き換えます。デフォルトの接続ポート番号は 8080 です。
2. ログオン認証情報を入力します。
 - a. **システム** ボックスで、CMS 名が正しいことを確認します。
 - b. ユーザ名とパスワードを入力します。
 - c. **認証** 一覧から認証タイプを選択します。
3. **ログオン** をクリックします。
4. **マイ受信ボックス** をクリックします。
5. 表示するインスタンスをダブルクリックします。

10.3.6 パブリケーションインスタンスの再配布

受信者にインスタンスを再送信したいがパブリケーション全体を再実行したくない場合、成功したパブリケーションインスタンスを最初の受信者全員または受信者の一部に再配布できます。

最初のパブリケーション実行時に指定された受信者のみが、再配布されたインスタンスを受信できます。

1. 次の操作のいずれかを実行します。

- BI ラウンチパッドで、パブリケーションを右クリックし、[履歴] を選択します。
 - セントラル管理コンソール (CMC) でパブリケーションを右クリックして、▶ **アクション** ▶ **履歴** ▶ を選択します。
2. **履歴** ダイアログボックスで、成功したパブリケーションインスタンスを選択します。
 3. 次の操作のいずれかを実行します。
 - ラウンチパッドで、▶ **その他のアクション** ▶ **再スケジュール** ▶ を選択します。
 - CMC で、▶ **アクション** ▶ **再スケジュール** ▶ を選択します。
 4. 再配布されるインスタンスを受信する受信者を選択します。
 - インスタンスを Enterprise の受信者に再配布するには、[Enterprise 受信者] をクリックし、[>] ボタンをクリックして受信者を [利用可能] リストから [選択] リストに移動します。
 - インスタンスを動的受信者に再配布する
 - a. [動的受信者] をクリックし、受信者 ID、フルネーム、および電子メールアドレスにマップされている列が正しいことを確認します。
 - b. パブリケーションをすべての動的受信者に再配布するには、[完全リストの使用] を選択します。
 - c. パブリケーションを選択された動的受信者に再配布するには、[>] ボタンをクリックして受信者を [利用可能] リストから [選択] リストに移動します。
 5. [再配布] をクリックします。
パブリケーション履歴が表示され、再配布されたインスタンスのステータスが [実行中] となっています。[インスタンスの日時] 列の日付は、再配布の日時に合わせて更新されます。

10.3.7 失敗したパブリケーションの再試行

失敗したパブリケーションを再試行するには、パブリケーションインスタンスのログファイルを表示し、エラーを修正し、パブリケーションを再スケジュールします。

失敗したパブリケーションインスタンスを再試行するオプションを使用すると、次のことが可能です。

- 失敗したインスタンスを上書きします ([今すぐ実行] と [再スケジュール] では新しいインスタンスが作成されますが、[再試行] では失敗したインスタンス自体が使用されます)。
- 一部失敗の場合は、失敗した受信者のみを処理します。
- 全体的な失敗の場合は、新しいインスタンスを作成せずにジョブ全体を実行します。

① 注記

また、パブリケーションの [繰り返し] プロパティの [可能な再試行回数] および [再試行間隔 (秒単位)] を指定することによって、自動再試行を実行することもできます。失敗の場合、パブリケーションの再実行が試行されます。

1. 失敗したパブリケーションインスタンスを選択します。
2. 以下のアクションのいずれかを実行します。
 - BI ラウンチパッドで、▶ **その他のアクション** ▶ **履歴** ▶ を選択します。
 - セントラル管理コンソール (CMC) で、▶ **アクション** ▶ **履歴** ▶ を選択します。
3. 失敗したインスタンスを右クリックし、[再試行] をクリックします。
インスタンスのステータスが [実行中] になります。ステータスが [成功] になるまで待機します。

パブリケーションが再び失敗した場合は、新しいログファイルを確認し、発生したエラーを修正してください。

10.4 パブリケーションパフォーマンス

Adaptive Processing Server、公開サービス、およびパブリッシングポスト処理サービスを変更して、パブリケーションパフォーマンスを向上させることができます。

Adaptive Processing Server

領域	考慮点
CPU およびメモリ	<p>使用可能な CPU が多く、BI プラットフォーム Feature Pack 3 以降がインストールされているより高速なマシンに Adaptive Processing Server を移行します。Adaptive Processing Server は使用できる CPU 数に合わせて自動調整されます。</p> <p>専用の Adaptive Processing Server で公開サービスおよびパブリケーションポスト処理サービスを分離し、これらのサーバにホストされている使用されていないサービスを削除します。各サービスは、Adaptive Processing Server 上で多くの共有リソース (スレッドプールへのリクエスト、メモリ、および CPU) を消費するため、公開パフォーマンスが改善される場合があります。</p>

公開サービス

公開はハードドライブに負荷をかけるプロセスであるため、公開サービスは入出力性能の高いマシン、または FRS 用に SAN ディスクを使用するマシンにインストールする必要があります。

領域	考慮点
同時に実行される多数のパブリケーションインスタンス	<p>基礎をなす CMS、FRS、Adaptive Job Server、およびレポート処理サーバが適切に調整されている場合は、公開サービスを 1 つ以上のマシンの複数の Adaptive Processing Server に水平的に拡張することで、より多くのパブリケーションインスタンスを同時に処理できます。</p> <p>単一のパブリケーションジョブ (たとえば、受信者が 100 万人) は、複数の Adaptive Processing Server でホストされている公開サービス間で共有されません。公開サービスの水平的な拡張では、受信者数にかかわらず、単一のパブリケーションの処理時間は短縮されません。</p>
受信者の多いパブリケーション	<p>CPU および RAM がより多いマシン上で Adaptive Processing Server を垂直的に拡張することで、より多くの受信者を同時に処理し、Adaptive Processing Server でより多くのジョブを生成することができます。</p> <p>Adaptive Job Server およびレポート処理サーバも、スループット拡大のために適宜調整が必要になる場合があります。</p> <p>CPU コアが 9 個以上あるマシンで Adaptive Processing Server を実行する場合は、Adaptive Processing Server のヒープサイズを拡大 (-Xmx を 2 GB 以上に設定) にすることが適切です。CPU コア数が増えると、Adaptive Processing Server でより多くのスレッドを生成でき、スループットが増大します。ただし、スレッド数の増加に応じて RAM 容量も増大させる必要があります。</p>
公開クリーンアップオプション	<p>再配信の必要のない大規模なパブリケーションのため、またはレポートでアーティファクトを表示する場合は、デフォルトの出力先を選択しないでください。</p>
Crystal レポートパブリケーション	<p>各受信者に固有のセキュリティを適用する必要がない場合は、[受信者のバッチごとのデータベースフェッチ]を選択します。データベースアクセスが複数の小規模な同時クエリにバッチ化されます。</p>
Web Intelligence パブリケーション	<p>すべての受信者のデータベースフェッチまたは受信者ごとのデータベースフェッチを選択します。</p> <p>大規模なパブリケーションで [すべての受信者のデータベースフェッチ]を選択した場合は、データベースクエリを複数の小規模なクエリに分割するために、公開サービスをホストするすべての Adaptive Processing Server へのディスクデリバリを加速する以下のコマンドラインオプションを追加します。</p> <pre>-Dcom.businessobjects.publisher.scopebatch.max.recipients=<integer></pre>

領域	考慮点
Windows の単一フォルダへのディスクデリバリに時間がかかる大規模なパブリケーション	Microsoft TechNet (http://technet.microsoft.com) で、"自動の短いファイル名の生成を無効にする方法" (文書番号: 210638) または "NtfsDisable8dot3NameCreation" を検索して、その説明に従います。
ファイル数が 300,000 を超える Windows の単一フォルダへのディスクデリバリに時間がかかる大規模なパブリケーション	http://technet.microsoft.com で "how NTFS works" を検索して、その説明に従います。

パブリッシングポスト処理サービス

[ZIP ファイルとしてパッケージ化する] チェックボックス ([スケジュール] ダイアログボックス)、および/または [エクスポートされた PDF をマージ] チェックボックス ([出力先] ダイアログボックス) を選択するか、パブリケーションでカスタムポスト処理プラグインを有効化すると、パブリッシングポスト処理サービスが呼び出されます。

領域	考慮点
[ZIP ファイルとしてパッケージ化する] および [エクスポートされた PDF をマージ] の両方が選択されているパブリケーション	パブリッシングポスト処理サービスを水平的に拡張すると、ZIP および PDF をマージするワークロードが、複数の Adaptive Processing Server にホストされる複数のパブリッシングポスト処理サービス全体に分散されます。

10.4.1 ソースドキュメントの追加に関する推奨事項

この節では、パブリケーションに動的コンテンツドキュメントを追加する際の推奨事項について説明します。

パブリケーションログファイルを使用して、失敗したパブリケーションをトラブルシューティングする

パブリケーションの実行をスケジュールすると、ログファイルが生成され、パブリケーションの実行時に発生したエラーが記録されます。パブリケーションインスタンスのログファイルをすべて表示するには、**その他のアクション** ▶ **履歴** を選択します。[履歴] ダイアログボックスで、[インスタンスの日時] 列にあるインスタンスのリンクをクリックします。インスタンスの詳細が新しいウィンドウで開きます。

Crystal レポートでパラメータを使用したパーソナライゼーションを使用する場合は、パラメータをデフォルトに設定する

パラメータベースのパーソナライゼーションを実行すると、パブリケーションのパフォーマンスが低下する場合があります。Enterprise 受信者のプロファイルまたは動的受信者のパーソナライゼーション値にフィールドをマップして、Crystal レポートのパブリケーションをパーソナライズすると、処理速度が大幅に改善します。

パラメータを使用して Crystal レポートをパーソナライズする必要がある場合は、[パーソナライゼーションセクション](#)のパラメータをデフォルト値に設定します。

① 注記

パブリケーションで Enterprise 受信者のプロファイルを使用するには、BI プラットフォームでプロファイルを設定する必要があります。

個々の動的コンテンツドキュメントをパブリケーションに追加する前に、それらを表示してスケジュールする

動的コンテンツドキュメントを正しく表示およびスケジュールできた場合は、データソース接続が正しく機能し、パブリケーションをスケジュールするときにソースドキュメントデータを最新表示できます。動的コンテンツドキュメントを正しく表示およびスケジュールできない場合は、データソース接続の設定が間違っていないか確認してください。設定の確認方法を次の表に示します。

ドキュメントの種類	データソース接続の設定の確認方法
Crystal レポート	CMC で Crystal レポートを選択し、 管理 > デフォルト設定 を選択します。 デフォルト設定 ダイアログボックスで、ナビゲーションパネルの データベース設定 をクリックします。
Web Intelligence ドキュメント	CMC で Web Intelligence ドキュメントを選択し、 管理 > デフォルト設定 を選択します。 デフォルト設定 ダイアログボックスで、ナビゲーションパネルの レポートユニバース をクリックします。

場合によっては、デザイナーで動的コンテンツドキュメントを開いてデータベースソース接続を設定し、CMS リポジトリにファイルを再エクスポートして、前のコピーを上書きする必要がある場合があります。動的コンテンツドキュメントのデータソース接続の設定については、デザイナーのマニュアルを参照してください。

不必要なデータの最新表示をしない

動的コンテンツドキュメントのデータを最新表示する必要がない場合は、[ソースドキュメント](#)セクションで、そのドキュメントの[実行時に最新表示](#)チェックボックスをオフにします。

10.4.2 動的受信者ソースの使用に関する推奨事項

動的受信者ソースは受信者 ID 列に従って並べ替える。

一般に、動的受信者ソースは[受信者 ID]列に従って並べ替える必要があります。特に、高ボリュームのパブリケーションを実行している場合、または[受信者のバッチごとのデータベースフェッチ]を選択している場合は、複数のパーソナライゼーション値を持つ受信者への配信数を低減できるため、この並べ替えは重要です。

Crystal レポートの動的受信者ソースの場合は、データベースの設定情報が正しいことを確認する。

CMC で動的受信者ソースを選択し、**管理 > デフォルト設定** を選択し、次の設定を確認します。

- [データベース設定] で、データベースログオン情報が正しく設定されており、[レポート実行時と同じデータベースログオン情報を使用する] が選択されている。
- [パラメータ] で、すべてのパラメータに値が指定されており、パラメータのすべての [表示時にプロンプトを表示] チェックボックスがオフになっている。

Crystal レポートの動的受信者ソースを使用する場合は、**RAS** が正しく設定されていることを管理者に確認する。

RAS (Report Application Server) は、少なくとも動的受信者ソースの受信者と同数のデータベースレコードを読み込むよう設定する必要があります。たとえば、100,000 人の受信者のデータを持つ動的受信者ソースを処理するには、100,000 件以上のデータベースレコードを読み込むよう RAS を設定する必要があります。

10.4.3 電子メールのパブリケーションインスタンスの送受信に関する推奨事項

可能であれば、電子メールパブリケーションインスタンスに埋め込まれたコンテンツを **Outlook 2003** で表示する。

可能であれば、電子メールパブリケーションインスタンスに埋め込まれたコンテンツを Outlook 2003 で表示する。電子メールパブリケーションインスタンスに埋め込まれたコンテンツを Outlook 2007 や、Hotmail、Gmail などの Web 電子メールアカウントで表示すると、形式上の問題が発生する場合があります。

Destination Job Server で電子メールが正しく設定されているか管理者に確認する。

Destination Job Server で電子メールが正しく設定されていることを確認する必要があります。電子メールで送信するパブリケーションは、Adaptive Job Server の出力先が正しく設定されていないことが原因で失敗する場合があります。詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

11 インスタンスの管理

11.1 オブジェクトの履歴のインスタンスの表示

インスタンスとは、レポートの単一のパブリケーションです。実行されるスケジュール済みの各オブジェクトに対し、BI プラットフォームはオブジェクトのインスタンスの履歴をデフォルトの Enterprise サーバに保存します。[\[履歴\]](#) ページで、オブジェクトの履歴インスタンスを表示できます。

[\[履歴\]](#) ダイアログボックスでは、最新のインスタンスを一覧の先頭にして、オブジェクトのインスタンスが時系列で表示されます。

アクセスするには、コンテンツオブジェクトの *** (その他) を選択し、[\[履歴\]](#) オプションを選択します。

コンテンツオブジェクトのタイプに応じて、以下のヘッダが [\[履歴\]](#) ページに表示されます。

- [タイトル](#)
- [ステータス](#)
- [インスタンスの日時](#)
- [作成者](#)
- [ロケール](#)
- [パラメータ](#)

11.2 特定の日付のすべての利用可能なインスタンスの表示

BI ラウンチパッドの [\[インスタンス\]](#) タイルでは、(開始日と終了日を使用して指定した) 時間間隔に利用可能なすべてのインスタンスを表示することができます。

利用可能なインスタンスを表示するには、以下のステップを実行します。

1. BI ラウンチパッドのホームページで、[\[インスタンス\]](#) タイルを選択します。

[\[インスタンス\]](#) タイルのビューの例を次に示します (デフォルトでは、今日のカレンダー日付の利用可能なインスタンスが表示されます)。

SAP Welcome: Administrator Instances

Schedule Instances

Instance Time: 26.03.2020 - 27.03.2020 Status: Type: Title: Go

Instances (23)

Title	Type	Status	Instance Time	Scheduled By	Subscription
Comparative Income Statement	Crystal Reports	Success	Mar 26, 2020 9:57 PM	Administrator	...
Comparative Income Statement	Crystal Reports	Success	Mar 26, 2020 8:57 PM	Administrator	...
Comparative Income Statement	Crystal Reports	Success	Mar 26, 2020 7:57 PM	Administrator	...
Comparative Income Statement	Crystal Reports	Success	Mar 26, 2020 6:57 PM	Administrator	...
Comparative Income Statement	Crystal Reports	Success	Mar 26, 2020 5:56 PM	Administrator	...
Comparative Income Statement	Crystal Reports	Success	Mar 26, 2020 4:56 PM	Administrator	...
Comparative Income Statement	Crystal Reports	Success	Mar 26, 2020 3:56 PM	Administrator	...
Comparative Income Statement	Crystal Reports	Success	Mar 26, 2020 2:56 PM	Administrator	...
Comparative Income Statement	Crystal Reports	Success	Mar 26, 2020 1:56 PM	Administrator	...
Comparative Income Statement	Crystal Reports	Success	Mar 26, 2020 12:56 PM	Administrator	...
Comparative Income Statement	Crystal Reports	Success	Mar 26, 2020 11:56 AM	Administrator	...
Comparative Income Statement	Crystal Reports	Success	Mar 26, 2020 10:57 AM	Administrator	...
Comparative Income Statement	Crystal Reports	Success	Mar 26, 2020 9:57 AM	Administrator	...
Comparative Income Statement	Crystal Reports	Success	Mar 26, 2020 8:57 AM	Administrator	...
Comparative Income Statement	Crystal Reports	Success	Mar 26, 2020 7:57 AM	Administrator	...
Comparative Income Statement	Crystal Reports	Success	Mar 26, 2020 6:57 AM	Administrator	...
Comparative Income Statement	Crystal Reports	Success	Mar 26, 2020 5:56 AM	Administrator	...
Comparative Income Statement	Crystal Reports	Success	Mar 26, 2020 4:56 AM	Administrator	...

- 日付範囲(時間間隔)で利用可能なインスタンスを表示するには、[インスタンスの日時]のカレンダウィジェットで、開始日と終了日を選択します。

→ ヒント

カレンダウィジェットでは、2つの日付を連続して選択することのみが可能です。選択した日付が青色に代わる(強調表示される)と、それは有効化されています。

- オプション: インスタンスは、インスタンスの以下のステータスに基づいてフィルタできます。
 - 成功
 - 一部成功
 - 失敗
 - 実行中
 - 定期
 - 一時停止
 - 期限切れ
- オプション: また、レポートタイプに基づいてインスタンスをフィルタすることもできます。

インスタンスのフィルタには、以下のレポートタイプを使用することができます。

- パブリケーション
 - 分析ワークブック
 - Crystal Reports
 - Lumira ドキュメント
 - Web Intelligence
 - Adobe Acrobat
 - Microsoft Excel
 - テキスト(CSV、CSV および HTML アーカイブ)
- オプション: インスタンスタイトルに基づいてインスタンスを検索することもできます。
 - [移動]をクリックします。

選択した日付範囲に利用可能なインスタンス(スケジュール)がリストされます。

11.3 インスタンスの使用

BI ランチパッドの[スケジュール]および[履歴]ページで、インスタンスを1つ以上選択し、そのインスタンスのステータスに基づいてアクションを実行できます。

単一のインスタンスを選択した場合は、そのステータスに応じて以下のアクションを実行できます。

- 表示
- 詳細
- 削除
- 直ちに実行
- 送信
- 一時停止

複数のインスタンスを選択した場合は、それらのステータスに応じて以下のアクションを実行できます。

- 直ちに実行
- 一時停止
- 送信
- 詳細
- 削除

オブジェクトパッケージの1つ以上のコンポーネントを選択すると、そのステータスに応じて以下のアクションを実行できます。

- 最新のインスタンスを表示
- 詳細
- 削除
- 直ちに実行
- 送信
- 一時停止

11.3.1 スケジュールタブを使用したインスタンスの操作

[スケジュール]タブから、単一または複数のインスタンスを選択して、そのインスタンスのステータスに基づいて指定したアクションを実行することができます。

1. BI ランチパッドにログインします。
2. [スケジュール] タイルを選択します。
3. スケジュールされた1つまたは複数のインスタンスを選択し、^{***} (その他) を選択して実行するアクションを選択します。

11.3.2 履歴ページによるインスタンスの操作

[履歴] ページで、あるオブジェクトの単一または複数のインスタンスを選択することができます。

オブジェクトのインスタンスを1つ以上選択し、*** (その他) を選択して実行するアクションを選択します。

選択した個別インスタンスに対して以下のアクションを実行することができます。

- 表示
- 直ちに実行
- 再スケジュール
- 詳細
- 削除

選択した複数インスタンスに対しては、以下のアクションを使用することができます。

- 直ちに実行
- 削除

11.3.3 失敗したインスタンスの詳細なエラーメッセージ

11.3.3.1 詳細ペインによるエラーメッセージの表示

それぞれのオブジェクトにアクセスすることで、任意のレポートの詳細なエラーメッセージを確認できます。

1. [フォルダ] ページでオブジェクトを選択します。
2. *** (その他) をクリックして、[履歴] を選択します。
3. オブジェクトのインスタンスを選択して、*** (その他) をクリックし、[詳細] を選択します。

失敗したインスタンスに関する詳細なエラーメッセージが表示されます。

11.3.3.2 スケジュールタブでのエラーメッセージの表示

インスタンスの詳細なエラーメッセージを [インスタンス] ページで確認することができます。

1. BI ラウンチパッドにログインします。
2. [インスタンス] ページで、[インスタンスの日時] を指定してインスタンスを一覧表示します。
3. スケジュールされた任意のインスタンスを選択し、*** (その他) を選択して [詳細] を選択します。

失敗したインスタンスに関する詳細なエラーメッセージが表示されます

12 アラート

12.1 コンセプトのアラート

アラートは、変更についてユーザに通知したり、イベントがトリガされたときにユーザおよび管理者に通知する機能です。アラートを使用して、例外に基づいてオブジェクトとイベントを管理することができます。

アラートの購読

BI プラットフォームでは、ユーザおよび管理者は、BI ラUNCHパッドまたはセントラル管理コンソール (CMC) でアラートを購読できます。

アラートの有効化

レポート作成者は、新しいレポートを作成したときにアラートを有効化します。イベントがトリガされると、通知が購読者の電子メールアドレスまたは BI システム出力先 (BI ラUNCHパッドアカウントなど) に送信されます。

アラート通知の表示

プラットフォームでは、ユーザおよび管理者は BI ラUNCHパッドまたは電子メールで通知を表示します。

アラートのタイトル、メッセージ、トリガ時刻などのアラート情報を表示するには、アラートを右クリックして、[\[その他を表示\]](#)を選択します。

アラートの管理

コンテンツ管理者とパワーユーザは、BI ラUNCHパッドまたは CMC でアラートを管理します。

システム管理者は、CMC でアラートを管理し、アクセス権限を割り当ててユーザアクセスを制御します。

例: アラートおよび **Crystal** レポート

たとえば、Julie は自動車保険会社で働いており、Crystal レポートを使用して提出された保険金請求を監視しています。Julie は日単位の保険金請求数アラートを購読しており、アラート通知を電子メールで受け取ることを選択

しました。1週間後、自動車保険の保険金請求数が10,000件に達し、アラートの条件が満たされて、イベントがトリガされました。Julieは電子メール通知を受け取り、自動車保険の保険金請求数が大幅に増加していることに気がきます。Julieはマネージャに通知し、安全運転を呼びかけるキャンペーンの開始を推奨します。

12.1.1 アラートソース

モニタリングでは、アラートを使用して、BIプラットフォームの全体的な状態の変化をシステム管理者に通知します。

モニタリングプローブに基づくアラートは、CMCの[イベント](#)領域のMonitoring Eventsフォルダにあります。モニタリングの詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

Information Steward および Event Insight などのアプリケーションで作成されたオブジェクトにも、アラートが使用されます。詳細については、アプリケーションのドキュメントを参照してください。

アラートをサポートするオブジェクト	説明
Crystal レポート	<p>Crystal レポートには、複数のアラートを含めることができます。アラートを含むレポートをリポジトリに追加すると、BIプラットフォームはレポートの各アラートに対応するイベントオブジェクトを自動的に作成します。イベントオブジェクトは、セントラル管理コンソール(CMC)のイベントの下のCrystal Reports Events フォルダにあります。コンテンツ検索を使用してアラートを検索できます。</p> <p>プラットフォームで作成されたレポートのみがアラートをサポートし、レポートが追加された場合にユーザがアラート通知を購読することができます。購読するには、レポートを見つけ、レポートオブジェクトで購読タスクを実行します。</p>
イベント (ファイルベース、スケジュールベース、カスタム)	任意のイベントに対して、アラートを有効化することができます。

12.1.2 アラートと Crystal レポートアラート通知の相違点

旧バージョンの BI プラットフォームでは、レポートのスケジュール時に Crystal レポートのアラート通知を設定することができました。プラットフォームは、SAP Crystal Reports で作成されたレポートについては、この機能を引き続きサポートします。

主な相違点	Crystal レポートにおけるアラート通知	BI ラウンチパッドにおけるアラート
サポートされるオブジェクト	Crystal Reports で作成されたレポート	<ul style="list-style-type: none">Crystal Reports のみで作成されたレポートイベントモニタリングプローブInformation Steward アラートEvent Insight アラート
サポートされる送信先	電子メール	<ul style="list-style-type: none">BI ラウンチパッドの [マイアラート]電子メール
用法	<p>アラートは Crystal レポートをスケジュールするときに設定します。</p> <p>受信者には Enterprise ユーザまたは動的ユーザを指定することができます。すべての受信者の電子メールアドレスを手動で入力する必要があります。</p>	<p>アラートソースからのアラート通知を購読し、必要に応じて購読を変更することができます。</p> <p>受信者には Enterprise ユーザまたは動的ユーザを指定することができます。動的受信者の場合は、電子メールアドレスを手動で入力する必要があります。</p>

12.1.3 アラートワークフロー

Crystal レポートのアラートワークフロー[crystal レポートノアラートワークフロー]

- レポート作成者が、SAP Crystal Reports for Enterprise においてアラートを含むレポートを作成します。
- レポート作成者またはコンテンツ管理者が、セントラル管理コンソール (CMC) の [フォルダ](#) または [個人用フォルダ](#) エリアのフォルダに Crystal レポートを追加します。レポートが追加されると、BI プラットフォームにより、レポートのアラートに基づいてレポートイベントオブジェクトが自動的に作成されます。
- ユーザが CMC または BI ラウンチパッドにログオンし、Crystal レポートを検索して、アラートを購読します。
- レポート作成者またはコンテンツ管理者が、Crystal レポートの実行をスケジュールします。
アラート条件が満たされた場合、アラートがトリガされ、購読設定に基づいてユーザに通知が送信されます。

イベントのアラートワークフロー

1. コンテンツ管理者がCMCでイベントを作成し、新規イベントに対してアラートを有効化します。
2. ユーザがCMCの**イベント**エリアでアラートを確認するか、ラUNCHパッドでアラートを検索して、アラートを購読します。
3. イベントが発生し、アラートがトリガされます。
4. イベントが発生したことを示す通知が、購読設定に基づいてユーザに送信されます。

12.1.4 アラートに必要なアクセス権

アラートワークフローにおけるロールと責任によって、必要なアクセス権が異なる可能性があります。

ドキュメントアラート権限

ロール	タスク	必要な権限
ユーザ	ドキュメントアラートの購読	<ul style="list-style-type: none">ドキュメントに対する表示権限関連イベントに対する表示権限ユーザ自身のアカウントに対する購読権限 <p>アラート通知に含まれるドキュメントリンクを使用してインスタンスを表示する場合、ドキュメントに対するインスタンスの表示権限も必要です。</p>
ユーザ	ドキュメントアラートの購読解除	<ul style="list-style-type: none">関連イベントに対する表示権限ユーザ自身のアカウントに対する購読権限
ユーザ	ドキュメントアラートに関する通知の受信	<ul style="list-style-type: none">関連イベントに対する表示権限ドキュメントに対する表示権限
コンテンツ管理者	ドキュメントアラートの送信先およびパラメータ設定の管理	<ul style="list-style-type: none">ドキュメントに対する編集権限イベントに対する編集権限
コンテンツ管理者	ドキュメントのアラート設定の管理	<ul style="list-style-type: none">ドキュメントに対する表示権限および編集権限関連イベントに対する表示権限および編集権限購読者として追加されるユーザまたはグループに対する表示権限および購買権限 <p>購読者のリストにユーザグループを追加する場合は、ユーザグループオブジェクトに対する表示権限および購読権限が必要です。グループ内の個別ユーザに対する表示権限および購読権限では不十分です。</p>
コンテンツ管理者	ユーザのドキュメントアラートの購読解除	<ul style="list-style-type: none">ドキュメントに対する表示権限関連イベントに対する表示権限ユーザに対する表示権限および購買権限

ロール	タスク	必要な権限
コンテンツ管理者	ドキュメントアラートのトリガ	<ul style="list-style-type: none"> ドキュメントに対する表示権限およびスケジュール権限 関連イベントに対する表示権限およびトリガ権限

イベントアラート権限

ロール	タスク	必要な権限
ユーザ	イベントアラートの購読	<ul style="list-style-type: none"> イベントに対する表示権限 ユーザ自身のアカウントに対する購読権限。デフォルトで、各ユーザは自分のアカウントに対する購読権限が付与されています。
ユーザ	イベントアラートの購読解除	<ul style="list-style-type: none"> イベントに対する表示権限 ユーザ自身のアカウントに対する購読権限。デフォルトで、各ユーザは自分のアカウントに対する購読権限が付与されています。
コンテンツ管理者	イベントのアラート設定の管理	<ul style="list-style-type: none"> イベントに対する表示権限および編集権限 購読者として追加されるユーザまたはグループに対する表示権限および購買権限 <p>購読者のリストにユーザグループを追加する場合は、ユーザグループオブジェクトに対する表示権限および購読権限が必要です。グループ内の個別ユーザに対する表示権限および購読権限では不十分です。</p>
コンテンツ管理者	イベントのトリガ	イベントに対する表示権限およびトリガ権限

アラート通知権限

ロール	タスク	必要な権限
ユーザ	アラート通知の受信	関連イベントに対する表示権限
ユーザ	アラート通知の既読または未読への設定	<ul style="list-style-type: none"> アラート通知に対する表示権限 ユーザアカウントに対する購読権限
ユーザ	アラート通知の再読	アラート通知に対する表示権限
ユーザ	BI 起動パッドにおけるアラート通知の削除	<ul style="list-style-type: none"> アラート通知に対する表示権限 ユーザアカウントに対する購読権限

12.1.5 ソースオブジェクトの警告

アラートソースは、オブジェクトタイプによって表示方法が異なります。

次の表は、アラートソースの格納場所をまとめたものです。

オブジェクトタイプ (アラートソース)	オブジェクトの検索方法
Crystal レポート	<p>Crystal レポートは、個人用フォルダまたはパブリックフォルダに格納されます。</p> <ul style="list-style-type: none">個人用フォルダにある Crystal レポートを表示するには、ホームページで [フォルダ] タイルをクリックし、[マイフォルダ] をクリックします。次に、個人用フォルダを参照し、Crystal レポートを検索します。パブリックフォルダにある Crystal レポートを表示するには、ホームページで [フォルダ] タイルをクリックし、[パブリックフォルダ] をクリックします。次に、フォルダを参照し、Crystal レポートを検索します。
イベント (ファイルベース、スケジュールベース、カスタム)	アラートが有効になっているイベントの名前を検索します。

アラートを購読すると、すばやく表示することができます。ホームページで [\[フォルダ\]](#) タブをクリックし、[\[購読済アラート\]](#) フォルダをクリックします。

12.1.6 アラート通知




アラート通知は、BI ラウンチパッドの送信先または購読者の電子メールアドレスに送信することができます。

アラート通知は、ラウンチパッドにおいて次の 2 とおりの方法で表示することができます。

- ホームページで [\[BI 受信ボックス\]](#) をクリックし、[\[アラート\]](#) をクリックしてすべてのアラート通知を表示します。
- ホームページで [\[フォルダ\]](#) をクリックし、[\[購読済アラート\]](#) をクリックして、購読済の通知のみを表示します。

いずれの場合も、通知をクリックすると、アラートメッセージ、およびアラートがトリガされた日時などの情報が表示されます。


12.2 アラートの購読と購読解除

- ホームページで [\[フォルダ\]](#) をクリックし、購読するアラートを検索します。
-    [購読](#) をクリックします。

- 購読解除するには、▶  ▶ **購読解除** ▶ をクリックします。

購読しているアラートは、**[購読済アラート]** フォルダで確認することができます。

12.3 他のユーザのアラートの購読

- ホームページで **[フォルダ]** をクリックし、編集するアラートを検索します。
- ▶  ▶ **購読者の管理** ▶ をクリックします。
- [購読者の管理]** ダイアログで、**[受信者一覧]** をクリックします。
- 追加** をクリックします。
- 専用のチェックボックスを使用して、追加ユーザまたはユーザグループを選択し、**[デフォルトの説明の設定]** をクリックします。
- 出力先を選択します。

① 注記

[電子メール] を出力先として選択するには、選択したユーザにそれぞれのアカウントに関連付けられた電子メールが存在することを確認します。

- 購読者の出力先の設定を編集するには、以下のようになります。
 - ユーザを選択し、**[編集]** をクリックします。
 - 出力先を選択します。


Adaptive Job Server で有効化および設定されている電子メール送信先のみを使用できます。電子メール送信先が設定されていない場合、**[マイアラート]** チェックボックスのみが表示されます。

- [保存して閉じる]** をクリックします。
- [閉じる]** をクリックします。

12.4 アラートからのユーザの除外

グループ内のほとんどのユーザをアラートの購読者として指定するが、一部のユーザを指定しない場合は、アラートからユーザを除外することができます。まず、グループ全体を購読者として指定してから、アラート通知を受け取る必要がないユーザを除外します。




[除外する] リストは、ユーザのその他すべての購読設定より優先されます。

- ホームページで **[フォルダ]** をクリックし、編集するアラートを検索します。
- ▶  ▶ **購読者の管理** ▶ をクリックします。
- [購読者の管理]** ダイアログで、**[除外リスト]** をクリックします。
- [除外追加]** 一覧をクリックします。
- 除外するユーザを選択するには、専用のチェックボックスを使用します。
- [OK]** をクリックします。

7. [閉じる] をクリックします。

12.5 アラートソースのカスタムアラート設定の管理

通常、通知はアラートに設定されたデフォルトの送信先設定を使用して送信されます。

1. ホームページで [フォルダ] をクリックし、編集するアラートを検索します。
2.    > **アラート設定の管理** > をクリックします。
3. [アラート設定の管理] ダイアログで [マイアラートの有効化] を選択し、BI ラウンチパッドを出力先として選択します。
アラート通知は、購読者の BI ラウンチパッドアカウントに送信されます。BI ラウンチパッドで、購読者は、[フォルダ] タイルの [購読済アラート] フォルダでアラートを表示できます。
4. 送信先として電子メールを選択するには、[電子メールを有効にする] チェックボックスをオンにします。
5. [デフォルト電子メール設定を使用] を選択して、電子メールのデフォルトアラート設定を使用するか、[カスタム電子メール設定を使用] を選択して、以下のようにフィールドを入力します。
 - a. [差出人] フィールドで、差出人の電子メールアドレスを入力するか、[プレースホルダの追加] 一覧から電子メールアドレスの変数を選択します。
 - b. [宛先] フィールドで、アラート通知を送信する電子メールアドレスをそれぞれ入力するか、[プレースホルダの追加] 一覧から電子メールアドレスの変数を選択します。
 - c. [CC] フィールドで、アラート通知を送信する電子メールアドレスをそれぞれ入力するか、[プレースホルダの追加] 一覧から電子メールアドレスの変数を選択します。
 - d. [BCC] フィールドで、アラート通知を送信する非公開の各受信者の電子メールアドレスを入力するか、[プレースホルダの追加] 一覧から電子メールアドレスの変数を選択します。
 - e. [件名] フィールドで、アラート通知の件名を入力するか、[プレースホルダの追加] 一覧から件名の変数を選択します。
 - f. [メッセージ] フィールドで、アラート通知の本文のメッセージを入力するか、[プレースホルダの追加] 一覧からメッセージの変数を選択します。
 - g. アラート通知に添付ファイルを追加する場合は、[添付ファイルの追加] チェックボックスをオンにします。
 - h. [ファイル名] で、[自動で生成された名前を使用する] または [指定の名前を使用する] を選択します。指定の名前を使用するを選択した場合、ファイル名を入力するか、リストのプレースホルダを選択します。
 - i. ファイル名に自動的にファイル拡張子を追加する場合は、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスをオンにします。
ファイル名にファイル拡張子を追加しない場合は、ドキュメントを開くことができません。
6. **保存して閉じる** をクリックします。

13 削除されたアイテムの管理

リサイクルビンとは、BI ラウンチパッド内のアプリケーションです。ユーザが BOE システムからアイテムを削除すると、そのアイテムはリサイクルビンに移されて、リサイクルビンに空にするまで一時的に保存されます。これにより、ユーザは誤って削除したレポート/フォルダを取り戻して元の場所に復元することができます。

リサイクルビンアプリケーションを使用して、ユーザは以下を行うことができます。

- 削除されたアイテム (レポートやフォルダなど) の復元を開始する。
- アイテムをリサイクルビンから完全に削除する。

リサイクルビンには、[削除済み] ドキュメントの [タイトル]、[タイプ]、削除の日付および時刻が表示されます。

13.1 アイテムをごみ箱から復元する

リサイクルビンには削除されたアイテムの一覧が表示されます。アイテムをリサイクルビンから復元するには、以下の手順を実行します。

1. BI ラウンチパッドにログインします。
2. [ホーム] ページで、[リサイクルビン] タイルを選択します。
3. 復元するアイテムに対応するチェックボックスを選択して、*** (その他) を選択します。
4. ドロップダウンメニューから [復元] を選択します。

復元されたアイテムの場所を参照すると、復元操作を確認できます。

① 注記

- アイテムをリサイクルビンから復元するときに、復元場所に同名の別のアイテムがすでに存在する場合、次の名前がアイテムが復元場所に保存されます。"<item name> restored(1, 2, ...)"
- リサイクルビン内のアイテムの親フォルダが削除された場合、アイテムの復元時にその親フォルダが再作成されます。ただし、この親フォルダには、リサイクルビンから復元されたアイテムのみが含まれます。
- リサイクルビンでアイテムを開いたり、アイテムに移動したりすることはできません。

これで、リサイクルビンからアイテムが正常に復元されました。

13.2 アイテムのリサイクルビンからの完全な削除

BI ラウンチパッドのユーザには、ごみ箱からアイテムを完全に削除する、またはごみ箱を空にする権限があります。

リサイクルビンからアイテムを完全に削除するには、以下の手順を実行します。

1. BI ラウンチパッドにログオンします。
2. [\[ホーム\]](#) ページで、[\[リサイクルビン\]](#) タイルを選択します。
3. 削除するアイテムに対応するチェックボックスを選択して、[***](#) (その他) を選択します。
4. ドロップダウンメニューから [\[削除\]](#) を選択します。

警告メッセージが表示されます。

5. [\[OK\]](#) を選択します。

これで、リサイクルビンからアイテムが正常に削除されました。

14 BI ワークスペース

BI ワークスペースでは、単一のビューでさまざまな BI プラットフォームデータソースの編成および表示を行います。ユーザの組織の目標を簡単に確認し、組織のパフォーマンスと成長をモニタすることができます。BI ワークスペースを使用すると、複雑なデータの分析や管理を効果的に行い、組織全体で情報を共有できます。

独自のレポートやカテゴリのポートフォリオを構築したり、1 つ以上の BI ワークスペースを作成し、必要に応じて表示できます。

BI ワークスペースの詳細については、**BI ワークスペースユーザガイド**を参照してください。

15 BI ラUNCHパッドにおけるアプリケーションの処理

BI ラUNCHパッドは、リポジトリと以下の SAP Business Objects アプリケーションの間の統合ポイントです。

- [Analysis, edition for OLAP](#)
- [BEx Web アプリケーション](#)
- [BI ワークスペース](#)
- [Crystal Reports for Enterprise](#)
- [Web Intelligence](#)
- [SAP Analytics Cloud](#)

SAP Analytics Cloud は、ユーザ、情報、およびアイデアをつなぐ 1 つの単純なクラウドソリューションであり、迅速かつ確実な意思決定を可能にします。

機械学習テクノロジーと埋め込まれた人工知能は、深い洞察を見出し、重要な情報へのアクセスを簡略化して、情報に基づく意思決定を実現する際に役立ちます。これにより、IT によって管理された信頼できるデータを使用して、主要な事業領域に基づく動的なビジュアルストーリーを作成することができます。ビジュアライゼーションと対話し、より詳細な情報をドリルダウンして、ビジネスクエスチョンに即座に回答することで、より良い意思決定を行うこともできます。

また、データと計画ソリューションとシームレスに統合され、分析ランドスケープが簡素化されます。複数のさまざまなソースのデータに接続し、情報を視覚的に分析して、ビジネス全体像を把握したり、十分な情報に基づいて意思決定を行ったりすることができます。

計画データのバージョンを作成および変更し、ビジネスの将来を見据えた予算作成、予測、および分析を改善することができます。

ラUNCHパッドでは、アプリケーションを起動し、関連するオブジェクトを作成、表示および編集して、変更または新しいオブジェクトを直接リポジトリに保存することができます。BI ラUNCHパッドで使用できるアプリケーションと実行できるタスクは、ユーザのアクセス権限によって決まります。アクセス権限はシステム管理者によって割り当てられます。

15.1 BI ラUNCHパッドにおけるアプリケーションの開始

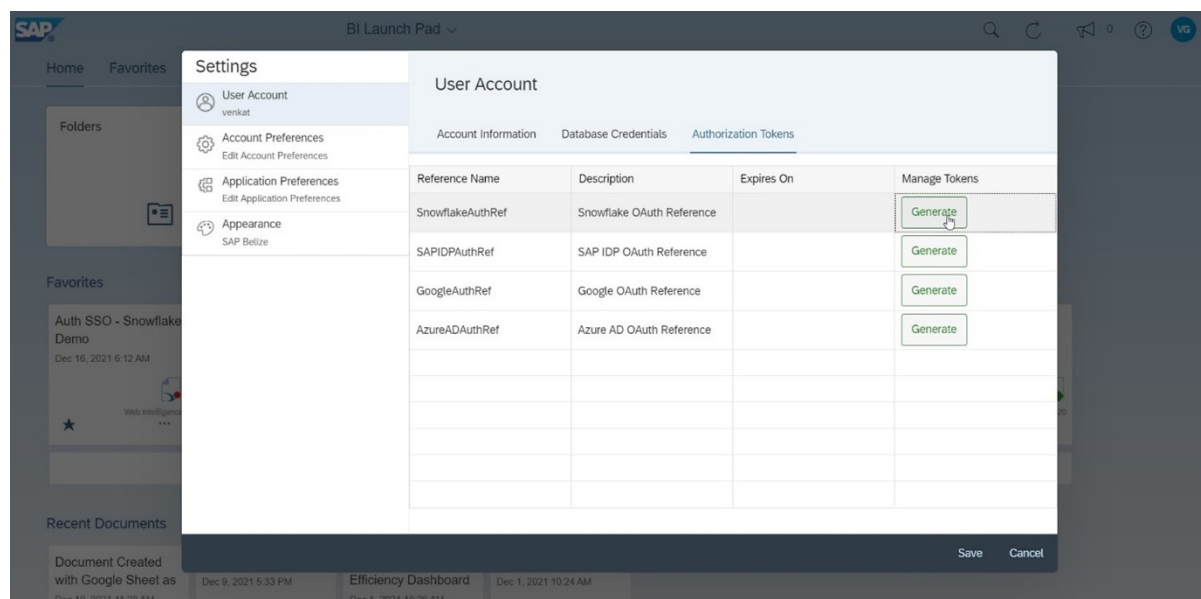
BI ラUNCHパッドの [\[ホーム\]](#) ページで、アプリケーションを開始できます。

[\[ホーム\]](#) ページで、[\[アプリケーション\]](#) タブをクリックし、開くアプリケーションを選択します。選択したアプリケーションが新しいウィンドウで開きます。

15.2 認可トークン

管理者は、BI ラUNCHパッドに一覧表示されている認可サーバを作成します。

BI ユーザは、BI ラウンチパッドで、[設定] の [ユーザアカウント] セクションの [認可トークン] タブから認可サーバを使用して自分自身を承認することができます。



また、すでに確立されている権限 (リフレッシュトークン) を削除するためのプロビジョニングも提供されています。

権限がある場合は、トークンの有効期間も表示されます。有効期限が切れた場合は、認可サーバに対して再認証する必要があります。

詳細については、[ブログ](#) を参照してください。

15.3 Crystal Reports での作業

15.3.1 Crystal Reports の表示

Crystal レポートをクリックすると、そのレポートがビューアに表示されます。

使用するビューアの種類によって、実行できるタスクが異なります。

15.3.1.1 Crystal レポートビューア

Crystal レポートビューアを使用すると、レポートの表示、ページ間の移動、データの最新表示、またドリルダウンによるチャートおよび集計データから得られる詳細情報の確認、パラメータの選択、印刷、およびデータのエクスポートが可能です。

Crystal レポートビューアの一部の機能は、管理者によって無効にされている場合があります。詳細については、管理者に問い合わせてください。

BI 4.3 SP03 以降、BI ラウンチパッドに新しい Fiori ビューアが追加されています。BI ラウンチパッド UI との整合性が向上し、指でページの移動を行うことができ、BI ラウンチパッドのテーマが完全に反映されています。また、幅に合わせるや全画面など、その他のさまざまな拡張も用意されています。BI ラウンチパッドのユーザは、ユーザ設定アイコンを選択し、**設定** > **アプリケーション基本設定** > **Crystal Reports** に移動して、Fiori ビューア (UI5) とクラシック Web ビューア (DHTML) を切り替えることができます。

① 注記

BI プラットフォームの Fiori ビューアは、Crystal Reports 2020 レポート専用です。Crystal Reports for Enterprise レポートをクラシック Web ビューアで開くことも可能です。









また、スタンドアロン Crystal レポートビューアでは、BI プラットフォームにログオンしていない場合でもレポートを表示することができます。



15.3.1.1.1 クラシック Web ビューア

このビューアを使用すると、レポートの表示、最新表示、印刷、パラメータの編集、およびさまざまな形式へのエクスポートを実行できます。

この Web ビューアには、プラグインをダウンロードせずにブラウザでアクセスできます。これは、**パラメータパネル**へのアクセスまたは SAP Crystal Reports for Enterprise レポートの表示が可能な唯一の Crystal レポートビューアです。

15.3.1.1.1.1 クラシック Web ビューアツールバー

ツールバーのオプション	説明
[ファイル] メニュー	このメニューを使用して、Crystal レポートを BI リポジトリから開いたり、レポートを受信者に送信したり、お気に入りフォルダにショートカットを作成したりすることができます。また、レポートのスケジュールとレポートの履歴を表示も行うことができます。
  および 	 をクリックすると Crystal レポート内の前のページに戻り、  をクリックすると次のページに進みます。
	Crystal レポートを印刷する場合にクリックします。
	Crystal レポートを最新表示し、レポートのデータソースから最新のデータを取得する場合にクリックします。
	Crystal レポートをコンピュータまたはネットワーク上の場所にエクスポートする場合にクリックします。

	 をクリックすると Crystal レポート内の前のページに移動し、  をクリックすると次のページに移動します。リストで 最初のページ へおよび 最後のページ へを選択すると、レポート内の最初のページまたは最後のページに移動します。ボックスにページ番号を入力すると、そのページに移動します。
	リストでパーセントを選択し、そのパーセントで Crystal レポート内のテキストを拡大または縮小します。
	クリックして、固定パネル行を表示または非表示にします。水平線の上および垂直線の左にあるレポートコンテンツが固定されます。下または右にスクロールして、固定コンテンツを他のコンテンツと比較します。固定パネル行をドラッグし、固定するレポートコンテンツの量を決定します。
	Crystal レポート内のデータ間を移動するときに使用するグループツリーを表示する場合にクリックします。
	パラメータパネルの表示または非表示を切り替える場合にクリックします。パラメータパネルはレポート内のデータを変更したり、データの表示方法を設定したりする場合に使用します。パラメータパネルには、Web ビューアからのみアクセスできます。


15.3.1.1.2 Fiori ビューア

Crystal Reports Fiori ビューアを使用すると、レポートの**表示**、**最新表示**、**印刷**、パラメータの**編集**、およびさまざまな形式へのレポートのエクスポートを実行できます。

この Fiori ビューアは、BI ラUNCHパッド UI との調整が改善され、指を使ってページを移動したり、BI ラUNCHパッドのテーマを完全に考慮したり、[ページ幅を基準に表示] や [全画面表示] などのさまざまな拡張が提供されます。

① 注記

Fiori ビューアは、Crystal Reports 2020 レポート専用です。Crystal Reports for Enterprise レポートは、クラシック Web ビューアで開かれます。

- Fiori ビューアの使用に関するヒントおよび既知の制限の詳細については、[SAP ノート 3240950](#) を参照してください。

15.3.1.1.2.1 Fiori ビューアのツールバー

The screenshot shows the SAP Fiori Drilldown tool bar at the top with various navigation and action icons. Below the tool bar, the breadcrumb path is 'Drilldown - with Parameter > Bermuda > Pembroke Parish'. The main content area displays a table titled 'Drilldown' with the following data:

Customer Name	Total Order Amount	Number of Orders	Average Order Amount
Royal Cycle	\$5,879.70	1	\$5,879.70
Pembroke Parish	\$5,879.70	1	\$5,879.70
Bermuda	\$5,879.70	1	\$5,879.70

At the bottom of the report, there is a copyright notice: '© SAP® BusinessObjects™. All rights reserved.' and the SAP logo.

ツールバーのオプション	説明
ドリルダウン履歴のナビゲーション	これらのボタンを使用して、以前のドリルダウンステータス (存在する場合) で前後に移動します。
印刷	Crystal レポートを印刷する場合にクリックします。
最新表示	Crystal レポートを最新表示し、レポートのデータソースから最新のデータを取得する場合にクリックします。
エクスポート	Crystal レポートを指定した形式でコンピュータまたはネットワーク上の場所にエクスポートする場合にクリックします。
お気に入り	現在のレポートをお気に入りに設定する、またはお気に入りから削除する場合にクリックします。
ページナビゲーション	ページナビゲーションボタンを使用して、次のページ、前のページ、最後のページ、または最初のページに移動します。または、ボックスにページ番号を入力して、そのページに直接移動します。
ズーム	リストでパーセントを選択し、そのパーセントで Crystal レポート内のテキストを拡大または縮小します。
ページ幅を基準に表示	現在のページ幅に合わせてレポートコンテンツをすばやく拡大します。
ページに合わせる	現在のページに合わせてレポートコンテンツをすばやく拡大します (幅と高さ)。
全画面表示	全画面モードを開始します。
以下の 3 つのボタンは、ツールバーの右側にあります。	
検索パネル	現在の Crystal レポート内で検索できる検索パネルの表示/非表示を切り替えます。

ツールバーのオプション	説明
プロンプトパネル	プロンプトパネルの表示/非表示を切り替えて、レポートに適用されたパラメータ値を表示し、必要に応じて変更することができます。
グループツリーパネル	Crystal レポートのデータを階層的にナビゲートできるグループツリーパネルの表示/非表示を切り替えます。

15.3.1.1.3 Crystal Reports Viewer 2020

SAP Crystal Reports viewer 2020 を使用して、BI プラットフォームに接続することなく、ダウンロードした Crystal レポートを表示することができます。

SAP Crystal Reports Viewer 2020 はコンピュータに自動的にインストールされます。SAP Crystal Reports viewer 2011 を使用して、次のタスクを実行できます。

- レポートの印刷またはエクスポート
- レポートの保存
- 表示するデータの選択
- レポート内のデータのドリルダウン
- 複数のレポートの表示

SAP Crystal Reports Viewer 2020 は、BI ランチパッドの Crystal レポートビューアと同様に機能します。SAP Crystal Reports Viewer 2020 の詳細については、SAP Crystal Reports Viewer 2020 ヘルプを参照してください。

15.3.1.1.3.1 Crystal Reports viewer 2020 のインストール

Crystal Reports viewer 2020 をインストールすると、クライアントソフトウェアビューアとしてコンピュータに常駐します。

この作業は、www.sap.com Web サイトの英語版にのみあてはまります。

1. ブラウザで <http://www.sap.com/solutions> に移動します。
2. Web ページの **Search** ボックスで、**Crystal Reports Viewer** を検索します。
3. 検索結果で、**SAP Crystal Reports Viewer** という最初の結果をダブルクリックします。
SAP Crystal Reports viewer の Web ページが表示され、ページの右側に **[Download Now]** リンクが表示されます。
4. SAP Crystal Reports viewer 2020 インストールプログラムをダウンロードして実行します。
5. 画面の指示に従ってデフォルト値を使用します。
6. **Finish** をクリックします。

SAP Crystal Reports viewer 2020 は、コンピュータで Crystal レポート (.rpt) ファイルをダブルクリックすると開きます。ただし、SAP Crystal Reports がコンピュータにインストールされている場合、SAP Crystal Reports viewer 2020 よりも優先され、デフォルトで SAP Crystal Reports にレポートが表示されます。

15.3.1.1.3.2 Crystal Reports viewer 2020 ツールバー

ツールバーのオプション	説明
	Crystal レポートをローカルコンピュータまたはネットワーク上の場所にエクスポートする場合にクリックします。
	Crystal レポートを印刷する場合にクリックします。
	Crystal レポート内のデータ間を移動するときに使用するグループツリーを表示するか、非表示にする場合にクリックします。
	クリックすると Crystal レポート内の前のページに移動し、  をクリックすると次のページに移動します。リストで [最初のページへ] および [最後のページへ] を選択すると、レポート内の最初のページまたは最後のページに移動します。ボックスにページ番号を入力すると、そのページに移動します。
	Crystal レポートを最新表示し、レポートのデータソースから最新のデータを取得する場合にクリックします。
	ボックスにテキストを入力し、  をクリックすると、Crystal レポート内のそのテキストを検索します。
	リストでパーセントを選択し、そのパーセントで Crystal レポート内のテキストを拡大または縮小します。

15.3.1.2 Crystal レポートビューアでグループツリーを開く

グループツリーを使用して、Crystal レポートのデータ内を移動します。

Web ビューアの左側にある  をクリックします。




15.3.1.3 Crystal レポートでのデータのドリル

Crystal レポートでドリルを行うと、チャートと集計したグループの下位にあるデータを表示できます。

Crystal レポートビューアで、レポート内のリンクをダブルクリックします。



15.3.1.4 Web ビューアでの Crystal レポートのパラメータの表示および編集

Web ビューアを使用して Crystal レポートのパラメータの表示と編集を行う必要があります。

1. 表示する Crystal レポートを探し、選択します。
2.  **表示**  を選択します。
3. レポート値を入力するよう指示された場合は、値を入力します。
レポートを表示する前に、レポート値を入力する必要があります。
4. 表示するデータを選択し、**OK** をクリックします。
5. レポートでアクセスするパラメータを選択するには、 をクリックします。
パラメータパネルには、レポートパラメータが表示されます。
6. パラメータを選択します。
7. パラメータ値を編集するには、次のいずれかを行います。
 - パラメータパネルに、新しい値を入力します。
 - **>** をクリックして編集ダイアログボックスを開き、新しい値を入力して **OK** をクリックします。
8. 必要に応じて、残りのパラメータを編集します。
9. 新規のパラメータ値が適用されたレポートを表示するには、**[適用]** をクリックします。

15.3.1.5 Crystal レポートでのアラート表示

セントラル管理コンソール (CMC) で、Crystal レポートのアラートを表示することができます。

1. CMC の **フォルダ管理** エリアを表示します。
2. 表示する Crystal レポートが含まれるフォルダまたはカテゴリを見つけて、オブジェクトを選択します。
3.  **その他のアクション**  を選択します。
アラート ダイアログボックスには、アラートを生成したインスタンスが表示されます。
4. インスタンスタイトルをダブルクリックしてインスタンスを開きます。


15.3.1.6 Crystal レポートの印刷

Crystal レポートの成功したインスタンスおよびオンデマンドで表示したレポートの成功したインスタンスを印刷できます。

使用している Crystal レポートビューアに応じて、このタスクの手順が異なる可能性があります。ただし、レポートの印刷に関する一般的な手順は同じです。画面に手順が表示される場合は、このタスクを実行するのではなく、画面の手順に従ってください。

① 注記


ページの方向は、レポートの設計者が選択します。**[印刷]** ダイアログボックスでは変更できません。

1. 印刷するドキュメントを開きます。
2. ビューアツールバーで  をクリックします
3. 印刷ダイアログボックスの印刷範囲で、すべてを選択するか、印刷するページ範囲を入力します。
4. 部数で、印刷する部数を入力します。
ページを番号順で印刷する場合は、[部単位で印刷] チェックボックスをオンにします。たとえば、4 ページのレポートを 2 部印刷する場合、まず 1 部目の 1、2、3、4 ページを印刷してから、2 部目の 1、2、3、4 ページを印刷します。
5. [用紙] で、用紙サイズと給紙方法オプションを選択します。
6. Crystal レポートの幅が広いが、1 ページに印刷する必要がある場合は、[オプション] で、[横方向のページを 1 ページに合わせる] をクリックします。
7. Crystal レポートに埋め込まれた Flash オブジェクトを印刷するには、現在のページの Flash オブジェクトを印刷するを選択します。
8. OK をクリックします。

15.3.1.7 Crystal Reports のエクスポート

Crystal レポートの成功したインスタンスおよびオンデマンドで表示したレポートの成功したインスタンスを複数の形式にエクスポートできます。

ドリルダウンできるレポートでは、ドリルダウンしたビューをエクスポートします。たとえば、売上動向の予測データを Excel スプレッドシートにエクスポートしてから、営業チームに電子メールで送信することができます。

1. 表示する Crystal レポートを開きます。
2. ビューアツールバーで、 をクリックします。
3. エクスポートダイアログボックスのファイル形式リストで、Crystal レポートをエクスポートするファイル形式を選択します。
4. ページ範囲で、すべてのページを選択するか、エクスポートするページの範囲を入力します。
5. [エクスポート] をクリックします。
 - 新しい Fiori ビューアでは、BI 管理者が必要な設定を行うことにより、任意の形式でレポートを Google ドライブまたは Microsoft OneDrive に直接エクスポートすることもできます。たとえば、[エクスポート先] 一覧で [Microsoft OneDrive] を選択し、[参照] をクリックして、クラウドドライブのターゲットフォルダを選択します。
 - 有効な認可トークンがまだ利用可能ではない場合、認証を求められます。認可サーバの設定 - SAP Help Portal およびアカウントの管理 - SAP Help Portal を参照してください。

15.3.1.7.1 エクスポート形式のオプション



Crystal レポートは以下のファイル形式にエクスポートできます。

.rpt 以外のファイル形式に Crystal レポートをエクスポートすると、レポートの書式設定の一部またはすべてが失われる場合があります。BI ランチパッドでは、各エクスポート形式で再現できるだけの書式設定が維持されます。

Flash オブジェクトは、Crystal レポート形式 (.rpt または .rptr) または .pdf にエクスポートした場合にのみ表示されます。それ以外のすべての形式にエクスポートした場合は、代替イメージが表示されます。Crystal レポートを特定の形式にスケジュールする方法については、*SAP Crystal Reports 2020 ユーザガイド*のエクスポートに関する情報を参照してください。

ファイル形式	説明
<i>Crystal Reports</i>	.rpt 形式。ドリルダウンビューからこのファイル形式にエクスポートすることはできません。
<i>Crystal Reports (RPTR)</i>	.rptr 形式。この読み取り専用ファイル形式では、元の Crystal レポートの外観を維持しようとします。
<i>Microsoft Excel (XLSX)</i>	.xlsx 形式
<i>Microsoft Excel - データのみ (XLSX)</i>	.xlsx 形式このファイル形式はデータのみです。
<i>Microsoft Excel (XLS)</i>	.xls 形式
<i>Microsoft Excel - データのみ (XLS)</i>	.xls 形式。このファイル形式はデータのみです。
<i>Microsoft Word (RTF)</i>	.rtf 形式
<i>PDF</i>	.pdf 形式パスワード保護オプションは、 <i>Crystal Reports Fiori ビューア</i> からのエクスポート時に利用できます。
<i>リッチテキスト形式 (RTF)</i>	.rtf 形式。このファイル形式は、Web ビューアでのみ表示できます。
<i>Microsoft Word - 編集可能 (RTF)</i>	.rtf 形式。このファイル形式で維持される書式設定は、 <i>Microsoft Word (RTF)</i> 形式よりも少なくなります。テキストは行内に表示され、イメージはテキストと共に行内に配置されます。
<i>カンマ区切り値 (CSV)</i>	.csv 形式
<i>XML</i>	.xml 形式

15.3.1.8 Crystal レポートのデータの対話型並べ替え

1. インタラクティブソートを使用する Crystal レポートを開きます。
2. 並べ替えで使用する値を選択します。
3. 矢印をクリックして、レポート内のデータを並べ替えます。
 - データを昇順で並べ替えるには、 をクリックします。
 - データを降順で並べ替えるには、 をクリックします。

15.3.2 Crystal Reports for Enterprise の起動

BI ランチパッドのホームページから Crystal Reports for Enterprise デザイナを起動する方法は 2 つあります。

1. ホームページでの [\[アプリケーション\]](#) グループへのアクセス
2. Crystal レポートに対する [\[変更\]](#) アクションの実行

BILP ホームページでの [\[アプリケーション\]](#) グループへのアクセス

アプリケーショングループを使用して、SAP Crystal Reports for Enterprise を起動できます。

1. ホームページで、[\[アプリケーション\]](#) グループに移動します。
2. アプリケーションの中から、[\[Crystal Reports for Enterprise\]](#) を選択します。

[\[Crystal Reports for Enterprise デザイナ\]](#) ページが表示されます。また、[LaunchCRDesigner*.bclp](#) ファイルが自動的にダウンロードされます。

① 注記

ファイルがすぐにダウンロードされない場合は、以下の手順に従います。

- ページ上のダウンロード可能なファイルのハイパーリンクをクリックします。
- ダイアログボックスにオプション [\[開く\]](#) または [\[保存\]](#) が表示されている場合は、[\[開く\]](#) をクリックします。
- このダウンロードがブラウザによってブロックされる場合は、ブラウザのセキュリティ設定を調整するか、ローカルシステム管理者に連絡してください。

3. [LaunchCRDesigner*.bclp](#) ファイルを開き、[Crystal Reports for Enterprise デザイナ](#)を起動します。

15.3.2.1 ホームページでのアプリケーションタイルグループへのアクセス

BI ランチパッドでアプリケーショングループを使用して、SAP Crystal Reports for Enterprise を起動できます。

1. ホームページで、[\[アプリケーション\]](#) タイルグループに移動します。
2. アプリケーションの中から [\[Crystal Reports for Enterprise\]](#) を選択します。

[\[Crystal Report for Enterprise Designer\]](#) ページが表示されます。また、[LaunchCRDesigner*.bclp](#) ファイルが自動的にダウンロードされます。

① 注記

ファイルがすぐにダウンロードされない場合は、以下の手順に従います。

- ページ上のダウンロード可能なファイルのハイパーリンクをクリックします。
- ダイアログボックスにオプション [\[開く\]](#) または [\[保存\]](#) が表示されている場合は、[\[開く\]](#) をクリックします。
- このダウンロードがブラウザによってブロックされる場合は、ブラウザのセキュリティ設定を調整するか、ローカルシステム管理者に連絡してください。

3. [LaunchCRDesigner*.bclp](#) ファイルを開き、SAP Crystal Reports for Enterprise デザイナを起動します。

15.3.2.2 Crystal Reports レポートでのアクションの変更

目的の Crystal Reports レポートに対して [変更] アクションを選択することによって SAP Crystal Reports for Enterprise を起動することもできます。

1. BI ラUNCHパッドの [ホーム] グループで、[ドキュメント] タイルに移動します。
2. 目的の Crystal Reports レポートに対して、*** をクリックして [変更] を選択します。

これにより、SAP Crystal Reports for Enterprise Designer が起動します。選択した Crystal Reports レポートのパラメータを編集できます。




起動すると、SAP Crystal Reports for Enterprise が現在の BI ラUNCHパッドユーザ認証情報で BOE にログインします。

15.4 BI ラUNCHパッドでの BEx Web アプリケーション

Business Warehouse (BW) の Business Explorer (BEx) に含まれる BEx Web アプリケーションは、データ分析、レポートング、および分析の各タスクに使用できます。

BEx は SAP Business Intelligence Suite の一部で、ビジネスにおける戦略的な意思決定をサポートする柔軟なレポートング機能と、クエリツール、レポートングツール、分析ツールを提供します。アクセス権を持つ従業員は、BEx Web アプリケーションを使用して、Web 上および Microsoft Excel にある履歴データや現在のデータを、さまざまな詳細レベルでさまざまな角度から評価することができます。ユーザは、SAP Enterprise Portal、または BI プラットフォームの BI ラUNCHパッドからデータにアクセスできます。

BI ラUNCHパッドから BEx Web アプリケーションを開くには、システム管理者がプラットフォームサーバ設定、および BW システムへの接続設定を行う必要があります。BEx Web アプリケーションの作成者は、Web 項目 (分析、フィルタペイン、チャート、マップ、ドキュメントなど) を使用して、BEx Web Application Designer で SAP BW から取得したデータを書式設定します。プラットフォームサーバ設定と BW システムへの接続設定が完了したら、ユーザはラUNCHパッドで BEx Web アプリケーションを開いてデータをナビゲートし、BEx Web アプリケーションのナビゲート状態をブックマークとしてブラウザのお気に入り保存できます。

BEx Web アプリケーションの機能の詳細については、SAP ヘルプポータル (<http://help.sap.com>) にアクセスし、 **SAP NetWeaver**  **SAP NetWeaver**  を選択します。

15.4.1 BI ラUNCHパッドにおける BEx Web アプリケーションへのアクセス

① 注記

インフォメーションブロードキャストは、SAP NetWeaver ランドスケープで実行されている BEx Web アプリケーションでのみ使用でき、BI ラUNCHパッドまたは BI プラットフォームでは使用できません。インフォメーションブロードキャストには、Enterprise Portal やナレッジマネジメントなどの SAP NetWeaver コンポーネントが必要です。

1. BI ラウンチパッドにログインします。
2. [ホーム] ページで、[アプリケーション] タブをクリックして [BEx Web アプリケーション] を選択します。
3. NetWeaver Business Warehouse (BW) システムにログインします。
4. [開く] ダイアログボックスで、BEx Web テンプレートを選択します。
データソースが BW マスタシステムに格納されている BEx Web テンプレートだけを選択できます。システム管理者は、BI プラットフォームで BW マスタシステムとして設定する BW システムを定義します。

BEx Web アプリケーションが開き、そこにあるデータをナビゲートできるようになります。

15.4.2 BEx Web アプリケーションをブックマークとして保存

ブックマークを作成する前に、後でできるようにブックマークする BEx ナビゲート状態を選択します。決定するには、BI ラウンチパッドの [BEx] タブでデータにナビゲートしてナビゲート状態を選択します。

1. BEx Web アプリケーションのコンテキストメニューで、▶ 配布およびエクスポート ▶ ブックマーク ▢ を選択します。

Bookmark オプションは BEx の設定によっては、コンテキストメニュー内で、またはボタンとして使用できることがあります。



2. ブラウザのお気に入りフォルダに、BEx Web アプリケーションを保存します。

BW システムにログインした後に、お気に入りに保存した BEx ブックマークにアクセスしたり、ほかのユーザにリンクとして送信したりすることができます。BEx Web Application Designer、Web 項目、および Web Design API コマンドの詳細については、SAP ヘルプポータル <http://help.sap.com> にアクセスし、*SAP NetWeaver* をクリックします。

重要免責事項および法的情報

ハイパーリンク

リンクの一部は、アイコンやマウスオーバーテキストで分類されています。これらのリンクから、追加の情報を得ることができます。アイコンについて。

-  このアイコンが付いたリンク: SAP がホストしているものではない Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り) 以下のことに同意することになります。
 - リンク先のサイトのコンテンツが SAP のドキュメンテーションではないこと。お客様は、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできません。
 - SAP が、リンク先のサイトのコンテンツについて同意することも反対することもなく、また SAP がその利用可能性や正確性について保証しないこと。SAP は、かかるコンテンツの使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。
-  このアイコンが付いたリンク: 当該の特定の SAP 製品又はサービスのドキュメンテーションから離れ、SAP がホストしている Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り)、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできないことに同意します。

外部プラットフォームでホストされているビデオ

一部のビデオは、サードパーティのビデオホスティングプラットフォームに置かれている場合があります。SAP では、これらのプラットフォームに保存されているビデオが将来にわたって利用できると保証することはできません。また、これらのプラットフォームにホストされている、いかなる広告またはその他のコンテンツ (関連ビデオまたは同じサイトでホストされている別のビデオに移動する場合など) については、SAP の管理外であり責任を負いません。

ベータおよびその他の試験的機能

試験的機能は、SAP が将来のリリースを保証する正式に提供される機能の範囲外です。これは、試験的機能は、SAP により通知なく理由の如何を問わず随時変更される場合があることを意味します。試験的機能は、本稼働使用のためのものではありません。お客様は、試験的機能を実際の運用環境で、又は十分なバックアップがとられていないデータとともに、デモンストレーション、テスト、試験、評価その他の方法で使用してはなりません。

試験的機能の目的は、早期にフィードバックを得ることで、それに応じて顧客の皆様やパートナーが将来の製品に影響を与えることを可能にすることです。SAP コミュニティなどにおいてフィードバックを提供することで、お客様は、投稿物や二次的著作物の知的財産権が SAP の独占的所有物であり続けることを承認することになります。

コード例

ソフトウェアのコーディングやコードスニペットはすべて、例です。それらは、本稼働使用のためのものではありません。コード例は、構文や表現規則を分かりやすく説明し視覚化することのみを目的としています。SAP は、コード例の正確性や完全性について保証しません。SAP は、コード例の使用により発生した過誤や損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、損害に対して一切責任を負いません。

偏見のない表現

SAP は、ダイバーシティ & インクルージョンの文化を支持しています。SAP の文書では、可能な限り、文化、民族性、ジェンダー、および障がいの有無を問わず、すべての人々に対する偏見を伴わない表現を採用します。

© 2024 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。

SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE（又は SAP の関連会社）の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他のすべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する詳細の情報や通知については、<https://www.sap.com/japan/about/legal/trademark.html> をご覧ください。